

教師用マニュアル

イツツ・マイ・チョイス

It's my choice

私の選択

子ども用
バプテスマ
ガイド

スティーブ&マリット・ケース

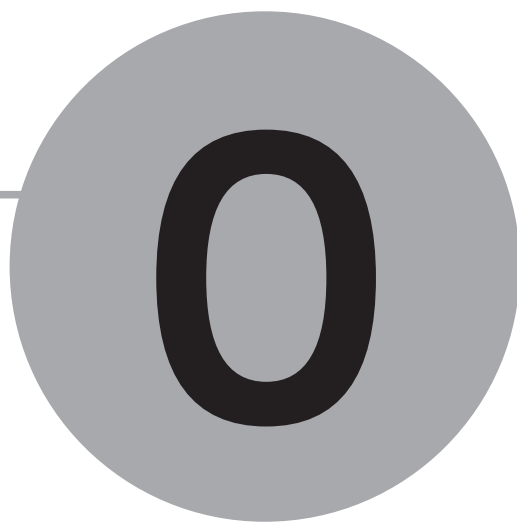
c o n t e n t s

はじめに…	4
はじめに…	5
『It's My Choice 私の選択 生徒用ワークブック』の使い方…	9
バプテスマを受ける準備ができたと思う	12
必要な道具のマスターリスト	24
若者は、いかに思考するか？	26
霊的発達ステージ	27
1. 成功 ～救い	29
バプテスマガイド1 概要	30
バプテスマガイド1 要点	31
バプテスマガイド1 内容	32
2. 驚き ～創造と安息日	39
バプテスマガイド2 概要	40
バプテスマガイド2 要点	41
バプテスマガイド2 内容	42
3. 始まり ～イエス様の再臨	50
バプテスマガイド3 概要	51
バプテスマガイド3 要点	52
バプテスマガイド3 内容	53
4. 探し求める ～聖所	60
バプテスマガイド4 概要	61
バプテスマガイド4 要点	62
バプテスマガイド4 内容	63
5. スペシャル ～霊的な生活	72
バプテスマガイド5 概要	73
バプテスマガイド5 要点	74
バプテスマガイド5 内容	75

6. 与える～霊的な賜物	83
バプテスマガイド6 概要	84
バプテスマガイド6 要点	85
バプテスマガイド6 内容	86
7. 眠り～あなたが死んだあとに、何が起こるのか	93
バプテスマガイド7 概要	94
バプテスマガイド7 要点	95
バプテスマガイド7 内容	96
8. 輝け～あなたの基準	104
バプテスマガイド8 概要	105
バプテスマガイド8 要点	106
バプテスマガイド8 内容	107
9. 叫べ～三天使のメッセージ	118
バプテスマガイド9 概要	119
バプテスマガイド9 要点	120
バプテスマガイド9 内容	121
10. 象徴／シンボル～バプテスマと洗足式	129
バプテスマガイド10 概要	130
バプテスマガイド10 要点	131
バプテスマガイド10 内容	132
11. バプテスマの誓約と契約	141
バプテスマガイド バプテスマの誓約のために	142
バプテスマの誓約	144
バプテスマの誓約（ジュニア用）	146
契約	147
バプテスマの契約～神様と私と友達との契約	148
バプテスマ式	149
メンタリングの必要性	153

イツツ・マイ・チョイス
It's my choice

私の選択



はじめに…





はじめに…

セブンスデー・アドベンチスト教会で、何十年にもわたり若い人たちをバプテスマへと備えさせてきた経験から、私たちは確信するようになりました。だれかが用意したバイブルスタディを集めたものよりも、一人ひとりに合わせて行われる個人的な聖書研究のほうが、より確実に心に届くということです。自分自身から生まれた学びは、機械的で味気ないものではなく、個人的で生きたものとなります。

しかし一方で、最初からすべてを一から作り直すのではなく、よい出発点が必要な場合もありますし、自分専用の学びを作るには時間がかかりすぎることもあります。私たちは、牧師や教師、保護者、さらには若い人たち自身でさえも、これらのバプテスマ準備の教材を用いて、他の人をバプテスマへと導く備えができていたことを見てきました。そしてその過程は、聖書研究を導く側の人にとっても、学びを新しい形で自分の内に深く根づかせる助けとなるのです。

このバプテスマ準備の聖書研究が生まれた背景

この特別な聖書研究シリーズを作成する原動力となったのは、10～15歳の子ども・思春期の若者に年齢的にふさわしい聖書研究が不足している、という現実でした。北米のセブンスデー・アドベンチスト教会で育った人の多くがバプテスマを受けるのは、この年齢層だからです。

大人は「子どもは大人と同じようには考えない」ということ自体は理解しています。しかし、子どもがどのように考えているのかという思考のプロセスを、実際には十分に理解していない場合が少なくありません。その結果、大人向けに書かれた聖書研究をそのまま用い、それを「簡単にすればよい」と考えてしまいがちです。語彙をやさしくし、物語を付け加えれば、子どもも大人向けの概念を理解できるだろう、と考えるのです。

しかし実際には、子どもの脳の発達段階や認知能力そのものが、聖書研究の形を左右する必要があります。とりわけ、10歳から12歳の発達段階にある子どもたちの特徴を生かした内容にすることが、理想的だと言えるでしょう。

まずは芽から……

これらの学びは、若い人たちに対する全体的な信仰教育の中の一部にすぎない、という前提に基づいています。一般的によく知られている聖書物語をまだ十分に知らない生徒には、これらの聖書研究を始める前に、基礎的な背景説明が必要な場合もあるでしょう。また、各学びでは自分の聖書を使って5か所の聖句を調べるため、聖書の箇所を自分で探せる力があることも、大切な前提条件となります。生徒の信仰的背景を補い、全体としての理解を深めるために、必要に応じて追加の教材を用いることもできます。

教会に通う多くの子どもたちは、家庭での信仰教育によって豊かな霊的基盤を築いています。また、

安息日学校や教会活動に何年もの間、参加してきた子どもたちもいます。さらに、セブンスデー・アドベンチストの学校に通うことで、より深い学びを受けている場合もあります。そのような子どもたちにとって、バプテスマは霊的成長のさらなる一歩であり、ごく自然なことです。「初めに芽、つぎに穂、つぎに穂の中に豊かな実ができる」(マルコによる福音書 4 章 28 節 口語訳)。

霊的成長は、バプテスマの後も続けていく必要があります。これはすべての年齢層に当てはまることです。霊的に成長し続けるための教材は、インターネットで探したり、牧師や他の霊的指導者に尋ねたりすることができます。もし教会が、若い人たちの成長段階に合わせた、継続的な霊的育成を大切にしないのであれば、10代初期の子どもにバプテスマを授けることは見切り発車であり、無責任な取り組みになってしまいます。

この全 10 課のシリーズでは、セブンスデー・アドベンチスト教会の 28 の基本信条(『信仰の大要』)と 13 の『バプテスマの誓約』を扱い、主に 11 ～ 15 歳の理解力を想定して構成されています。しかし、私たちは、それより年上の人たちにとっても、これらの学びが有益であることを見いだしてきました。学ぶ人が成長するにつれて、その受け取りの深さや理解の段階に応じ、さらに深い意味を求める追加の聖書研究が提供されるべきでしょう。

使用する聖書翻訳は、大きな違いをもたらします。生徒たちが理解できる訳を選んでください。実は大人であっても、ある翻訳の言葉遣いが難しく感じられることがあります。多くの翻訳は、高校生以上の読解力を必要とします。対象となる年齢層の読解レベルはどの程度でしょうか。理解できない言葉で神さまのメッセージを伝える理由があるでしょうか。そのため、読み取った内容をただ正しく発音するだけでなく、意味を理解できるようにするために、最初に一定の費用をかけて聖書を用意する必要が生じることもあります。

体験学習のツール

各学びには、生徒が自分の言葉で言い換えるための聖書箇所が 5 つ含まれています。これは非常に難しい課題になることがあります。若い学習者が、単に聖句を読むだけで終わらず、その意味を実際に理解できるようになるまで、忍耐強く助けてください。この力を養うために費やされる努力は、これらの学び全体の中で得られる他のどんな学びよりも価値が高いかもしれませんし、将来にわたって役立つ大切な土台となります。必ず、この活動を毎回の学びに含めてください。私たちの経験では、11 歳未満でこの重要なスキルを身につけられる人はほとんどいません。

これらの学びに含まれている多くのイラストや例は、実際の実演を伴うことを想定しています。これは、このカリキュラムの重要な要素であり、若い人たちの認知発達段階に沿って理解を助けるものです。具体的に考える段階にある子どもたちは、「なるほど」と理解するために、実際に触れられる物や体験を必要とします。このような学びの過程は、「アクティブ・ラーニング(能動的学習)」とも呼ばれてきました。これは、ただ座って先生の話聞くのではなく、学びに関連した活動そのものを行うことを求めます。こうした実演には、事前の準備や、時には指導者側の経済的な負担が必要になることもありますが、生徒の理解を大きく深め、学びをより印象深いものにしてくれます。これらの実演は、見つけやすいように本文とは別の囲み枠で示されています。もちろん、このガイドで提案されている活動の代わりに、ご自身で考えた活動を用いてもかまいません。しかし、ぜひ「活動」を取

り入れてください。大人にとっては必ずしも必要でない場合があっても、若い人たちにとっては不可欠なものです。

各セッションには複数の活動が含まれていますが、すべてを行うには時間と準備が必要です。その場合は、一つだけ選び、参加者がそれを十分に体験できるようにするとよいでしょう。実際に行わず、具体的な実演について「話すだけ」で安易に済ませてしまいたくなる気持ちもわかりますが、できるだけ抗ってください。全課の体験型学習に必要な備品として、一人なら約3,000円、15～20人のグループの場合は約15,000円の予算を確保することをおすすめします（\$1 = ¥150の場合）。

牧師のジョン・シクル、メリッサ・ハウエル、ベンジ・ファーガソンの各氏が、ご自身のアイデアや活動を分かち合ってくださいことに感謝します。一つの課では使い切れないほど多くの活動が用意されていますので、短い礼拝やディボーションなど、別の場面でも活用することができます。そうすることで、すでに行った教えをさらに定着させる助けとなるでしょう。

独りでなく、チームで

本教材を用いるバプテスマ準備クラス（以後「バプテスマクラス」）に参加する子どもが、アドベンチスト教育機関に通う場合、指導者はバプテスマクラスでの学びがより一層深まる活動を学校でも行ってもらえるよう、学級担任や教科担当に相談し、協力を要請することが大切です。例えばバプテスマクラスの次の日に、図画工作の授業で、前日学んだ「天国」の絵を描く、学級会で「天国」についてディスカッションをするなどが考えられます。

また、若い魂の霊的成長において、家庭の果たす役割は重要です。各レッスンには「家族で話そうシート」が含まれています。指導者は子どもがそのシートを家庭に持ち帰り、書かれているディスカッションテーマに基づいて保護者と話し合う時間を持てるよう促してください。今までどのような霊的成長を遂げたか、またどのように信仰を形成したかを共有することは家族にとっても大切な機会です。

これらの学びを終え、バプテスマを受けることを選んだ人には、指導者を自宅に招くことをおすすめします。これは、家庭とバプテスマ準備の指導者とのつながりを深めるためです。たとえ生徒が学校でのバプテスマ学習グループの一員であったとしても、この点は同様です。このような場では、バプテスマに先立つ誓約に焦点を当てることができます。この10～15歳の子どもたちにとってのバプテスマは、信仰の歩みにおける一つの大切な節目であり、家庭で積み重ねられてきた経験から切り離されたものではなく、その延長として理解されるべきです。家族の他の一人ひとりもまた、この節目をともに受けとめ、自分自身のバプテスマの誓いを新たにしたり、将来受ける自分のバプテスマを思い描いたりする機会とすることができます。

内容は？

「理解に至るプロセス」は、この聖書研究のユニークな点です。神学的立場はセブンスデー・アドベンチスト教会のものであり、新しい神学を打ち出すものでもなければ、聖所の教えといったアドベンチスト特有の教えを意図的に避けるものでもありません。

・創造（安息日を含む）は、文字どおりの七日間の出来事として扱われています。

- ・ 什一の教理では、「倉」を教会と理解しています。

- ・ 「預言の霊」は霊的賜物の教えの一部として位置づけられており、終わりの時代の神の民にその証しが見られることを、特に強調しています。

- ・ 三天使のメッセージは、この年齢層にふさわしい形で十分に扱われています。

聖書を教える人はそれぞれ、聖書の真理を独自の仕方提示しています。そのため、だれもがこの学びの中に、何らかの見解の違いを見いだす可能性があるでしょう。そのような点に出会った場合には、ご自身の理解や立場に合うように学びを調整してください。実際、私たち自身も、具体的な状況に応じてこれらの学びを調整して用いています。とはいえ、これらの教材は、聖書そのものではなく、あくまで「聖書研究のための道具」として使っていただくことを期待しています。

皆さんがご自身なりにこの教材を用いて人々を聖書へと導き、聖書の中で彼らがイエス・キリストを発見し、理解し、受け入れ、キリストとの関係の中で永遠のいのちを見いだすことができますように——それが私たちの祈りです。



『It's My Choice 私の選択 生徒用ワークブック』の使い方

『It's My Choice 私の選択 生徒用ワークブック』は『It's My Choice 私の選択 教師用マニュアル』の付属教材であり、10～15歳の子ども・若者向けに年齢に配慮して作成された、全10課からなる聖書研究シリーズとともに用います。

10課それぞれには、次の3種類のシートで構成されています。

- ・「聖句シート」
- ・「ワークシート」
- ・「家族で話そうシート」

言い換える力を身につけることは難しいですが、 生涯を支える大切なスキルです

聖句シート

このシートには、その学びで用いられる5つの聖書箇所が示されています。聖書の言葉をすぐに暗記できる人もいますし、間違えずに聖句を読むことができると達成感を覚える人もいます。しかし、「それはどういう意味か」と尋ねると、実はよく分かっておらず、そのことが表情に表れてしまう場合も少なくありません。

この「言い換え」の目的は、聖句を**自分の言葉に置き換える**ことで、一つ一つのみ言葉の意味を理解できるように助けることにあります。次の段階は、学びつつある聖書の真理を、自分自身の生活にどのように当てはめるかを考えることです。

教師や保護者には、子どもたちがこの思考力を身につけられるよう、いくつか例を示して考えを広げる手助けをすることをおすすめします。

学校で行う場合には、教師がバプテスマ準備の学びに入る前に、あらかじめ5つの聖書箇所の内容を扱っておくことで、生徒は本番の学びに備えることができます。家庭でも、保護者が同じように事前に子どもと一緒に取り組むことができます。

なお、適用を考える際には、「ほかの人に当てはめる」よりも、自分自身への適用を第一に重視してください。

「私にとっては……」という言い方が信仰の基本を伝えられる

伝える人は、み言葉を「私にとっては……」と、今の自分にとっての意味として、素直に、しかし発言に責任をもって表しましょう。このような言い方で話し始めることで、霊的な成長には柔軟性が不可欠であること、また教師や保護者自身も、神がその時々に応じて導いておられること、そして信仰の基本とは、そのみ声に従うことを選び続ける歩みであるのだということを伝えることができます。バプテスマの学びは、生涯にわたって続く、神との関係の築き方をも伝えることになるでしょう。

ワークシート

ワークシートには、各レッスンに関連する質問や課題が書かれています。これらの質問は考える力を促し、グループでのディスカッションや分かち合いのための材料を提供することを目的として作られています。セッションによっては、ワークシートが1ページ以上にわたる場合もあります。

本来はバプテスマクラスでの使用を想定していますが、これらのテーマを教会や学校のクラスで、また家庭礼拝の中で話し合うことは、大きな益となるでしょう。

本当に学びを自分のものにしたいなら、 家庭でこのテーマについて話し合いを続けてください

家族で話そうシート

家族で話し合うための七つの質問は、それぞれの学びについて、家族一人ひとりが気づきや考え、信仰や確信を分かち合う機会を提供します。これは、すでにバプテスマを受けている年長の子どもたちが、信仰と理解をさらに深めながら成長していくための助けとなります。また、将来自分自身がバプテスマを受けることを思い描きつつ歩む、年少の子どもたちにとっては、信仰の種をまく機会ともなります。さらに、これは大人が自分自身の信仰の歩みを子どもと分かち合うための、すばらしい場でもあります。その分かち合いには、現在の理解だけでなく、自分が子どもの頃にどのように感じ、何を学んだかという振り返りも含まれます。

家族で話そうシートは、家族で神との個人的な関係から感じたこと、経験したこと、望んでいることを分かち合うためのものであり、バプテスマを控えた子どもを問い詰めたり、試すためのものではありません。これらの質問をきっかけに、家族でさらに多くの霊的なテーマについて互いに心を通わせ、対話するための道具です。毎回なんとなく話し合いを始めるのではなく、事前に話し合うテーマを把握し、それぞれが良く考えてから話し合いに臨むよう工夫してみてください。各シートには、そのテーマに沿って、参加者が独自の質問やコメントを書き加えられる欄も設けられています。

若い人たちの信仰と献身は、保護者が信仰について語るのを聞くと、大きく励まされ、強められます。さらに、子ども自身が保護者と信仰について語り合うとき、その影響は一層深まります。そして最も大きな影響が生まれるのは、保護者と子どもがともに、これらのテーマについて霊的な対話を重ねるときです。

霊的対話のヒント

ぜひ、「うんうん」「それで?」「あなたはそう思ったんだね」「それは大切な気づきだったね(おもしろい考えだね!)」など、そのままをその人の思いとして受け止めてあげてください。聞いてもらった人は聞く人に育っていきます。つい子どもに求めるものがあると、次に何を言おうか考えて話を聞いてしまいがちですが、内容が支離滅裂でも、たとえアドベンチストの教理から全く外れたものだったとしても、「そのまま」をまず聞いてあげてください。「わたしはこう感じたよ」「わたしはこんな経験があったよ」とこちらが話し始めれば、神の前に対等な立場で、それぞれの考えや感じたことを受け入れ合うことができます。

バプテスマの誓約（ジュニア用）

教会の公式なバプテスマの誓約は、長年にわたって、一語一語の表現や用い方に細心の注意を払いながら整えられてきました。しかし、多くの子どもたちにとっては、このように正確で専門的な言葉遣いを理解することが難しいのが現実です。

若い人たちへの牧会の働きの中で、さまざまな年齢の多くのバプテスマ志願者に対し、誓約を言い換えて伝える必要性を何十年にもわたって感じてきた結果、(スティーブ) はついに、簡略化した誓約文を書き記しました。これらの誓約を検討し、貴重な助言や修正を加えてくださった多くの牧師の方々に、心から感謝いたします。

なお、これらは教会によって正式に承認（採択）されたバプテスマ誓約ではないことをご理解ください。本教材に掲載しているのは、この聖書研究が若い人たちを対象としているからです。理解と成長を促すために、公式の誓約とジュニア用の誓約を並べて学ぶことをおすすめします。

これらの学びを通して、バプテスマを決心する多くの若い人たちが、自らの献身の意味をしっかりと理解できますように。また、思春期を迎え、その先の歩みにおいても、信仰において成長し続けることができますように ————それが私たちの祈りです。

メンタリング（伴走による支え）

バプテスマの準備期間中、志願者はバプテスマの日そのものに加えて、多くの関心と関わりを受けます。しかし、その後に関わりが急に減ってしまうことが少なくありません。バプテスマを受けた一人ひとりが、霊的なメンター（伴走者）と確実につながることができるよう、ぜひその後まで継続して関わってください。

本書の巻末には、そのための説明に加え、メンターとメンティーの双方が署名するための証明書も用意されています。



バプテスマを受けたいな…

不安を抱えた A 君の保護者があなたのもとを訪れます。「牧師先生、どうか息子に会っていただけませんか。そろそろバプテスマを受ける時期だと思うのです。もうすぐ思春期に入りますし、今受けなければ、もしかしたら一生受けないのではないかと心配で……。バプテスマが、荒れ動く思春期を乗り越えるための“^{いかり}錨”になってほしいのです。」

三回目のバプテスマクラスに参加している B さんは、特に小預言書や書簡になると、聖書の箇所をうまく探せないことがあります。本文を読むこと自体にはほとんど困らないのですが、それを自分の言葉で言い換えるよう求められると、途端に言葉が出てきません。それでも彼女は「イエス様が大好きで、バプテスマを受けたい」と話します。

C さんは、誓約の一つ一つのあとで「はい、誓います」と答える準備をしながら、あなたの表情をじっと見つめています。けれども、彼女は本当にバプテスマを受ける準備ができているのでしょうか。それとも、適切な答えと、その答えを口にするタイミングを知っているだけなのでしょう。

多くの牧師が、このような状況を経験したことがあるはずで、そして、どのような判断を下したとしても、私たちはしばしば小さな罪責感を抱き、「次こそはもっとよく対処しよう」と心に誓います。しかし次の機会は、十分に考える暇もないまま訪れ、牧師としての罪責感という「倉」には、また一つの捧げ物が加えられることになるのです。こうした難題を、青年担当の牧師に任せられる恵まれた立場にある牧師は、ほんの一部にすぎません。

スティーブ（著者）の体験

牧会インターンの期間中、私は多くの子どもや 10 代の若者たちをバプテスマへと備えさせる働きをする機会を与えられました。神学校に進学したとき、私はインターン時代に感じていたいくつかの課題を解決したいと願っていました。最初の学期に履修した必修科目の一つが、6 時間にわたる「救済論」の授業でした。この授業を通して、私はイエス・キリストと、キリストが私に与えてくださる救いについての理解と感謝を、いっそう深めることができました。

確かに、人は少なくとも、バプテスマを受ける前に、救いという基本的なテーマを理解しているべきだと思います。私は一時期、神学校での学びこそが、バプテスマを受けるための前提条件であるべきではないか、とさえ考えました。しかし、神学校教育を受けていなくても、同じレベルの理解と真剣さはあるのでしょうか。そもそも、知識よりも誠実さのほうが大切なのでしょうか。そして、その誠実さを、どのように正確に測ることができるのでしょうか。

実を言えば、私自身のバプテスマは、今振り返ると、驚くほど誠実さの低いものでした。というのも、私が心から真剣だった時期——友だちが次々にバプテスマを受けていた時——には、私はまだバプテスマを受ける年齢に達していなかったからです。両親は、イエス様が 12 歳のときに神殿に上られたことを理由に、私も 12 歳になるまで待つべきだと考えていました。私は毎安息日に教会へ通

っていましたが、クラスメートがバプテスマを受けたとき、私だけは11歳であったため、友だちと共にバプテスマの場に加わることはできませんでした。

私のバプテスマは、その1年後に行われました。いたずら好きの友だちが、こっそり私の名前をバプテスマ希望者用の申込用紙に書き込み、それを献金箱に入れてしまったのです。牧師はその申込みを受けて、私と短時間の面談を一度だけ行いました。両親は教会で活発に奉仕する指導者であり、私はアドベンチストの小学校で何度もバプテスマクラスを受けていたため、「バプテスマを授けても問題ない」と判断されました。私自身としては、聖餐式が昼食の時間を大きく過ぎてまで続くことが多かったので、そのときに出る「食べ物」を少しでも口にできるよう、早く終わらせたいという気持ちしかありませんでした。」

バプテスマ当日、牧師は私を会衆の前に連れ出し、群衆に流されたり、友人と一緒になければ決心できないのではなく、たった一人でもイエス様のために立つことのできる模範的な人物として紹介しました。私はそのとき、彼がどれほど私の気持ちを分かっていたかを感じました。実際には、私の本当の状況とは正反対のことが、公然と宣言されていたのです。

マリット（著者）の体験

私はオランダで育ちました。そこでは、アメリカよりも一般に、バプテスマを受ける年齢が遅い傾向があります。私の友人たち数人と私は、バプテスマを受けたいと思うようになりました。地元の牧師は、私たちのユースグループのために、金曜日の夜、自宅でバプテスマクラスを始めてくださいました。姉妹たちもとても楽しみにしており、私たちは友人たちと一緒に、欠かさず参加しました。

正直に言うと、そこで何を学び、何を話し合ったのかは、あまり覚えていません。でも、金曜日の夜が一週間の中でいちばん楽しい時間だったことは、よく覚えています。私は17歳のとき、数人の友だちと一緒にバプテスマを受けました。その少し前には、イギリスのニューボールド・カレッジへ進学するために家を離れる予定もありました。

バプテスマそのものは、私にとって非常に感情的な体験でした。言葉で表すのは難しいのですが……それまでに感じたことのない温かさや、深い親しさを覚えたのです。それは単なる理解にとどまらない、知的な納得以上の体験でした。私は、友人たちと共に、一つの信仰共同体へとバプテスマを受け入れられたのです。

さらに私のバプテスマを特別なものにしてくれたのは、ちょうどその時、私は国を離れるところであり、それまで以上に深いかたちで、故郷の教会と結ばれたと感じることができたことでした。

バプテスマへの備え

人がバプテスマを受けるために「備える」とは、いったい何を意味するのでしょうか。ごく単純な考え方では、「イエス様を信じていますか？」と問い、「はい」と答えれば、その人にバプテスマを授ける、という方法があります。しかし、より広い視点に立つなら、認知的な理解だけでなく、霊的側面、感情的側面、社会的側面、そして身体的側面も含めて考える必要があります。

多くの人は、一定の内容を扱う一連の「クラス」を受講することが「バプテスマへの備え」だと考えがちです。このバプテスマ学習シリーズは、主に認知的な側面に焦点を当てていますが、その際、

思考の発達ステージにおいて年齢にふさわしいものであることを目的としています。

「考える」ということ……

人が「我思う、ゆえに我あり (I think, therefore I am)」というデカルトの哲学的世界を意識するようになる以前から、人間の思考はすでに始まっています。スイスの発達心理学者ジャン・ピアジェは、認知発達の各ステージにおいて、人がどのような思考能力をもつのかについて、新たな理解の地平を切り開きました。ピアジェは、認知発達を四つのステージに分けています。これらの理解は、若い人たちがバプテスマへ備えさせるうえで、私たちが何をどのように行うべきかに、大きな示唆を与えるものです。

ステージ1：0～2歳

人生最初の2年間において、人の認知は、感覚を通して世界を探究することに基づいています。理解は、物を口に入れてみることに、何であれ手にした物をぶつけ合わせたり床に打ちつけたりすること、部屋の中で物が動かされるのを目で追いついて、それが場所を変えても同じ物として存在し続けているのか、あるいは変化したのかに気づくことを通して育まれます。

また、座ること、はいはいすること、歩くこと、登ること、走ることも、発見のための大切な手段です。大人は、これを乳児や幼児の「思考過程」と呼ぶことに思わず微笑んでしまうかもしれませんが、この年齢ステージにおける発達として、それぞれが適切な姿や動きであることには、多くの人が同意するでしょう。

しかし、この認知発達の第1ステージが、バプテスマに対する知的同意として十分であると本気で考える人はいないはずです。それが成り立つとすれば、水をかけて遊ぶこと自体が目的である場合に限られるでしょう。

ステージ2：2～7歳

次の約5年間（およそ2歳から7歳）において、子どもの思考は、身体の他の感覚からある程度独立して働くようになります。この時期の子どもの想像力は限界がありません。ただの鉛筆やブロックさえも飛行機や犬、バナナ、流れ星へと変身します。5,000円もするおもちゃを買ってあげたのに、そのおもちゃよりも箱のほうで長く遊んでいる、という経験をしたことがある方もいるでしょう。高価なおもちゃはかえって創造性を制限してしまいがちですが、ただの箱は、子どもの考えに応じて何にでも変えられる、豊かな想像力を必要とします。

当然ながら、このステージの子どもの思考は、正確さを欠くことが多いものです。空間的な認知はまだ十分に理解されておらず、「背が高い＝大きい」「大きい＝価値がある」と捉えがちです。このステージの子どもは、同じ量、あるいはむしろ少ない量であっても、背が高く細いコップのほうが、低くて幅の広いコップよりも多くの水が入ると思いがちなのです。同様に、10円玉と50円玉のどちらかを選ばせると、見た目が大きいという理由で、価値が高いと考え、10円玉を選んでしまうこともあります。

また、このステージの子どもの特徴として騙されやすいことが挙げられます。サンタクロースを本

当に信じています。ピザ屋さんにいる着ぐるみやテレビ番組で歌っている動物を本物と信じ、空想世界の友だちや守護天使も、難なく理解され、受け入れられます。このステージの子どもたちにとって、聖書に出てくるバラムのろばや、ヨナをのみ込んだ大きな魚の物語は、自己中心的で不従順な預言者に対する神様の正当なコミュニケーション手段と考えます。奇跡は何の疑いもなく心から信じられる出来事であり、懐疑的に反応する一部の「学識ある大人」とは対照的です。ダニエルやヨハネが幻で見た奇妙な獣も、ステージ2の子どもたちなら絵に描くことができます。天国が本当はどのような所か知りたいですか。ステージ2の子どもは、細部に至るまで、自信をもって語ってくれるでしょう。「神さまには、大きすぎる問題なんてないよ。ただ祈ればいいんだよ」と答えるでしょう。

多くの安息日学校教師は、こうした創造性と想像力に富んだ思考に働きかけることで、子どもたちの神への信仰を育てています。保護者、特に母親の中には、この豊かで奔放な想像力が、この時期にふさわしく、また一時的なものであることを、ほとんど本能的に理解している人もいます。しかし多くの場合、このような子どもらしい信仰が、バプテスマを受けるに足る十分な理解や、個人的な責任を伴うものだとまでは考えられていません。

ステージ3：7～11歳（過ぎることもある）

およそ7歳から11歳頃（あるいはそれ以降）にかけて、子どもの認知能力は「具体的で触れられるもの」を中心に働くようになります。実際に経験できることこそが「本物」なのです。空を飛ぶゾウは本物ではなく、アニメや特殊効果で見せられているだけのものです。サンタクロースも実在しません。仮に煙突が家にあったとしても、そこから誰かが降りてきたわけではありませんし、ショッピングモールで同時に4人ものサンタクロースを見てしまった子もいるでしょう。

子どもがこうして現実的になったことに、大人はほっとするかもしれませんが、その現実主義には、ある種の喪失も伴います。「本物」とは経験できるものだとするなら、神は本物なのでしょうか。あなたは神を顔と顔を合わせて見たことがありますか。ここで言っているのは、「あなたがバスで席を譲ったおじいさんがあなたにとってイエス様だった」という比喩の話ではありません。説教者は、イエス様が天において私たちのために執り成しておられると言います。すると、このステージの子どもは、「天にいるはずの神様が、なぜおじいさんにもなることができるのだろう」と考えます。また「もし天国が本当に存在するなら、絵ではなく写真で見たい」。「祈っても与えられないことがあるのに、祈らなくても良いことが起こることもある。もし神様が答える祈り、答えない祈りを選別しているなら、そもそもなぜ祈らなければいけないのだろう」と考えることがあります。たくさんのかを祈ってきたのに、かなえられなかったものもあります。神が「これはよい」「これはだめ」と選り分けて答えられるのなら、そもそもなぜ祈る必要があるのでしょうか。そのうえ、祈らなくても良いことが起こった経験もあります。

幼い見方のいくつかは失われていきますが、第3ステージの時期は、情報を蓄えるには非常に適した時期でもあります。暗記が早く、雑学がよく頭に残ります。ですから男女対抗の聖書クイズは、安息日学校の定番です。「事実」こそが知識の中心となります。しかし、具体的なものだけで考えるため、第3ステージの人は、原則から実生活への適用へと考えを進めることができません。「神を愛する」ということも、具体的に説明してもらう必要があります。「隣人を愛する」ことも同様です。十戒は

分かりやすいため理解しやすい一方、多様な意味や適用を含む山上の説教は、少し分かりにくいものになります。

このステージでは、律法主義が自然に生じます。³ 時速 90 キロ制限の道を 91 キロで走っていれば、第 3 ステージの子どもはあなたを厳しく非難するかもしれません。法律を破れば警察が切符を切ると知っていれば、喜んで通報するでしょう。安全とは「時速 90 キロ」という数字そのものであり、運転者や車、環境条件の相互作用として理解されることはありません。良い人とは暗唱聖句を覚えている人であり、悪い人とは覚えていない人です。そして悪い人とは、安息日に教会の持ち寄り食事会に参加せず、レストランで食事をする人なのです。

第 3 ステージの子どもは、象徴を理解することができません。たとえば十字架を考えてみましょう。あなたが十字架の意味を熱心に語ると、第 3 ステージの若者は、「木が 2 本組み合わさっただけのものに、どうしてそこまで感情的になれるのか」と驚きます。聖餐式はクラッカーと、それを飲み込むには十分でない一口分のぶどうジュースにすぎません。バプテスマは、髪がすっかり濡れてしまう気まずい水没体験で、入水したときにガウンが浮き上がれば、周囲の大人たちが皆そつとほほ笑み、その居心地の悪い経験を見守っているのです。

もちろん、第 3 ステージの若者は、こうした本音を口にするほど子どもではありません。牧師が投げかけそうな質問に対する「模範解答」をすでに暗記しています。十字架とは「私たちの罪を贖うために小羊の血であらわされた、神の最高の犠牲のしるしです」と答えることができます。聖餐式については、「キリストの裂かれた体と流された血を象徴するもので、主が来られる時まで、その死を告げ知らせるためのものです」と説明できます。バプテスマについても、「キリストの死と葬りと復活を象徴し、新しい信者が新しい命に生まれ変わったことを証しするものです」と答えられます。多くの大人、特に牧師は、このような若者が正確で高度な語彙を用いて答えることに驚嘆します。そしてそれを、自分の教えが豊かな土壌に根づいた証拠だと思いがちです。しかし実際には、自分自身の言い回しがそのまま繰り返されていることに、酔いしれているにすぎない場合がほとんどです。⁴

セブンスデー・アドベンチスト教会で育つ多くの若者がバプテスマを受けるのは、まさにこの第 3 ステージです。彼らは、加入に必要な事実知識を身につけることはできます。しかし、信仰に込められた豊かな象徴を理解することはできません。それでも、大人に「理解している」と思わせる正解を答えるだけの賢さと瞬発力があります。「なぜ？」と問い続けることもあまりありません。彼らの最も難しい質問は、「天国では翼が必要なのか」「ペットも天国に行けるのか」といった類のものです。多くの牧師は、これらの問いに真剣に耳を傾け、関心をもって対応するだけで、子どもたちを安心させることができます。それこそが、子どもたちがそのような質問を投げかけるときの、本来の姿勢なのです。

ステージ 4 :

ステージ 4 の思考は、徐々に現れてきます。早い人では 11 歳頃から始まることもありますが、多くの場合は思春期のある時点で起こります。生理学的には、脳の左半球と右半球が統合されていきます。その結果、人はついに「考えることについて考える」ことができるようになります。論理的思考や抽象的思考が可能となり、ただ暗記するだけでなく、象徴を理解できるようになるのです。

この変化は段階的に進むため、思春期の混乱に拍車をかけることにもなります。⁵ 中学生年代が多くの大人にとって特に難しく感じられる大きな理由の一つは、同じ集団の中に、まだステージ3の具体的な思考をしている子どもたちと、論理や象徴の可能性に心躍らせながらステージ4の思考を探求し始めている子どもたちが混在しているからです。

教師や青年リーダーは、ステージ3の子どもたちに合わせて具体的な概念を提示すべきでしょうか。それとも、ステージ4に入り始めた若者たちの新しい論理的思考に挑戦を与えるべきでしょうか。現実には、その両方を同時に行うことは難しい場合もあります。

では、人がステージ4の思考に移行しつつあることは、どのように見分けられるのでしょうか。おそらく最も分かりやすい指標は、「問い」が始まることです。あらゆることが「なぜ？」になります。⁶ これは一部の人にとっては脅威に感じられるかもしれませんが、人の思考発達においてはごく自然な過程です。この問いかけを防いだり、無視したり、軽蔑したりするのではなく、家庭や教会、学校という大人の関わりのある場で、議論し深めることができるよう、むしろ励ますことが望ましいのです。抑え込んでしまえば、子どもたちは「大人の協力は得られない」と受け止め、大人の関与が及ばない場所で、そうした問いや問題を扱うようになってしまいます。⁷

もう一つの指標は、語呂合わせや言葉遊び（ダジャレ）を理解し、使えるようになることです。これは、しつこい質問以上に大人をうんざりさせることもあります。目に見える意味を超えて、新しい可能性を考えられるようになったしるしでもあります。ダジャレとは、一つの言葉に複数の意味をもたせた言葉遊びです。どの言語にもダジャレはありますが、他の言語に訳すと意味が伝わらなくなることがほとんどです。

しかし、バプテスマへの備えや、神との関係における意味は、単なる冗談の理解にとどまりません。このステージに入って、若い人たちはついに、大人たちが長年語ってきたことを、本当の意味で理解できるようになるのです。

ある安息日の朝、家庭での十代の子どもとの会話は、こんなふうが始まるかもしれません。

親：「早く準備しなさい。教会に遅れるわよ！」

子：「今日は教会に行かない。」

親：「どういうこと？ 今日は教会に行かないって？」

子：「そもそも、どうして安息日に教会へ行くのか分からないんだ。」

親：「神様が七日目に安息日を造られたからよ。だから今日もそれを守るの。」

子：「でも、途中でカレンダーが間違えられた可能性はないの？ もしかしたら、みんな間違っただけに守っているのかもしれないじゃない？」

親：「何を言っているの？ 教会でそんなこともちゃんと教えてもらわなかったの？ こういうことについては、教会がすべて答えを教えてくれるはずでしょう。小さい頃からずっと、私たちが教えてきたことを聞いてこなかったの？」

親の疑問に答えるなら、確かにこの子は、家庭でも教会でも、もしかすると教会学校でも、「正しい答え」をすでに聞いてきたはず。しかし問題は、その当時、子どもの脳がそれを理解できる段

階に達していなかったことにあります。このティーンは今、ようやく、長年にわたって周囲の大人たちが伝えようとしてきたことを理解できる準備が整ったのです。こここそが「教えることのできる瞬間」です。その機会を逃してはいけません。

私たちは、アドベンチストとして育てられた若者たちが、思春期のどこかの時点で、信仰の真理を改めて学び直す必要が生じることを、期待し、前もって見込んでおくべきです。彼らはずいぶん、自分が教えられてきたこと、さらには暗記してはいたものの理解していなかったことについても、考えることができるようになります。私たちはステージ3での「オウム返しの答え」を心地よく感じていましたが、ステージ4で投げかけられる問いには、脅威を感じてしまうことがあります。それは、そうした問いが、私たち自身の思考の枠をも押し広げるからかもしれません。もし私たちが、ステージ4の思考を受け止める意欲——いや、それを喜んで迎え入れる姿勢——を持っていないなら、私たちはステージ3の若者たちにバプテスマを授けるだけ授けて、その後、私たちの関わりのないまま彼らがステージ4へ進むのを放置することになり、これは霊的に無責任な行為です。私たちが脅威を感じるという理由だけで、若者たちから距離を置いてしまってもよいのでしょうか。その結果、信仰を「学び直す」必要に直面したとき、彼らはいったいどうしたらよいのでしょうか。

スティーブは、十代の真ただ中、学校の廊下を一人で歩いていたときのことを覚えています。そのとき、まったく新しい気づきが、彼の意識に突然響き渡りました——『各時代の希望』です。もちろん、それは家庭でよく読まれ、話題にもされていた本でしたし、授業の課題として読んだこともありました。しかしそのとき初めて、なぜこの本が『各時代の希望』と呼ばれているのかが分かったのです。なぜなら、それはイエス様について書かれた本であり、イエス様こそが「すべての時代の人々の希望」だからです。だから『各時代の希望』なのだ、と。

この発見の単純さに、笑ってしまう人もいるかもしれません。しかしこれは、一見よく知っているように思えることを、改めて学び直す必要性を、はっきりと示しています。スティーブはこのひらめきに心を躍らせ、「大争闘シリーズ」のほかの書名へと考えを巡らせました。『人類のあけぼの』(英題: Patriarchs and Prophets 直訳: 創始者と預言者)——あの本には何が書いてあるのだろう。まさか……。そのとおりでした! 『族長と預言者』は、族長と預言者についての本だったのです! それなら『キリストへの道』は……そう、キリストのもとへと至る道についての本に違いない!

この気づきがあまりにも初歩的に思えること以上に驚くべきだったのは、暗記してきただけの内容を本当に自分のものとして理解できたことに、彼自身がどれほど大きな喜びを覚えたか、という点でした。彼はついに、新しいかたちで考えることができるようになったのです。すなわち、ステージ4の思考です。こうして、人々が「十字架」について情熱をもって語る時、彼もその情熱に加わり、共感できるようになりました。象徴を理解し、その中に込められた豊かさを受け取ることが、ようやくできるようになったからです。

いつバプテスマを受けるときでしょうか？

認知発達を考えると、「ステージ4の思考が少なくとも始まっていることが確認できるまで、バプテスマのような献身は先延ばしにすべきではないか」という問いが、自然に生じます。⁸

その答えは、「いいえ」です。第一に、バプテスマは単なる認知的な体験ではありません。それは、

信仰共同体の一員となるという点で、感情的・社会的な側面を含んでいます。また、きわめて個人的な出来事でもあります。確かに全面的な献身を伴いますが、それは人生の完成点ではなく、新しい人生の始まりを示すものです。

もしステージ4の思考を、バプテスマの前提条件としてしまうなら、大人になってもその段階に達しない人がいる以上、永遠にバプテスマを受けられない人が出てきてしまいます。では、イエス様に人生と献身をささげるために、人はどれほど「賢く」（認知的に発達して）いる必要があるのでしょうか。

これらの学びの対象は、アドベンチスト教会の中で育つ若い人たちです。そのため、「アドベンチストとして生まれ育つ」とはどういうことなのかも含め、バプテスマの意味を全体的に捉え直すことが有益でしょう。

キリスト教バプテスマの簡単な歴史……

バプテスマは、もともとユダヤ教に改宗する人々のための、儀礼的な清めとして用いられていました。異邦人であっても、バプテスマを受けることによって、神の民の一人となることができたのです。バプテスマのヨハネは、この象徴をさらに広げ、「悔い改め」と「罪の赦し」のためのバプテスマを導入しました。⁹これは異邦人だけでなく、ユダヤ人も含むものでした。明らかに、バプテスマという象徴は、一つの意味だけに限定されるものではなく、複数の意味を持ち、さまざまな人々に適用され得るものなのです。¹⁰

キリストの昇天後、新約時代の教会におけるバプテスマは、ペンテコステの日に始められ、罪の赦しと、聖霊の賜物を受けることを意味していました。

使徒フィリポとエチオピアの宦官の物語を引き合いに出し、キリストを受け入れた直後に、いかに速やかにバプテスマが行われ得るかを示そうとする人もいます。しかし、それがすべての人にとっての模範となるのでしょうか。¹¹ サウロの場合は、ダマスコ途上での体験とバプテスマの間に、三日間の失明と断食の時がありました。¹² また、エフェソのクリスチャンたちは、パウロから聖霊について教えを受けた後、二度目のバプテスマを受けています。¹³ このように、バプテスマは象徴であるがゆえに、状況に応じて異なる意味を持ち得るのです。

教父たちは、バプテスマという象徴に、さらに独自の解釈を加えていきました。ある人々は、「水と霊によって生まれなければ、神の国に入ることはできない」という言葉を根拠に、幼児洗礼を推奨しました。¹⁴ 一方で、まったく逆の極端な考えをとり、バプテスマの後には罪は赦されないと主張する人々もいました。その結果、バプテスマ後に罪を犯す可能性をなくすため、死の床でのバプテスマを計画する人も現れました。そうすれば、バプテスマを人生最後の出来事とし、そのまま息を引き取ることで、天国が保証されると考えたのです。¹⁵

今日、バプテスマは何を意味するのでしょうか？

今日、イエス様と人格的に出会い、回心した人々は、バプテスマによって新生を表します。¹⁶ これは、その体験をよく象徴しています。人生の進む方向がそれまでとは逆転し、向きを変えたかのようなものです。古い自分は死んで葬られ、キリストにあって新しいいのちによみがえったのです。¹⁷

アドベンチスト教会に加わるクリスチャンの中には、以前所属していた教派で全身浸礼によるバプテスマを受けている場合もあります。その場合、再びバプテスマを受ける必要はありません。しかし、バプテスマを受けていなかったり、全身浸礼ではなかった場合には、私たちはバプテスマを受けることを求めます。この場合、教派を変えることは、キリストと共に新しい人生を始めるという意味での「新生」というよりも、クリスチャンとしての歩みにおける「新たな一歩」であることが多いのですが、それでも同じバプテスマという象徴を用います。

では、信仰共同体の中で育った人にとって、どのような変化が必要なのでしょう。教会の中で大切に育ててきた子どもたちに、文字どおり反対方向へ向きを変えることを求めたいのでしょうか。¹⁸ 実際、若い人たちのうち、自分の人生をイエス様に献げる決断をした明確な瞬間（ダマスコ途上の体験のような出来事）を挙げられる人は、わずか12%にすぎません。その一方で、その倍の人たちは、物心ついたときからずっとイエス様への献身を保ってきたと答えています。さらにその3倍の人々は、イエス様への献身が、一つの特定の瞬間ではなく、時間をかけて少しずつ育まれてきたと報告しています。¹⁹ それでも、バプテスマは、キリストとその教会に属していることを示すために経験すべき象徴なのです。では、その象徴は、成長のどの段階で実施されるべきなのでしょう。

実際には、私たちは常識的な判断に基づいて対応しているように思われます。バプテスマを受ける人は、自らの行いに責任を負える年齢に達し、イエス様を救い主、主として受け入れることについての一般的な教えに応答でき、セブンスデー・アドベンチスト教会として知られるキリストの体の一員となる準備ができている必要があります。

大宣教命令において、バプテスマが「弟子としなさい」と「わたしが命じたことをすべて守るよう」に教えなさい」の間に位置づけられている点を重視する人もいます。マタイによる福音書28章19～20節の要素が、順序的なのか、同時進行なのかについては議論の余地がありますが、弟子づくりは山あり谷ありの長い過程です。²⁰ そして、「イエス様が命じられたすべてのこと」を本当に知り尽くすことが可能なのか²¹、またそれで十分なのかという疑問も残ります。²²

セブンスデー・アドベンチスト教会において、バプテスマは、イエス様への献身であると同時に、教会員として加わることを意味します。そのため通常、教理を含んだバプテスマ準備クラスを受けることが伴います。

彼らは何を考えているのでしょうか？

若い人たちにとって、バプテスマの意味は、成長の段階によって異なります。バプテスマを受けることが多い小学6年生頃には、アドベンチスト教会の若者たちは、バプテスマを「神との正しい関係へと導くもの」と考える傾向が強く、信仰を公に表明するものとして捉えることは比較的少ないようです。しかし、バプテスマのピークを過ぎた高校1年生頃になると、状況は逆転します。大多数の若者は、バプテスマを信仰の公的表明と考えるようになり、キリストとの正しい関係へと導くものとする人は少数派になります。²³

これは、驚くことではありません。バプテスマを受けるまでは教会員とならないという仕組みのもとで、定期的に教会に通う若者たちは、バプテスマこそが、教会生活の完全な参加者となるための入

口であると受け止めるようになります。この式において彼らは皆の前に紹介され、会衆は声や挙手によってその決断を確認し、牧師は一定の時間をかけて関わった後に修了証を渡します。そして、それまで教会で何年も顔を合わせていたにもかかわらず、ほとんど言葉を交わしたことのなかった人々からも祝福の言葉をかけられるのです。²⁴

私たちは、友人関係のグループと一緒にバプテスマを受けることを、基本的には心から支持します。ただし、そこに単なる同調圧力しか見えない場合には、懸念を覚えたことがなかったわけではありません。しかし、もしバプテスマが罪の赦しと信仰共同体への加入を象徴するのであれば、すでに形成されている友人関係のグループが共に加わるほうが望ましいと言えるでしょう。それは、その集団全体を教会へと結びつけ、メンバーと非メンバーに分断することを避けるからです。バプテスマは個人的な決断にとどまらず、人間関係や教会全体にも影響を及ぼします。

ステージ4の思考が始まる前に、バプテスマを受けてもよいのでしょうか。答えは「はい」です。ただし、その人が自分の人生をイエス様に献げる決断をしていることが前提となります。そこには、自分自身の霊的生活に対する個人的な責任を負うことも含まれます。親や教師、教会の人々は、新しくバプテスマを受けた教会員に引き続き影響を与えるでしょうが、主要な責任は、すでに大人たちが代わりにしてきた選択を、自分自身の選択として引き受けた、その本人に移っていきます。ただし、「学び直し」が必要になる時期がくること——おそらく思春期のどこかで——を忘れてはなりません。

これらの学習ガイドが、若い人たちがキリストにあって、またその教会の中で成長を続けていく助けとなることを願っています。み言葉を通して神との関係を深め、バプテスマを受け、霊的責任を担う生活へと歩み出すための手助けとなりますように。

【脚注】

- 1 セブンスデー・アドベンチストは、開かれた聖餐（オープン・コミュニオン）を実践しています。つまり、教派に属しているかどうかにかかわらず（あるいは教派に属してなくても）、参加を望むすべての人が与えられるという考え方です。しかし実際には、この開かれた聖餐が、大人にしか開かれていないことが少なくありません。子どもが参加を望む場合、親などの大人が聖餐のパンと杯を受け取って子どもに渡さなければ、執事が子どもの参加や希望を拒んでしまうこともあります。この章の後半で述べるように、子どもたちは聖餐式の象徴を十分には理解できませんが、教会の活動や人生の節目において、「含まれること」と「排除されること」の違いは、はっきりと理解しています。
- 2 善意ではあるものの、過敏になりすぎている大人の中には、子どもの想像力をすべて「悪」と結びつけて考える人もいます。そのため、話す動物や空を飛ぶゾウ、さらには人形劇のような非現実的要素から、子どもを守ろうとします。しかし彼らが気づいていないのは、子どもは保護されていても、自然にそのような非現実的な思考をするということ、そして想像の世界に触れ続けていたとしても、次の思考段階に進めば、自然とそこから卒業していくということです。
- 3 ステージ3の思考は、7～11歳という年齢に限られるものではありません。これが、教会における律法主義の一因になっている可能性もあります。大人であっても、ステージ3的な思考をすることは十分にあり得ます。その結果、多くの人に影響を与える、息苦しい律法主義が生まれるのです。11歳になれば自然に律法主義を卒業する、などと期待してはいけません。そうであればよいのですが、現実には、この段階に固着したままの大人があまりにも多く見られます。7～11歳という年齢は、あくまで一般的な発達の目安にすぎません。年齢を重ねても、思考の発達が止まってしまっている人もいます。
- 4 子どもが、オウム返しで覚えたことを本当に理解しているかどうかを確かめたい場合には、すでに語られた内容を自分の言葉で言い換えてもらい、使い古された決まり文句ではなく、独自の表現が出てくるかを見てみるとよいでしょう。もちろん、このやり取りは、脅威を与えない雰囲気の中で行われるべきです。
- 5 思春期の始まりを示す大きな転換点は通常、身体的成熟ですが、ステージ4の思考は、その混乱をさらに大きくします。ステージ4の思考では、「想像上の観客 (imaginary audience)」が可能になります。つまり、「今この瞬間も、周りの人が自分のことを考えて見ているかもしれない」という意識です。実際には、見えない聴衆が大勢いて、今の自分を見ている——なんて恥ずかしい！という感覚です。
- 6 幼い子どもも「なぜ？」と質問しますが、それは非常に初歩的なレベルであったり、単に注意を引きたいだけであることが多いものです。答えの途中で「それで、なぜ？」と聞くのは、自分に注目し続けてくれるかを確認するためです。一方、思春期の若者が「なぜ？」と尋ねるとき、それは大人の権威に挑戦するためか、これまでの説明では満足できず、より深い答えを求めているからです。彼らは子どもじみたものを手放し、大人になる準備をしています。可能な限り最良の答えを備えたいのです。多くの問題について、親がどう考えているかはすでに知っています。自分自身の価値観や信念を内面化する前に、別の大人たちに試しながら問いかけているのです。
- 7 Roger Dudley, *Passing On the Torch* (Hagerstown, MD: Review and Herald Pub. Assn., 1986) 参照。あわせて、Donna Habenicht and Larry Burton, *Teaching the Faith* (Hagerstown, MD: Review and Herald Pub. Assn., 2004) も参照。
- 8 Ronald Goldman は、1960年代に *Religious Thinking From Childhood to Adolescence* (Routledge and Kegan Paul, 1964) および *Readiness for Religion* (Routledge and Kegan Paul, 1965) を発表し、宗教教育の分野に大きな衝撃を与えました。彼は、人が理解できる段階に達する前に多くの宗教教育が与えられると、理解できる年齢に達したときに、過度の早期教育による「免疫」のような反動として、宗教そのものを拒否するようになると主張しました。Goldman に対する応答を、以下の著作から参照のこと。Iris V. Cully, *Christian Child Development* (Harper and Row, 1979), pp.143-156; Lawrence O. Richards, *A Theology of Children's Ministry* (Zondervan, 1983), pp.55-70, 109-129; Lawrence O. Richards, *The Word Parents' Handbook* (Word, 1983).
- 9 ルカによる福音書3章2、3節、マルコによる福音書1章4、5節参照。
- 10 使徒言行録2章37—39節、19章1節以下参照。
- 11 使徒言行録8章35—38節参照。多くのバプテスト教会の実践も考慮してください。
- 12 使徒言行録9章4—6節、9節、17、18節参照。アナニアは、サウロの視力を回復させ、聖霊の満ちしを宣言するために、神によって遣わされました。サウロの「新生」とは、より宗教的になることではなく（使徒22章3～5節参照）、イエス様をメシア、神の子として受け入れることでした（使徒9章20～22節参照）。

- 13 使徒言行録 19 章 1—6 節参照。
- 14 ヨハネによる福音書 3 章参照。あわせて、George Buttrick, ed., The Interpreter's Dictionary of the Bible, vol. 1, p. 352. も参照。
- 15 The Shepherd of Hermas, as presented in Patrick J. Hamell, Handbook of Patrology, pp. 32-34. を参照。差し迫った迫害とそれに続くキリストの再臨の前に、イエス様への献身を守ることの重大さを強調しようとして、バプテスマ後に赦される罪は一度だけとする考えが生まれました。この見方を取ると、やがてバプテスマは「無罪状態を確定する印」と理解されるようになっていきます。
- 16 ヨハネによる福音書 3 章 3～7 節、使徒言行録 2 章 37～39 節参照。
- 17 ローマの信徒への手紙 5 章 3～4 節、コリントの信徒への手紙二 5 章 17 節参照。
- 18 Horace Bushnell's Christian Nurture, first published in 1861 by Charles Scribner 参照。
現在は Baker Book House から入手可能です。最もよく引用される言葉は、「子どもはクリスチャンとして育ち、自らをそれ以外の存在とは決して認識しないようにすべきである」(10 頁) です。
- 19 Valuegenesis による、イエス様への献身の時期に関する未公表データに基づく。
- 20 たとえば、マタイによる福音書 4 章 18～20 節、8 章 23～26 節、10 章 1 節、16 章 15～19 節・23 節、26 章 21～22 節・35 節・56 節・74 節参照。
- 21 ヨハネによる福音書 21 章 25 節参照。
- 22 ヨハネによる福音書 16 章 12～13 節参照。
- 23 アンドリューズ大学セブンスデー・アドベンチスト宗教到達度テスト・プログラム責任者
Jerome Thayer 氏からの個人的書簡による。このテストは、アドベンチスト学校に通う若者の認知的達成度を測るものです。6 年生の実際の数値は次のとおりです。
「救いの計画において、バプテスマは信仰の公的表明である」……33%
「救いの計画において、バプテスマはキリストとの正しい関係へと導く」……45%
10 年生の実際の数値は次のとおりです。
「救いの計画において、バプテスマは信仰の公的表明である」……64%
(ただし、アドベンチスト学校に通った年数が少ない場合や、両親がアドベンチストでない場合は、この数値は低くなる)
「救いの計画において、バプテスマはキリストとの正しい関係へと導く」……26%
(ただし、アドベンチスト学校に通った年数が少ない場合や、両親がアドベンチストでない場合は、この数値は高くなる)
- 24 多くの場合、この時点で聖餐式への参加も可能になります。しかし、大半の若者は、教会を実質的に動かしているのが大人であることに気づいたとき、この人生の節目や移行の時期を空虚なもの、あるいは一時的なものとして感じるようになります。牧師は、バプテスマ準備の期間に必要とされた集中的な関わりを、その後も継続することはできません。
多くの教会で若い人たちが日常的に受け入れられるためには、「若者らしく」あるよりも「大人のように振る舞う」ことが求められます。教会は「探索すること」「揺れること」「問い続けること」ができる安全な場ではなくなり、「落ち着いた大人らしさ」を早く身につけることを暗黙に要求してしまっていることがあります。その結果、少数の若者は「自分であること」「神が自分に何を求めておられるのか」を探し続けるプロセスを早々に手放す人もいますが、大多数はそうしません。



必要な道具のマスターリスト

これらのバプテスマ準備のセッションを、具体的思考（ステージ3）の若い人たちにしっかり伝えるためには、実際に手に取れる具体的な例示があると、学びがはるかに分かりやすくなります。しかし、そのためには、事前の計画とある程度の準備・投資が不可欠です。事前に準備をしていないと、活動そのものを行う代わりに、言葉で説明するだけになってしまいがちです。しかし、「やってみる」代わりに「説明するだけ」では、学びはほとんど定着しません。これらの学びを具体的な体験とともに行う理由は、まさにそこにあります。ぜひ、前もって計画を立て、予算も確保してください。

この学びのシリーズを始める前に、ここに挙げた物品をすべてそろえておくことを強くおすすめします。そうすれば、各セッションで活動を行う際、その都度、手持ちの物品の中から必要なものを取り出して使うことができます。もしすべての活動を行う時間がなくても、物品さえそろっていれば、別の機会——たとえばグループ礼拝など——で、活動を単独で行うこともできます。

以下に、必要となる物品と、それを使用するセッションの一覧を示します。中にはすぐに集めて準備できるものもあれば、より多くの時間や事前の検討、また経済的な準備を要するものもあります。この学びを何度か実施するうちに、流れがつかめてきて、新たなバプテスマ準備シリーズを始める際には、すでにいくつかの物品が手元にそろっていることでしょう。

おそらく、すべての活動を毎回行う時間はないはずです。そこで、意図的に選択できるよう、十分すぎるほど多くの活動を用意しています。今回使わなかった活動は、別の場——たとえばグループ礼拝、安息日学校、ディボーションのメッセージなど——で、同じ教えを補強するために活用することができます。

必要なアイテム

1～10課

- ・聖書
- ・「生徒用ワークブック」と筆記用具（鉛筆かペン）

1課

- ・バケツか袋と、紙の塊
- ・綱引きのための長いロープ
- ・あとで引き換える小さな贈り物（ギフトカード、代用硬貨、名前入りのクーポン）

2課

- ・創造の日の象徴として使う粘土を人数分
- ・七本のろうそくと火をつけるものと、誕生日ケーキ（紙皿、フォーク、ティッシュ）

3課

- ・鉛筆かマーカー
- ・トランペットと、それを吹ける人、またはトランペットの音源
- ・質問箱（ティッシュの箱）
- ・黒い紙のカード
- ・物を燃やして大丈夫な準備

4課

- ・色鉛筆
- ・教師の友人（生徒は知らない人）の写真
- ・お香と火をつけるもの

5課

- ・学校の教科書、参考書
- ・数瓶のベビーフード
- ・数冊の異なった訳の聖書（パラフレーズも可）
- ・鉢植えの植物（できれば枝が折れやすく、6課をする頃に花が咲くもの）

6課

- ・咲いている植物、できれば5課の植物
- ・高価でない、小さな、包装された贈り物（各生徒に一個）
- ・簡単なパズル（各生徒に一つ以上のピース）

7課

- ・板とねじ、プラスドライバー（箱を作り、壊すため）
- ・電池式の懐中電灯（切れた電池と、生きた電池の入ったもの、それぞれ一本）
- ・レゴ（おもちゃ）の箱と、説明書

8課

- ・積み木（ジェンガタイプの積み木）
- ・積み木に描ける、油性ペン

9課

- ・うるさくして研究をさえぎる人
- ・スポーツなどの予想（雑誌や動画、新聞など）と、実際に起きたことのコピー

10課

- ・シンボル（ロゴ等）
- ・ホワイトボードと、専用マーカー
- ・洗足式用の洗面器とタオルとお湯
- ・聖餐式用のパンとぶどうジュース

- ・バプテスマ証明書
- ・『生徒用ワークブック』と『バプテスマの誓約（ジュニア用）』143p
- ・契約書145p



若者はどのように考えるのか

赤ちゃんが赤ちゃんらしく振る舞うのは、愛らしいものです。しかし、子どもが赤ちゃんのように振る舞うと、あまり可愛らしくは見えません。

子どもが子どもらしく考えることは自然に感じられますが、大人が子どものように考えると、どこか問題があるのではないかと思ってしまうかもしれません。では、子どもはどのように考えているのでしょうか。また、大人がさまざまな思考の段階を理解するには、自分自身の子ども時代を思い出す以外に、どんな方法があるのでしょうか。

バプテスマ準備では、しばしば特定の聖書の真理を学ぶことが重視されます。そのため、それらを相手が理解できる方法で教えることが極めて重要になります。スイスの発達心理学者ジャン・ピアジェは、人の思考（認知）が四つの段階を経て発達することを示しました。この過程は、私たちが神について「何を」「どのように」教えるべきかを考える上で、重要な示唆を与えます。これらの学びは、ステージ3の思考者を主な対象としています。以下が、ピアジェによる四つの思考段階です。

ステージ1（誕生から2歳頃まで）

- 感覚が、発見と理解のための重要な入り口となる
- 物を触り、観察し、音を聞き、匂いをかぎ、味わう
- 物が場所を移動しても、その物として存在し続けることを理解できるようになる（対象の永続性）

ステージ2（おおよそ2歳から7歳頃まで）

- 想像力が活発に働き、非常に創造的で、かわいらしく、非現実的な考え方をする
- 権威ある存在が語ることなら、ほとんど何でも信じやすい
- 奇跡の話や天国、祈りの力、神の介入といったことが、非常に現実味をもって受け止められる

ステージ3（おおよそ7歳から11歳頃、またはそれ以上）

- 思考は、具体的で触れられるものに基づく。実際に経験できることが「真実」となる
- 暗記が速く、記憶力に優れている
- 象徴はまだ理解できないが、暗記することはできる

ステージ4（早くても11歳以降。多くは思春期のいずれかの時期に起こる）

- 論理的思考や抽象的思考が可能となり、「なぜ？」という問いを頻繁に発し、自分が納得できる答えを求める
- 象徴を理解できるようになり、価値を見いだすこともできる
- 新しく強い感情を言葉で表すための語彙が、まだ十分ではない
- 信念や価値観の内面化が始まる中で、これまで暗記してきた内容を「学び直す」必要が生じる



霊的成長のステージ

ルカによる福音書2章52節には、「イエスは知恵が増し、背丈も伸び、神と人ともに愛された。」とあります。

これを言い換えるなら、「イエス様は、身体的にも、知的にも、社会的にも、そして霊的にも成長された」ということです。私たちも同じように成長します——少なくとも、成長することができます。では、あなた自身の霊的成長は今どの段階にあるでしょうか。このバプテスマ準備を通して導いている人たちは、今どこにいるでしょうか。そして10年後、彼らはどこにいるでしょうか。霊的成長についての理解には、エリク・エリクソン、ジャン・ピアジェ、ローレンス・コールバーグ、ジェームズ・フォウラー、そしてベイリー・ギレスピーなど、多くの研究者が影響を与えてきました。以下は、ギレスピーの「信仰の経験段階」をもとにしたものです。

借り物の信仰（幼児期：誕生～6歳）

幼い子どもの信仰は、家庭から与えられるものであり、自分自身で信仰を形づくるというよりも、周囲の人の信仰を「借りている」状態です。そのため、子どもの信仰は、親や身近な大人が示し、期待している姿と非常によく似たものになります。

映し出された信仰（児童期：6～12歳）

信仰の源は家庭だけでなく、教会共同体やキリスト教の学校など、より広い人間関係へと広がります。そこには、信仰の姿を映し出す「鏡」が増え、子どもはある人の信仰を映し、また別の人の信仰を映すようになります。とりわけ、ロールモデル、メンター、憧れの人物の影響を強く受けます。

個別化される信仰（思春期前半：12～18歳）

思春期におけるアイデンティティの探求には、霊的アイデンティティも含まれます。他者の信じていることを知りつつも、若者は自分自身のために神を見いださなければなりません。その過程で、それまでの理解や実践が変化することもあり、権威的立場にいる大人を不安にさせることがあります。考える力、試行錯誤、そして感情的・社会的影響が増す中で、信仰は次第に「自分自身の信仰」になっていきます。

移行期の信仰（思春期後半：18～25歳）

さまざまな人生の節目や移行の時期を経験する中で、信仰は変化し続けます。成長し柔軟になることもあれば、硬直し変わらないこともあります。未熟なままにとどまったり、十分でないと感じられたり、あるいは放置され忘れられたり、模索的・実験的になったりもします。進学、就職、経済的自立、パートナー探しに突き動かされる人もいれば、将来が見通せないことや献身を避けたい思いから、

思春期を長引かせる人もいます。こうした移行の一部、あるいは全体を通して、信仰が人生を導くこともあれば、後回しにされることもあります。

再構成される信仰（若年成人期：25～35歳）

それまで比較的同じ歩みをしてきた同年代の人々は、ここで道が分かれていきます。仕事や人間関係、さまざまな「成功の指標」で秀でる人もいれば、停滞感を覚え、夢が実現せず、平凡さの中でもがいたり、一から積み上げ直したりする人もいます。こうした経験は信仰にも影響を与え、信仰を人生の一部分に追いやったり、完全に手放したり、捉え直したり、あるいは信仰の中に新たな意味と目的を見いだしたりします。危機的体験が、信仰を大きく左右することも少なくありません。

内省的な信仰（中年期：35～60歳）

忙しさに押される中で、信仰や人生の意味を含む価値観に優先順位をつけざるを得なくなります。仕事や家庭の問題は、再び危機をもたらし、信仰を新たな意味をもってつかみ取るきっかけになることもあれば、その不十分さを感じて遠ざけてしまうこともあります。もはや、型どおりの答えでは満足できなくなります。若い頃に後回しにしていた問いやテーマが、新たな視点から再び浮かび上がってくるのです。

確信に満ちた信仰（高年期：60歳以上）

この段階の信仰は、現状を保とうとする姿勢として、あるいは大きな変化は望まないものの、新しい視点には心を開く姿として現れます。人生の経験を十分に重ねてきたため、何が自分にとって確かなのかを知っており、それを大切にしながら歩み続けることに満足しています。そしてしばしば、同じ道を歩こうとする他者を励ます存在となります。

イツツ・マイ・チョイス
It's my choice

私の選択

1

成功

～ 救い





バプテスマガイド 1

概要

成功～救い

導入：今、まさに起きている戦争があります！

- I. 聖書の初めの言葉が、それについて語っています。(創世記3章15節)
 - A. 遊び：紙ボール戦争
 - B. 「敵意」という言葉の言い換え
 - C. 創世記3章15節の言い換え
 - D. 「敵意」は神様とサタン、二つのグループの間の憎しみのこと
 - E. エデンの園で犯した罪は、今の私たちにも影響を与えています。

- II. 私たちはみな、サタンの側にいました。(ローマの信徒への手紙3章23節)
 - A. ローマの信徒への手紙3章23節：「すべて」
 - B. ローマの信徒への手紙3章23節を言い換える

- III. 私たちは死ぬ運命にあり、神様は命を与えることができます。
(ローマの信徒への手紙6章23節)
 - A. ローマの信徒への手紙6章23節：私たちが得る報酬とは？
 - B. ローマの信徒への手紙6章23節：賜物とは、誰かがあなたに与えるものです
 - C. ローマの信徒への手紙6章23節を言い換える
 - D. 遊び：綱引き

- IV. 私たちは今、イエス様のおかげで、戦いのどちらの側に立つかを選ぶことができます。
(ヨシュア記24章15節)
 - A. 遊び：どっちがいい？ ゲーム
 - B. ヨシュア記24章15節（または列王記上18章21、39節、エフェソの信徒への手紙6章10～12節）
 - C. 赤ちゃんのときには、選ぶことができませんでしたが、今では選べます。
 - D. ヨシュア記24章15節を言い換える。

- V. どちらの側を選ぶか？ (ヨハネの手紙1・5章11～13節)
 - A. ヨハネの手紙1・5章11～13節：算数の問題（あなた + イエス様 = 命）
 - B. 遊び： 良いこと／報酬に対する賜物（たまもの）。
 - C. ヨハネの手紙1・5章11～13節を言い換える。

結論：あなたは、どちらの側を選びますか？

- A. ワークシート1に記入します
- B. お祈りをして終わります



バプテスマガイド 1

要点

成功～救い

聖句

1. 創世記 3 章 15 節：私たちは戦争に参加しています。
2. ローマの信徒への手紙 3 章 23 節：私たちはみな、サタンの側にいました。
3. ローマの信徒への手紙 6 章 23 節：私たちは死ぬ運命です。神様は命を与えます。
4. ヨシュア記 24 章 15 節：私たちは、自分がどちらの側に立つかを選ぶことができます。
5. ヨハネの手紙 1・5 章 11-13 節：あなたは、永遠の命の確信を持つことができます。

決心の時間

戦いの中で、あなたはどちらの側に立つことを選びますか？ 生徒用ワークブックの最後の欄で、「イエス様の側」を選ぶことで、決心を確認します。

具体的に（ステージ 3 の子どもに適切に）

「紙ボール戦争」 *紙ボールとは新聞紙を半分に切ったものを丸めてボールにしたもの

紙ボールを相手チームの陣地に投げます。

どちらのチームがより多くの紙ボールを相手の陣地に入れるかを競います。

「綱引き」

いろいろな種類の綱引きゲーム

どっちがいい？」ゲーム

2つのものの中からすばやく選択して移動します。

用意するもの

- ・ 聖書、生徒用ワークブック、ボールペンまたは鉛筆。
- ・ 紙ボールを入れる、二つのかご（一人、5～10個の紙屑）
- ・ 綱引きのための長いロープ
- ・ プレゼントする贈り物。教師はあらかじめ [ギフトカード（図書券など）、すてきな付箋やノート、み言葉しおり] などを用意しておきます。



バプテスマガイド 1

内容

成功～救い

はじめに

今日は、みなさん一人ひとりにプレゼントを用意しています。でも渡す前に、一つのお話を聞いてほしいと思います。それは、今、まさに戦争が起きている、ということです。これは、スポーツの試合のことではありません。テストの点数を競うことよりずっと激しい戦いです。この戦いは、人類歴史上で最も大きかった戦争よりも大きな戦いなのです。

1. 創世記3章15節：今、まさに戦争が起きている！

遊び：紙ボール戦争

2つのグループを作り、それぞれのチームに、紙ボールの入ったかごを用意します。ロープを地面に置いて、それぞれのチームが自分の陣地に集まるようにします。目標は、すべての紙ボールを敵の陣地に投げ入れることです。あなたが「始め」と言ったら、両チームは相手チームの陣地に紙ボールを投げ入れます。紙ボールが相手に当たったりしてもかまいません。子どもたちは、紙ボールを拾い、相手の陣地に投げ入れます。しばらくしたら（最長で1分間）、「ストップ！」と言ってゲームを終えます。それぞれのチームが、自分の陣地にある紙ボールを数え、陣地に紙ボールの少ないチームが勝ちとなります。

途中で説明しよう：戦いはずっと続きます。ある時には、片方が勝っているように見えても、他の場合には別のチームが勝っているように見えることもあります。でも戦いは、誰かが「ストップ！」と言うまで続くのです。

聖書の最初の言葉の中に、戦いについて書いてあります。（創世記3章15節を開き、一人の生徒に読んでもらいます。）

ありがとう！ この聖句は、短い言葉の中にたくさんのことが含まれているのでとっても複雑です。一緒に少しずつ考えてみましょう。（言い換えをすぐに生徒に求めても結構です。でも、ほとんどの生徒〈具体的思考者 [ステージ3]〉には、自分の言葉で言い換える前には説明が必要です。）

「敵意」という言葉に気が付きましたか？ 聖書の中では、二人の人の関係を表すために、この言葉を使っています。一人目の「蛇」は、サタンのように行動します。もう一人の女性は、「エバ」です。地球の最初のお母さんで、エデンの園でサタンに騙されてしまった人です。

「敵意」は、よく聞く言葉ですが、どんな意味があるのか分からないかもしれません。誰か意味の分かる人はいますか？（何人かいれば、当てます）他の言葉で言い換えれば「敵意」とは、「お互い憎しみ合う」ことです。二人の人が長い間お互いのことを嫌っていたとしましょう。このような強い感情は、何年も、時には一つの世代から次の世代にも続くこともあります。

生徒用ワークブックのワークシートを見てみましょう。ここに、創世記3章15節の、「敵意」という言葉の別の言い換えの例があります。翻訳は、学者のグループが、ヘブル語かギリシャ語で古い巻物に書かれたものを理解して訳した結果で、それを今日の言葉で書いたものです。言い換えは、聖書が言っていることを個人が説明することです。言い換えがとても得意な人たちもいます。この聖書研究シリーズで私たちも言い換えに取り組んでみましょう。

ワークシートの最初の部分を見てみましょう。読んだ後で、あなたにとって、創世記3章15節を一番よく表しているものを選んでみましょう。（ここに書かれていることがらを声に出して読み、生徒たちに少し時間を与えて、創世記3章15節を一番よく表しているものを自分で選ばせます。生徒たちの質問に答える準備をしておきましょう。）

創世記3章は、サタンがエデンの園でエバを騙したあと、神様がサタンとエバの間に憎しみを置かれた、と教えているのです。でもそれだけではありません。その憎しみは今も続いているのです。事実、私たちの世界の歴史は、サタンと彼の仲間たちが、神と神の民と戦い続けていることを示しています。

この短い聖句は、さらに多くのことを伝えています。エバの子孫が「蛇」の頭を砕きます。誰がサタンの頭を砕くか、知っていますか？（現場応答。キリスト教の背景のある生徒は、「イエス様」と正しく答えます）そう、サタンの頭を砕くのはイエス様です。でも、この聖句によれば、蛇はイエス様のかかとを砕く、と書いてあります。かかとを砕かれるのも、とても痛いことですね。サタンは、イエス様のことをとても苦しめましたが、イエス様はついにサタンの頭を砕いたのです。質問です。かかとを砕くのと、頭を砕くのでは、どちらのほうに致命傷になりますか？（現場応答）

サタンは、イエス様が地球にいる間中、ずっと苦しめ続け、ついにはイエス様を十字架で殺してしまいました。でも、イエス様はサタンに致命傷を与えました。それは、結果的にイエス様の十字架の死によって、地球は再びキリストの王国として取り戻されることになったからです。これは、私たちが自己中心的にサタンに従う代わりに、イエス様に従うことを選ぶことができる、ということの意味しています。創世記3章15節の短い言葉の中に、たくさんの方が含まれていますね。では、生徒用ワークブックの聖句シート1を見てみましょう。一番初めに、創世記3章15節が載っています。もう一度読んで、あなた自身の言葉で、言い換えてみましょう。

（誰かに創世記3章15節を読んでもらいます。そして、別の生徒に言い換えをしてもらいます。生徒はそれぞれ、聖句シートに言い換えを書きます。ほとんどの生徒〈具体的思考者 [ステージ3]〉は、聖句を正しく読むことができれば、するべきことを理解することができるはずですが、（具体的思考者に聖書の言い換えを教えることは難しいかもしれませんが、とてもやりがいのあることです。このことは彼らが、聖書と個人的にふれあう経験をするのを助けます。この習慣を十の課を通して、練習させ続けましょう。）

挑戦的なことかもしれませんが、私たちは、聖句を自分の言葉で言い換えすることに取り組んでいきます。自分の言葉で聖句を言い換えていくのです！ この方法はこれまでの聖書理解を大きく変え、

あなたの神様との関わりかたに影響を及ぼすでしょう。これは、素晴らしいことです！

最初の段階での言い換えについて、積極的に生徒を指導しましょう。生徒たちは、このシリーズによって練習を重ねることになります。初期段階において、聖句や課題の言い換えが、うまくいかなくても気にしないようにしましょう。この大切なスキルは、やがて生徒の世界観と霊性を変える力をもつものです。

私にとっては、最初にサタンに屈服したエバが、サタンに反抗する神様の民の模範として、神様が再びアイデンティティーをお与えになったことが、とても素晴らしく思え、大きな励ましを受けています。さらに、神の御子はエバの家系を通して生まれることをお選びになったのです。エバは、失敗者だったのにも関わらずです。神様がこれほどの過ちを犯した人間を赦されるということは、とても驚くべきことです。神様は、私たちには受ける資格のない光栄の場所に、私たちを回復してくださるのです。

しかし、私たちは、サタンとサタンの民に反対するエバに続く者になることを選ぶ前に、自分たちがサタンの側にいたことを認めなければなりません。

II. ローマの信徒への手紙 3 章 23 節： 私たちは皆、サタンの側にいました。

ローマの信徒への手紙 3 章 23 節を見てみましょう。覚えている人もいるでしょう。

(一人の生徒に声を出して読ませます)

何人の人が罪を犯しましたか？

(ワークシート 1 の質問 2 に正しく答えさせましょう。)

これは、かなり深刻です！ 私たちは皆、サタンの側にいたのです。私たちは、神様に敵対していたのです。このことは、私たちすべては敗北者だという意味です。なぜならヨハネの黙示録によれば、すべてが終わるときに、イエス様と彼に従う者たちは勝利者となり、サタンとサタンの民は敗北者なのですから。たとえそのようには見えなかったとしても、聖書は最後にはどうなるのかを正確に示しています。

この聖句は、とても重要なことを告げていますが、前回の聖句ほど複雑ではありません。聖句シート 1 を開いて、ローマの信徒への手紙 3 章 23 節を言い換えてみましょう。この聖句が言っていることを、あなた自身の言葉で言い換えてみましょう。

(聖句シート 1 に言い換えた言葉を書かせ、何人かに発表してもらいます。この聖句は、前回のものより簡単です。言い換えをする上で、生徒に励ましと助けを与えましょう。)

裁きのために神の前に立つとき、彼らの前に、「よい行いのリスト」と、「悪い行ないのリスト」が映し出され、それを比較されると考えている人がいます。「よい行いのリスト」の方が長い人は天国へ行ける、というのです。あなたは、「私は、そんなに悪いはずがない」あるいは、「悪いことよりよいことを多くしている」あるいは、「私は、あの人のほど、悪くない」などと言う言葉を聞くかもしれません。しかし、この聖句によれば、よいことと悪いことの対比の問題ではなく、誰かと比べてあなたのほうが良い、ということでもないのです。罪の報酬は、死ぬ運命です。もしあなたが、自分には

罪がないと思っているなら、あなたの目は不自由だということになります。それは次の聖句にある通りです。この聖句もローマの信徒への手紙にあるみ言葉です。

Ⅲ. ローマの信徒への手紙 6 章 23 節： 私たちは死ぬ運命にあり、神様は命を与えることができます。

ローマの信徒への手紙 6 章 23 節を読んでみましょう。前半と後半を比べてみます。まず、前半から行きましょう。

(聖句の前半を、一人の生徒に読ませます。)

報酬とは、あなたが行ったことに対して支払われるものです。それはあなたが獲得したもので、あなたにはそれを受けるに値します。この報酬は正当なものです。

それでは質問です。罪を犯し続けたことに対する報酬とは何ですか？

(生徒に答えさせます。)

この答えは、正当に受けるべきものですが、決してよいニュースではありません。私は、ここで聖句が終わりではないことに感謝します。後半を読んでみましょう。

(一人の生徒にローマの信徒への手紙 6 章 23 節を声に出して読ませます)

賜物とは、誰かがあなたに与えようとして選択したものです。それは、あなたやあなたの行ったことには関係ありません。そうではなく、賜物はそれを与える人の考えによるのです。もしあなたにそれを受ける価値があったなら、それは賜物ではありません。それは報酬です。神様は、私たちのために賜物を与えてくださる、のだ、と今の聖句で読みました。では、神様の賜物とは何でしょうか？

(生徒たちに答えさせます。)

素晴らしいと思いませんか！ 神様はイエス様を通して、私たちに永遠の命という賜物をくださいます。私は、自分が当然受けるべき報酬より、神様が与えてくださる賜物の方を選びます。あなたはどうか？

(声を出して、生徒に答えさせます。そして、罪の報酬より永遠の命のほうがよい理由についても答えさせます。その後で、聖句シートに言い換えた言葉を書かせます。それから、何人かの生徒に発表してもらいましょう。)

ワークシート 1 を見てください。質問 3 「どうすれば、永遠の命を得ることができますか？」についての答えを書きましょう。

(生徒に、答えを書く時間を与えます。)

遊び：綱引き

では、2つのグループの戦いをみんなに経験してもらいたと思います。

(時間が十分あれば、いくつかの組み合わせで綱引きをすることができます。はじめは 1

対1で、次にグループ同士同じ人数で、次にグループ同士違う人数で)

覚えていてほしいのは、この「敵意」という戦争は、人間同士の戦いよりもはるかに大きいということです。超自然的な力も含まれているからです。

私たちは、イエス様の代わりに立っている1本の木を使います。私たちはみな、罪人として生まれてきたので、知らないうちにサタンの自己中心の側にいました。ですから、この木(イエス様)を相手に綱引きをしてみましょう。

(太い木の幹にロープをつなぎ、すべての生徒に一人ずつ木と綱引きをさせます。木を動かすことができなかつたあとで、彼らに、イエス様はただ強く安定しているだけでなく、積極的に働かれ、動かれるお方である、ということをお伝えします。)

〈途中説明〉綱引きゲームは、イエス様とサタンの間の現実の戦争によく似ています。イエス様は、私たちがイエス様の側に来ても良いという賜物をくださったので、サタンの側にいたために当然受けなければならない「死」の代わりに、「永遠の命」を受け取ることができるようにしてくださいました。

IV. ヨシュア記 24 章 15 節： 私たちは、どちらの側にいるかを選びます。

イエス様は賜物を与えてくださいました。私たちにできるたった一つのことは、サタンの側を離れて、イエス様の側にいることを選ぶことです。神様は、歴史を通じて繰り返し人間にこの選択を提供されました。今、あなたにも提供されています。

遊び：どちらがいい？ ゲーム

私たちは、毎日選択をしていますね。では今から、できるだけすばやく選択してみましょう。みんなで部屋の真ん中に集まります。先生が二つの文章を読みますので、自分の選んだ方にすばやく移動してください。教師は、4-5の「どちらがいい？」の文章をあらかじめ用意しておいてください。以下に、10の質問の例を掲載します。

・アイスクリームのチョコレート？ それとも、バニラ？

(チョコレートを選んだ人は左側、バニラを選んだ人は右側にすばやく移動します。次の質問の前に、もう一度部屋の真ん中に戻ります。)

・遊びたいのは サッカー？ それとも、バスケットボール？

・得意なのは 算数？ それとも、科学？

・日曜日は 映画を見る？ それとも、ゲームをする？

- ・ノアの箱舟に乗りたい？ それとも、紅海（海）を歩いて渡りたい？
- ・ダビデの話を聞きたい？ それとも、ダニエルの話を聞きたい？
- ・ヨセフになりたい？ それとも、ヨナになりたい？
- ・ハンバーガーにはさむのは、ケチャップ？ それとも マヨネーズ？
- ・夏がいい？ それとも 冬がいい？
- ・ペトロになりたい？ それとも、パウロになりたい？
- ・イエス様の時代に生きていたかった？ それとも 今の時代のほうがいい？

〈途中説明〉 みんなでたくさん選択をしました。このようにみなさんは、毎日選択をしています。でも幾つかの選択は、とても大きく、とても重要なのです。今から、これまでで一番大きな選択についてお話しします。これは、みなさんが毎日するべき選択です。

ヨシュア記 24 章 15 節を読んでみましょう（列王記上 18 章 21、39 節、またはエフェソの信徒への手紙 6 章 10～12 節を読んでもいいです）。この選択が、過去にどのように表されたのかを見てみましょう。

（一人の生徒に声を出して、読んでもらいます。）

選択をするのはあなたです。

神様に従う人々は、自分自身でそれを選ぶのです。あなたには生まれつき、選択する力が与えられていました。でも、赤ちゃんのときには、両親を選ぶことはできませんでした。育つ家も、着るものも選べませんでした。しかし、今は違います。あなたは、より多くの選択を自分自身ですることができます。今までは、他の人が、神様を信じるように選んでくれたかもしれませんが、あなたは今、十分に成長し、自分で選択することができるのです。あなたは、どちらの側を選びますか？ 生まれたままの自己中心なサタンの側ですか？ それとも、永遠の命を与えられるイエス様の側ですか？ 中間は選ぶことができません。どちら側に立つかを決めるのは、あなた自身です。

（聖句シートに、言い換えた言葉を書かせて、何人かの生徒に発表してもらいましょう）

V. ヨハネの手紙 1・5 章 11～13 節： あなたの永遠の命について、確信を持つことができます。

2つの戦い中でイエス様の側にいることを選ぶとき、あなたは、永遠の命についての確信を持つことができますか？ あなたが、イエス様の側を選ぼうとするときにもまだ不安に思うことがあることでしょう。そんなときに開く聖句は、ヨハネの手紙 1・5 章 11～13 節です。

（一人の生徒に、11 節と 12 節を声を出して読んでもらいます。）

これは、簡単な算数の問題です。もしあなたが「イエス様（御子）」を持っているなら、あなたは「命」を持っています。

(ホワイトボードに「あなた + イエス様 = 永遠の命」と書きます。)

もし「イエス様 (御子)」を持っていないければ、あなたに「命」はありません。

(ホワイトボードに「あなた - イエス様 = 命がない」と書きます。)

もし、自分が永遠の命を持っているのか、わからなくなったときには次のように祈ってください。「イエス様、私の内にあなたが欲しいです」こう祈ったなら、あなたは御子を持っています。つまりあなたは、「永遠の命」を持っているのです。

クラスのはじめに、あなたにプレゼントを持っています、と言いましたね。今、さしあげます。

(それぞれの生徒に、あなたの「賜物」をプレゼントしてください。[ギフトカード (図書券など)、すてきな付箋やノート、み言葉しおり] など。)

イエス様がくださった十字架の死というあなたへの賜物によって、神様があなたに永遠の命(救い)をくださったように、私はあなたにこれを賜物として与えます。これは、永遠の命ほどではありませんが、価値があるものです。もし、受け取って使うなら、価値があります。

でも、神様がただで与えようとしている賜物を受け取ろうとしない人々がいます。あるいは賜物は受け取ったのに、それを使おうとしない人もいます。神様からの賜物は、話ができ過ぎていて疑わしい、と感じる人もいます。だからヨハネは、13節を書いたのだと思います。

(一人の生徒に13節を声に出して読ませます。)

これは、イエス様を信じている人々のために書かれました。それは彼らが、自分は永遠の命を持っていることを確信することができるためです。

(聖句シート1に言い換えた言葉を書かせます。そして、何人かに発表してもらいます。)

結論

あなたに質問します。あなたは、どちらの側に立つことを選びますか？ 中間には立てません。サタンの側に立って、最終的に滅びるか、あるいは、イエス様の側に立って、永遠の命という賜物を受け取るか、2つに1つなのです。ワークシート1の一番下にある質問に答えましょう。

(生徒に、選択する時間を与えます。)

戦いは毎日続きます！ 2つのグループの間には「敵意」があります。あなたは、どちらに立つでしょうか？ あなたが正しい選択をすることができるようにお祈りしましょう。(終わりのお祈りをします。)

イツツ・マイ・チョイス
It's my choice

私の選択

2

驚き
～創造と安息日





バプテスマガイド 2 概要

驚き～創造と安息日

導入：あなたの誕生日はいつですか？

誕生日パーティーをしたことがありますか？

どんなふうにお祝いしましたか？

I. 神様は世界を創造されました。もし神様がいないのなら、別の説明が必要です。(創世記1章1節)

- A. 聖書の最初の聖句。創世記1章1節を自分の言葉でまとめてみる。
- B. 神様は、世界を創造されました（あなたも）。
- C. 進化論という考え方。
- D. あなたは創造論を信じますか？ それとも進化論を信じますか？

II. 神様は、安息日を創造されました。(創世記2章1～3節)

- A. 創造週の出来事。
- B. 世界の誕生日としての安息日（バースデーケーキ）。
- C. 安息日を記念して休み、祝福し、聖別された。

III. イエス様は、安息日を守られました。(ルカによる福音書4章16節)

- A. 安息日は、創造と同時にスタートしました。
- B. シナイ山の十戒に続きました。
- C. イエス様も、安息日を守られました。
- D. 安息日は土曜日です。
- E. なぜ多くのクリスチャンが、安息日の代わりに日曜日に礼拝するのでしょうか？

IV. あなた自身のしたいことではなく、神様のことをする。(イザヤ書58章13、14節)

- A. あなた自身のしたいことをしない。
- B. 神様のことをする。

V. 安息日は、私たちのためにあります。(マルコによる福音書2章27、28節)

- A. なぜ、安息日が重荷になってしまうのでしょうか
- B. 神様がお与えになった安息日の目的
- C. 私たちにできることはなんのでしょうか

結論：安息日を特別な日にするために、あなたにできることは何でしょうか？



バプテスマガイド 2 **要点** 驚き～創造と安息日

聖句

1. 創世記1章1節：神様が世界を創造されました。
2. 創世記2章1～3節：神様が安息日を創造されました。
3. ルカによる福音書4章16節：イエス様は安息日を守られました。
4. イザヤ書58章13、14節：安息日は、神様のことをする日です。
5. マルコによる福音書2章27、28節：神様は、私たちのために、安息日を創られました。

決心の時間

私は、神様が世界と私を創られたことを信じます。

私は、安息日に神様のことをするために、計画を立てることによって、安息日を守りたいと思います。

具体的に（ステージ3の子どもに適切に）

「粘土の日」

創造週のそれぞれの日をイメージできるものを創ってみましょう。

「ケーキでのお祝い」

世界の誕生日を、バースデーケーキでお祝いしましょう。

「カレンダー作り」

時間の周期について考え、カレンダーの起源を調べてみましょう。

安息日にしたいことがらのリストを作りましょう。

安息日にふさわしいことと、そうでないことを分けてみましょう。

（よい事・悪い事・とてもよい事・いちばんよい事）

用意するもの

- ・基本：聖書、生徒用ワークブック、ペンか鉛筆。
- ・それぞれの生徒用に、粘土。
- ・バースデーケーキ、七本のろうそく、紙皿、フォーク、ティッシュ。



バプテスマガイド 2 内容 驚き～創造と安息日

はじめに

あなたの誕生日はいつですか？ 何年の何日に生まれたか、正確な日付を知っていますか？ ワークシート2に記入しましょう。

生まれたときのことを覚えていますか？

(反応：ぼかんとした顔、たわいない答えを期待します。)

誕生のビデオや、写真を見たことがあるかもしれませんが、誰も、自分の誕生日を詳しく覚えている人はいません。自分が生まれたという事実について、誰かが話してくれることや、見せてくれるものに頼るしか方法はありません。

養子の場合、成長して大人になるまで、自分の（生物学的な）親を知らずにいます。両親が分からない人もいますし、生まれた日を正確に知らない人もいます。私たちは生まれたときのことを覚えていないので、私たちが信頼できる人たちが、生まれた日と両親について語るのを信じるしかありません。

1. 創世記1章1節： 神様は世界を創造されました。

創世記1章1節は、聖書の最初の言葉です。それが、どんな意味なのかを調べてみましょう。

(一人の生徒に読んでもらい、その後みんなに暗唱させます。)

これはどんな意味でしょう？ あなた自身の言葉で言い換えてみましょう。誰か、この聖句について説明してください。

(一人か二人のお友達に、わかったか聞いてみます。その後で、聖句シート2に言い換えを書いてもらいます)

聖書によれば、神様は世界を創造されました。しかし、誰かそれを見ていた人はいたでしょうか？ みんなの中に、神様が世界を創造するのを見た人がいますか？ 誰もいませんね！

では、みんなの中で何人が、神様が世界を創造したことを信じていますか？

(手をあげさせます。)

どうして、それを信じているのですか？

(反応：確認するときに、ディスカッションの主要テーマを強調するようにしましょう。)

私たちは神様を信じています。その神様が、聖書の中に重要なメッセージを与えておられるので、私たちは神様が世界を創造したことを信じることができます。それが、聖書の最初のメッセージなのです！ もし、神様が世界を創造されたのなら、あなたを創ったのは誰でしょうか？

(反応：両親、と言う生徒には、「では、あなたの両親を創られたのは誰ですか？」と尋ねます。家

系図をさかのぼれるなら、ルカによる福音書3章37節にあるように、最初の人間アダムに行きつく、ということに気付くように助けます。)

次のことをじっくり考えてみましょう。

神様があなたを創られたのです。それは、あなたが神様の子どもだということを表しています。私たちにとっての親は、両親だけであると考えていますが、新しい意味では、神様が私たちの親なのです。あなたは、両親に肯定的な考えを持っているかもしれませんが、否定的な思いをもっているかもしれません。私たちの両親は、私たちが小さかったときに良く世話をしてくれましたが、もっと大きな意味で、神様はいつでも私たちを世話してくれる親なのだ、と考えることもできます。

しかし、世の中には神様も聖書も信頼できないと言う人がいます。彼らは、神様があなたを創られた、と聞いても信じようとしません。神様の子どもであるという事実を受け入れないことは、なんと不幸なことでしょうか！ 彼らに「あなたを創ったのは誰ですか？」と尋ねたなら、彼らは「両親です」と答えるでしょう。もし彼らに、家系図を最初までさかのぼるように言っても、彼らは、神様が最初の親であることを認めようとせずに、代わりに進化論の話をするでしょう。何百万年も前、自分の先祖は「猿」であって「人間」ではなかった、と説明するでしょう。さらにその前は、海の生物だったと言うのです。生きていてすべての人は、神様が世界を創造するのを見ていないのと同じように、誰も、海の生物が陸にあがって、猿に進化し、ついに人間にまでなったのを見ていません。

どちらの話をお前は信じますか。どちらの話にも、いくつかの証拠があるとされています。しかし誰も、事実を見た人はいません。どちらの話をお前が信じるのかは、神様と聖書を信じるか、信じないか、という選択をすることになります。ワークシートの質問2と3を見てください。

(誰があなたを創ったか、という質問に対する答えを記入するのを助けてください。)

あなたを創ったのは、誰でしょう？ それは、あなたが神様を信じるかどうかによると思います。あなたは、自分を神様の子どもだと信じますか、それとも、猿の子どもか、海の動物たちの子どもか、粘菌の子どもだと信じますか？ 私は、神様を信じているので、自分が神様の子どもであると信じています。あなたはどうですか？

II. 創世記2章1～3節： 神様は、安息日を創造されました。

復習として、創造週のそれぞれの日に、神様が何を創られたか、確認してみましょう。私たちの世界を創るために、何百万年も時間をかけて変異させる代わりに、神様は、一週間で創ることを選ばれました。神様は、世界を一瞬で創ることもできましたが（神様ですから！）その代わりに、七日間で創ると決められたのです。なぜ、七日間なのでしょう？ 答えは天国で神様に聞いてみるまで、分らないでしょう。でもそれが、神様が決めたことでした。もし、それぞれの日に何が創造されたかを忘れてしまったとしても、聖書の最初の章を見ればいつでも見つけることができます。私たちがそれを忘れないように、神様は書き残してくださったのです。

遊び：粘土の日

生徒一人ひとりに、粘土を渡し、創造週のある一日をイメージできるものを作ってもらいましょう。それぞれの日に何を創ったかが、思い出せない時は、創世記1章を見るように言いましょう。それぞれの生徒に、何日目かを割り振ることも出来ます（安息日は、創世記2章の最初の3節に書かれています。）粘土工作の時間を与えましょう。第一日目から七日目まで、番号を配置してそれぞれの作品を置きます。創造週のそれぞれの日に神様が創られたものを並べることができます。

第一日：光（3～5節）

第二日：空気（6～8節）

第三日：陸、植物、花、木（9～13節）

第四日：太陽、月、星（14～19節）

第五日：魚、他の海の生き物、鳥（20～23節）

第六日：陸の生き物と人間（24～27節）

第七日：安息日（創世記2章2、3節）

〈途中説明〉私たちも、粘土でもものを作ることによって、創造を体験できます。まるで、神様が世界を創られた時のようにです！ 神様が、一週間で世界を創造することができたことは、本当に驚くべきことです。神様は、六日間で地球上のすべてのものを創造されました。そして、安息日を迎えます。安息日は、一週間のハイライトでした！ それはまるで、すべての準備を整えて、安息日にパーティーをするようなものでした。

安息日の創造について読んでみましょう。創造の物語の最後に出てきます。創世記2章1～3節です。（一人の生徒に声に出して聖句を読んでもらいましょう。そして、別の生徒に言い換えをしてもらいましょう。ディスカッションのあと、他の生徒にも、聖句シートに自分の言葉で書いてもらいます。）

安息日は、私たちの世界の誕生日です。神様は、安息日を特別な「休みの日」とされたので、神様の創造を祝うことができました。私たちが安息日を祝うことは、神様が世界を創造されたことを信じていることを表します。そして、私たちが神様の子どもであることを思い起こすのです。テストで失敗したときや、お友達があなたの陰口を言っているのを聞いた時や、友人に裏切られてしまった時に力になります。自分の期待通りに物事が進まなかった時や、両親や先生の期待に応えられなかったときにも、役に立ちます。どんなことが起きたかに関係なく、安息日は、神様が私たちに創られたゆえに、私が神様の子どもであることを思い出させてくれます。

毎週、それを思い起こさせてくれるよいアイデアがあるでしょう。バースデーケーキとろうそくなしでも、世界の誕生日を祝っていることを覚えるために、あなたの想像力を働かせましょう。

遊び：バースデーケーキでお祝いする

(ここで、バースデーケーキと、七本のろうそくか、番号7の形をしたろうそくを、取り出しましょう。『ハッピーバースデー ディア ワールド』と歌い、誰かにろうそくの火を吹き消してもらいます。) 世界の誕生日を祝うことによって、私たちは、神様を私たちの創造主として認め、自分たちが神様によって創られたことを認めるように導きましょう。これは、私たちのアイデンティティーとなり、私たちと他の被造物との関係についての考えを広げることになるのです。)

〈途中説明〉誕生日のお祝いは楽しい時間です。でも安息日は毎週やってきます。一年に一回ではありません。毎週、誕生日を楽しくお祝いするよい方法はないでしょうか？

神様が安息日を創られたという事実と共に、創世記2章1～3節は、安息日に関する鍵を与えています。三つの言葉を考えてみましょう。それは、「休み」「祝福した」「聖とした」(いくつかの翻訳では、「聖別した」)です。

私たちは「休み」と聞くと、時々眠ることをイメージします。でもこの言葉の意味は「止めること」です。それは、安息日に神様がなされたことです。神様は疲れたから、眠ったのではありません。神様は全世界を創られ、その働きを止められたのです。それは、創ったものを祝うための時間でした。アダムとエバが、創造主と特別な楽しい時間を過ごすために与えられたのでした。同じように、安息日は、私たちが一週間してきた働きを止める日です。なぜなら安息日は、創造主との特別な楽しい時間を過ごす日だからです。一週間働いて、安息日には仕事を止めることにどんな価値があるのでしょうか？

(応答：生徒から、自由に意見を出してもらいます。)

聖句はまた、神様が安息日を「祝福された」と言っています。私たちは、この言葉をあまり使いませんが、それは「幸せの日」という意味です。言い換えるなら、安息日は幸福と喜びの日なのです。これはあたりまえには起きません。あることをしたり、しなかつたりすることによって起きるのです。あなたは、何もしないで幸福になるのではありません。また、誰かにそれを強制することもできません。それは、選択の結果なのです。

何があなたを幸福にしますか？ 安息日は、喜びにあふれた活動に参加する特別な日です。一週間の他の日にしてきたことを停止することで、あなたはこの喜びの経験をすることができます。そのため、前もって計画を立てる必要があるでしょう。安息日を「幸せの日」にするために、あなたができることはどんな事でしょうか？

(応答：生徒から自由に。あるいは、あなた自身のアイデアを話してください。あなたの幸せが、必ずしも生徒たちを幸せにするわけではないことを覚えてください。彼らは、通常、活発で活動的なことを好むからです。)

聖句の3番目の言葉は、「聖とする」（他の聖書では、「聖別する」ですが、同じ意味です）この言葉をよく理解するためには、「特別なものを取っておく」と考えるとよいでしょう。たとえば、大切な機会のために、新しい服を取っておく、と考えればわかるでしょう。あるいは、サッカーや野球の大事な試合のために、新しいスパイクシューズを用意しておくことです。大好きなデザートを思い浮かべてください。それを毎日食べることはできませんが、特別な日には食べられるのです。神様が何かを「聖とされる」とき、それは特別なものになります。

安息日を「聖とする」と考えるとき、私たちは、安息日のためだけに取っておくもののことを考えます。安息日の朝食のためにシナモンロールや特別な料理、家族全員でのごちそうを準備する人もいます。海、山、湖、あるいはほかの場所へのピクニックを考える人もいます。安息日にだけ着ることのできる「特別の服」を持っている人もいます。

神様が安息日を「聖とする」、という意味は、その日を取っておいて、特別な時間にする、ということです。安息日のためだけに、取っておいたり、計画したりするのと同じ方法で考えれば、理解することができます。神様は毎日私たちのお世話をしてくださいますが、私たちは、必ずしも毎日、多くの時間を神様のために作ろうとはしません。でも、安息日は日々の活動を「止める」ので、神様のことに集中することができるのです。これが「安息日時間」です。

Ⅲ. ルカによる福音書4章16節： イエス様は、安息日を守られました。

第七日安息日は、十戒の一部として含まれているので、ユダヤ人のためだけのものと思っている人がいます（出エジプト記20章8～11節）。しかし、神様は「安息日を心に留め、これを聖別せよ」とおっしゃいました。神様は、安息日をシナイ山よりずっと昔にお与えになりました。神様は、思い起こさせる特別な日を与えたのです。それは、私たちにも必要なものです。

安息日は、創造のときに始まりました。覚えていますよね？ 十戒の第四条には、なぜ、それを聖としなければならないのか、の理由が書かれています。あなたがユダヤ人だから、ではなく、神が、六日のうちに世界を創られ、第七日に休まれたから、と宣言しています。安息日は、私たちの世界が創造された誕生日なのです。それは、ユダヤ人だけでなく、地球上のすべての人々のためにあるのです。「安息日を心に留め、これを聖別せよ」との命令は、私たちにも与えられているのです。

二千年前、人となられたイエス様は安息日を守られました。ルカによる福音書4章16節を開いて読んでみましょう。

（一人の生徒に読んでもらい、ディスカッションをしてから、もう一人の生徒に自分の言葉でまとめてもらいます。他の生徒たちも、自分の言葉で聖句シートに書いてもらいます。）

ルカによる福音書のこの部分で強調されている事は、イエス様がメシアであり、故郷で拒絶された、ということです。イエス様が安息日に会堂、あるいは教会にいつものように行かれた、という事実は驚くべき出来事につながる事なのです。

イエス様が、教会で人々から拒絶された、ということは驚くべきことです。明らかに、安息日に教会へ行くことは、誰にでも保証されるものではありません。しかし、何人かの宗教的な人々が騒ぎ立

てるから、教会へ行かないとか、安息日を聖としないという考え方は、説得力のない言い訳です。完璧なイエス様であっても安息日を守られたのです。イエス様は、安息日の守り方についても、私たちの模範です。

土曜日が本当に安息日なの？ と思っている人々もいます。ここで典型的なカレンダーを見てみましょう。生徒用ワークブックを見てください。

遊び：カレンダーを作ろう。

カレンダーの第七日は、何曜日か教えてください。

(生徒に答えさせる)

間違いないですか？ 何か見落としていませんか？ 週の第七日は木曜日ですか？ いいえ、違いますね。安息日は、ユダヤ人のためだけにあるわけではありません。でも彼らは、何千年にもわたって週の記録を注意深く守ってきました。第七日目は、今でも第七日目なのです。私たちが「土曜日」と呼んでいる日が「安息日」なのです。

さあ、今月の（あるいは、どの月でも）日にちを右上の四角の中に書き込みましょう。月の始まりの日が何日であっても、七日間の週のサイクルに合っています。七日目はいつも安息日なのです。「土曜日」という名前は、ギリシャ人とローマ人が、太陽、月、惑星に付けた名で、彼らの神々の名前になっています。「安息日」（英語で、サバス）は、多くの言語で、似たような発音をします。例えば、スペイン語では、サバド、フランス語とドイツ語では、サバットです。

〈途中説明〉どの曜日が安息日かは、簡単に見分けることが出来ます。神様は、これを創造のときに始められました。それ以来ずっと続いてきたのです。

私たちは、科学の目からも見る事が出来ます。私たちのカレンダーは、太陽系の動きに基づいてできています。地球が自転するには、どのくらいの時間がかかりますか？

(生徒に答えさせる)

その通り！ 一日 24 時間。では地球が太陽の周りを回るのには、どのくらい時間がかかりますか？

(生徒に答えさせる)

その通り！ 一年間。私たちが「月」と呼んでいる周期は、何からきていますか？

(もう一度、生徒に答えさせる。一部の生徒が、毎月のサイクルは、月が地球の周りを回る時間から導き出していることを知っているでしょう。)

だから、毎月、「新月」があるのです。

私たちのカレンダーは、太陽系のあらゆる周期に基づいてできあがっています。ワークシート 2 の白紙のカレンダーを思い出してください。

カレンダーの、もう一つの時間区分は「週」です。私たちが「週」と呼ぶ期間は、何からきていま

すか？

(生徒に答えさせます。太陽系には、週のサイクルの基づいたいかなる出来事も知られていません。)

私たちの週は、世界の創造に基づいているのです。私たちが、普段から週のサイクルで活動しているというのは驚くべきことではないでしょうか？ 世界を神様が創造されたということも、第七日が安息日だと信じていない人も、一週間を守っているのです！

このことは、神様の創造を信じているけれども、第七日を安息日として守っていない人々についての質問を提起します。なぜ多くのクリスチャンが、安息日ではなく、日曜日に教会に行くのでしょうか？ あなたは、何か聞いたことがありますか？ あなたはどう思いますか？

(生徒の答え)

驚いたことに、日曜日に教会に行くほとんどの人は、日曜日が礼拝の日だと聖書が教えていると思っています。聖書が、他の日を安息日と呼んでいることを疑問に思うのです。ですから追求されると、彼らは「イエス様は、日曜日に復活されました。だから私たちは、復活を記念して日曜日に教会に行くのです」等という理由を述べます。毎年イースターをお祝いすることはよいアイデアです。でもそれは、一年に一度であって、毎週ではありません。「一週間のどの日を聖としても大きな問題ありません。どの一日でも聖とすればいいのです」と言う人もいます。

聖書の中に、安息日が日曜日だと証明している言葉を探そうとするなら、彼らは本当に、不利な立場になります。なぜなら、聖書は決してそう言っていないからです。事実、クリスチャンは聖書が書かれるまで、日曜日の礼拝を始めていなかったのです。当然、聖書はそれについて何も言っていません。クリスチャンが日曜日に礼拝を始めた理由は、安息日に礼拝しているユダヤ人と自分たちは違う、と見られたいためでした。しかし、第七日を安息日とする、ということについては、神様が聖書の中で明らかにしておられることと調和するか、あるいは、神様の命令の代わりに自分たちの考えを押し通すか、という問題になります。大多数のクリスチャンが何百年もの間、日曜日を安息日として守ってきたことは、決して正しいことではありません。大多数がいつも正しいと誰が言いましたか？ 第七日を安息日として守ることは、聖書が書かれるずっと前、世界の創造にまでさかのぼるのです！ 第七日安息日の記録が、聖書の中にあるのはそのためです。

IV. イザヤ書 58 章 13、14 節： 安息日は、神様のことをする日です。

第七日が安息日である、ということについて、もう一つ大切なことがあります。それは、この特別な日に、神様が、私たちのためにお考えになったすべてのことを経験するためです。私たちはすでに、安息日を守るための三つのキーワードを見てきました。それは、「休み」「祝福」「聖とする」です。この重要な日を、もう一つの視点で見る方法が、イザヤ書 58 章 13、14 節に書かれています。

(一人の生徒に聖句を読んでもらいます。その聖句の意味を自由にディスカッションさせましょう。そして、聖句シートに自分の言葉で書かせます。)

この聖句から、「あなたの楽しみをなさず」(口語訳)とあるので、面白いことは、すべてだめ、と理解し、安息日には楽しいことはしてはいけない、と考える人がいます。しかし、次の聖句は、「安

息日を喜びの日と呼び」と言っています。この違いは、したいと思うことを、あなたの視点から見るのか、神様の視点から見るのか、というところにあります。私たちは、この聖句を次のように言い換えることができます。「安息日にあなた自身のしたいことをするのはやめなさい。その代わりに、神様をご存知のことで、あなたを幸せにすることをしなさい」

それは、どのようなことでしょうか？ ワークシート2の質問5に答え、自由に考えをディスカッションしてみましょう。でも、三つの原則「休み」「祝福」「聖とする」を忘れないようにしましょう。（ワークシート2の質問5に答えさせます。）

神様がお考えになったように、安息日を特別な日にするためのリストを持つことはいいことです。しかし、ここでさらに考える必要があります。それがイザヤ書58章13、14節が言っているところなのです。質問5の「したいこと」を選んで、質問6のどの箱に属しているか分けてみましょう。いくつかの「したいこと」は、安息日するのに「良い」ことであり、反対に「悪い」に属するものもあります。ほかにも「普通」あるいは、「とても良い」にあてはまるのはどんなことでしょうか？安息日は「とても良い」ことをするための日です。

（ワークシート2の質問6をやらせます。）

V. マルコによる福音書2章27、28節： 神様は、私たちのために、安息日を創造されました。

あなたは、神様のお考えになった安息日とは違う過ごし方をしたことがあるでしょう。人間は、安息日にすべきこととすべきでない事のたくさんのリストを作り上げようとします。これでは、安息日は一週間の中で最悪の日になってしまいます。まさにそれが、イエス様が地上におられたときの安息日でした。私たちは、安息日を特別な日にしたい、という願いを持っていますが、しばしば方法を間違っ、安息日を最悪のものにしてしまうのです。

イエス様が、安息日にするべきでないことをしていると人々から責められたときに、イエス様が言った言葉を忘れないようにしましょう。マルコによる福音書2章27、28節を読みましょう。

（一人の生徒に聖句を読ませ、生徒それぞれに、聖句シート2に自分の言葉で書かせます。）

神様は、安息日を守らせるために、私たちを創造したのではありません。神様は、私たちの利益となるように安息日を創造されたのです。神様は初めから、私たち人間が仕事や遊びで忙しくなり、神様との十分な時間をとれなくなることをご存知だったに違いありません。だからこそ、安息日を与えて、毎週、私たちが神様の子どもであることを思い起こさせ、神様の視点に引き戻す特別な日をお与えになったのです。

結論

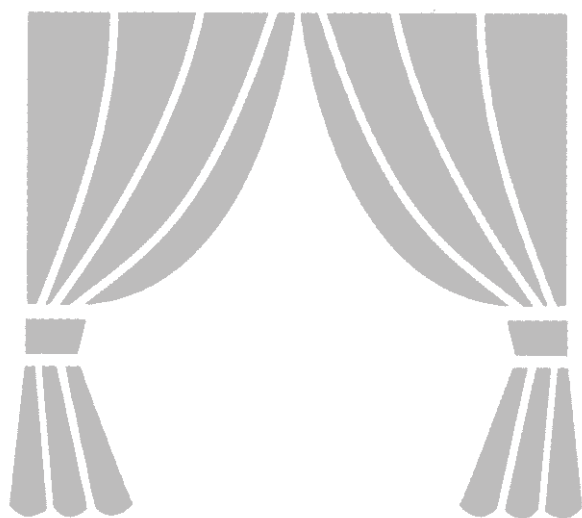
あなたは、神様の子どもとして、また神様に創られたものの一人として、次の安息日に、神様に焦点を合わせたいと願いますか？ そうであるなら、それを実現させるために、どのような計画を立てますか？

イツツ・マイ・チョイス
It's my choice

私の選択

3

始まり
～イエス様の再臨





バプテスマガイド 3 概要

始まり～イエス様の再臨

導入：楽しい集まりを計画したなら、そこに参加したいと思いませんか？

- I. イエス様は、必ず戻ってくると約束なさいました。(ヨハネによる福音書 14 章 1～3 節)
 - A. ヨハネによる福音書 14 章 1～3 を自分の言葉で言い換えてみましょう。
 - B. 天国は、どんなところでしょうか？
 - C. 「天国は、どんなところでしょうか」想像して描いてみる（道具を配る）
 - D. 天国で一番嬉しいことは、イエス様と一緒にいられること。

- II. イエス様は、どのように再臨されるのでしょうか？（テサロニケの信徒への手紙 1・4 章 16～18 節）
 - A. すべての人がわかるように、ラッパの鳴り響く音と共にいらっしやいます。
 - B. テサロニケの信徒への手紙 1・4 章 16～18 節を読み、自分の言葉で言い換えてみましょう。
 - C. 誰も、この出来事を見逃す人はいません。
 - D. イエス様が再び来られるのはうれしいですか？ それとも悲しいですか？
 - E. ワークシートの前半を記入しましょう。

- III. イエス様の再臨は、千年期の始まりです。(ヨハネの黙示録 20 章 1、2 節)
 - A. 千年期は、1000 年間です。
 - B. 千年期に関連した出来事。
 - C. すべての質問に、イエス様が答えてくださいます。
 - D. 神様は、新しくされた地球で、私たちと一緒に住んでくださいます。

- IV. 福音を伝えることの緊急性（マタイによる福音書 24 章 14 節）
 - A. アドベンチストとは、イエス様の再臨を待ち望む人々のことです。
 - B. マタイによる福音書 24 章 14 節を読み、自分の言葉でまとめてみましょう。

- V. 福音を宣べつたえる命令（マタイによる福音書 28 章 19、20 節）
 - A. 神様に従う者たちはみな、福音を宣べ伝えます。
 - B. 世界最大の集まりに、誰を招きたいですか？

結論：イエス様の再臨のための、招待者リストを作ろう。



バプテスマガイド 3 **要点** 始まり～イエス様の再臨

聖句：

1. ヨハネによる福音書 14 章 1～3 節：イエス様は私たちのために、地球に戻ってくると約束されました。
2. テサロニケの信徒への手紙 1・4 章 16～18 節：イエス様が来られる姿は、すべての人が目撃します！
3. ヨハネの黙示録 20 章 1、2 節：イエス様が戻られたあとには、どんなことがおきるのでしょうか？ 私たちは永遠に天国にいるのでしょうか？
4. マタイによる福音書 24 章 14 節：すべての人が、このことに気づく必要があります。
5. マタイによる福音書 28 章 19、20 節：イエス様は、従う者たちに、福音を全世界に宣べ伝えるようにお命じになりました。イエス様は、いつも私たちと一緒にいてくださいます！

決心の時間：

あなたは、イエス様が、私たちのために戻ってくるといふ約束を信じますか？ イエス様が戻って来られる時のために、招きたい人のリストを作りましょう。

具体的に（ステージ 3 の子どもに適切に）

「豪邸を造る」：

天国の豪邸を自由に描いてみましょう。

生徒に聞こえるように、誰かにトランペットを吹いてもらうか、

トランペットの音源を用意しましょう。

「神様への質問」：

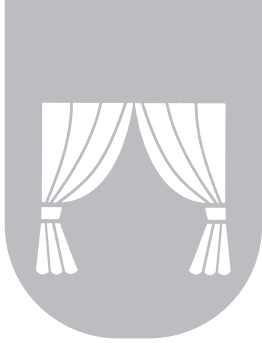
神様への質問を書きましょう。それらを、神様への焼き尽くす供え物としてささげます。

「集まりへの招待」：

イエス様が戻って来られる時のために、招きたい人のリストを作りましょう。

用意するもの

- ・ 聖書、生徒用ワークブック、ボールペンか鉛筆。
- ・ 色鉛筆またはマーカー。
- ・ トランペットが吹ける人。またはトランペットの音源。
- ・ 黒い紙のカードと質問箱（燃やせるもの）。
- ・ 生徒用ワークブック内のパーティー招待者リスト。



バプテスマガイド 3 内容 始まり～イエス様の再臨

はじめに

パーティーを計画して実行するには、時間も労力もお金もかかります。招待状を送り、場所を用意し、部屋を飾り、食べものやゲーム、賞品などの準備が必要です。集まりの準備が完璧に整ったなら、あなたはその集まりに参加したいと思いませんか？ それとも欠席したいですか？

(生徒からの応答)

私は、そのパーティーに絶対に参加したいです！ 楽しいし、時間もお金もかけて計画したので、参加したいと思います。

イエス様は、世界最大の集まりを計画されました。それを突然中止されたりするのでしょうか？ イエス様がはじめから計画し、何千年もかけて準備してきたことです。命をかけてまで計画した集まりを途中でやめたりするのでしょうか？ もちろん、そんなことは絶対にありません！ イエス様だって、私たちと一緒に祝いするのが待ちきれないはずですよ。

1. ヨハネによる福音書 14 章 1～3 節： イエス様は、私たちのために地球に戻ってくると 約束なさいました。

(ヨハネによる福音書 14 章 1～3 節を開き、一人の生徒に読ませましょう。もう一人の生徒に自分の言葉で言い換えさせます。他の生徒は、聖句シート 3 に自分の言葉で言い換えた言葉を書き込みます。)

あなたは、イエス様が地球に来て死んでくださったのはあなたのためだと信じますか？

誰にとってもそれは悲しい出来事です。しかし、イエス様は私たちのことを愛しておられるので、私たちが永遠に失うことなど考えられなかったのです。だから、イエス様は、わたしたちの代わりに死んでくださったのです。私たちがイエス様と一緒に天国に行くために、そうしてくださったのです。

イエス様が、人々から拒絶され、迫害され、ついには十字架で命を捨てられたほどに私たちが愛してくださったなら、私たちが天国に行くお祝いの日のために、必ず戻って来てくださると思いませんか？ それはとても納得の行くことです。事実、イエス様は私たちのために戻って来ると約束されたのです。それが、ヨハネによる福音書 14 章 1～3 節の言っていることです。今、イエス様を見ることができないからといって失望する必要はありません。私たちは神様の約束を信じているので、イエス様が戻られるのを楽しみにしています。

遊び：豪邸を作る

天国には、私たちのためにたくさんの部屋があります。聖書によれば、イエス様は、私たちのために特別な場所を用意しているのです。それがどんな場所なのか、と考えたことはありますか？ 少し想像してみましょう。イエス様はあなたのことをよく知っていて、あなたのために最高の場所をつくってくださるのです。それはどんな場所でしょうか？ 大きな都市のような場所でしょうか？ それとも静かな田舎の風景の中でしょうか？ 美しい山々の見渡せる場所でしょうか、それとも海や湖のそばでしょうか？ どれくらいの大きさでしょうか？ どんな色をしているのでしょうか？ ……想像はどこまでも広がりますね。

今からしばらく、私たちがイエス様に用意して頂きたい特別な場所の絵を描いてみましょう。色鉛筆やマーカーを用意しましたので、あなたのイメージを描いてみましょう。さあ、始めましょう！

（もし、この課題を学校で行なうなら、描く時間をカリキュラムの中に組む必要があるでしょう。美術の授業のひとつにできるでしょう。そうでない場合は、第3課の学びの前に生徒用ワークブックを使ってください。）

〈途中説明〉私たちの描いたものは、実際にイエス様が私たちのために用意してくださる物とは比べ物になりません。イエス様は、私たちよりずっと優れた芸術家ですから、私たちの理想をはるかに超えた場所を造ってくださるに違いありません。それを見るのが待ちどおしいと思いませんか？

でも、豪邸以上に素晴らしいものがあります。先ほど読んだ聖句の最後の方を見てみましょう。イエス様が、ずっと私たちと一緒にいたいと希望してくださるのです。聖書は、イエス様は戻ってきて、私たちを天に連れて行き、ずっと一緒にいることができるようにしてくださると言っています。考えてみてください。私たちは今まで、イエス様について耳で聞いてきました。でも、そのときには、お互いの顔と顔を合わせてお話をすることができるのです。

あなたは、イエス様に直接聞いてみたいと思うことはありませんか？ もちろんそのようなこともできます。イエス様と鬼ごっこは、できるのかな？ イエス様はどんなスポーツが好きなのでしょうか？ どんな冗談を言うのでしょうか？ 私たちに、どんな新しい場所を見せてくださるのでしょうか？ イエス様は、どんなすごいジェットコースターを作れるのでしょうか？ どんな素敵なお話を聞かせてくださるのでしょうか？ これは、本当にすごいことです！

II. テサロニケの信徒への手紙1・4章16～18節： イエス様が来られるとき、すべての人がそれに気づきます。

(トランペットの音源をかけて、すべての生徒の注意をひき、みんなで「注目！」と叫ぶように導きます。)

誰か、気づかなかった人はいますか？ みんなの注目を集めるのに、十分な大きさでした。でも、これは人間が吹いたトランペットです。イエス様が戻って来られるときには、大勢の天使たちがトランペットを吹くのを想像してみてください。それについて、テサロニケの信徒への手紙1・4章16～18節を読んでみましょう。

(一人の生徒に聖句を読んでもらい、何人かの生徒に自分の言葉に言い換えたものを発表してもらいます。全員で聖句シートに記入させます。)

誰ひとり、イエス様の再臨を見逃す人はいません。すでに亡くなった神様に忠実だった人々もそれを聞くのです。彼らは、天使長の声と神様のトランペットの音色を聞くとき、復活するのです。すべての人に対して秘密にされたりしません。イエス様がおいでになったこと、約束通りに来られたことに驚く人がいるかもしれませんが、それは、次の日のニュースで聞くようなことはありません。地球上のすべての人が決して見逃すことのない出来事なのです。

(ヨハネの黙示録1章7節「すべての人の目が彼を仰ぎ見る」と、ルカによる福音書17章24節「稲妻がひらめいて、大空の端から端へと輝くように、人の子も……現れる」も参照する。)

すべての人が目撃するのです。ここでみんなに質問したいのは、「イエス様が再臨されることを、あなたは嬉しいと思いますか？ それとも悲しく思いますか？」。イエス様とお会いすることを楽しみにしていた人にとっては、おそらく、生涯で一番幸せな日になります。でも、イエス様に反対している人にとっては、生涯で最悪の日になります。トランペットが鳴り響きます。神様の側にいることを選んだ人々にとって、その日は、素晴らしい日となります。テサロニケの信徒への手紙1・4章16～18節が、「今述べた言葉によって励まし合いなさい」という言葉で終わっているのは当然のことです。

この課のワークシートを見てみましょう。最初の質問は、「イエス様が再臨なさるとき、どんな出来事が起きますか？」です。今までに、私たちが発見したり、話し合ったりしたことは、何だったでしょうか？

(生徒からの応答を求めます。生徒が見つけるのに困っていたら、テサロニケの信徒への手紙1・4章16～18節をもう一度読むように言いましょう。)

その通り。イエス様が再臨なさるとき(イエス様が赤ちゃんとして、初めて地球に来たのは、約2000年前でした)、次のことが起きると期待できます。

イエス様はトランペットの鳴り響く音と天使長の声と共に到着されます。

イエス様のために忠実に生きて死んだ人々が復活します。

神の民は、すべて天国に引き上げられます。

イエス様が再臨なさるとき、イエス様に反対していた人々はどうなるのか、と思うかもしれませんが、神の民は、すべて天国に連れて行かれます。テサロニケの信徒への手紙2(1章8～10節と、2章

8節)によれば、イエス様に反対していた人々は、イエス様の再臨の輝きに打たれて死んでしまいます。

Ⅲ. ヨハネの黙示録 20 章 1～2 節： 再臨の後で、何が続きますか？ 私たちは、永遠に天国にいるのでしょうか？

千年期（英語ではミレニアムと言います）という言葉の意味を知ってる人はいますか？

（生徒からの応答）

「ミレニアム」とは、ラテン語で「1,000 年間」を意味する言葉です。聖書の最後にある章は、イエス様の再臨に続いて起こる 1,000 年を特別に説明しています。ヨハネの黙示録 20 章 1～2 節を開き、千年期の最初に何が起こるのかを読んでみましょう。

（一人の生徒に聖句を読ませます。現実的に考えれば、黙示録の象徴的な言葉は生徒には難しいかもしれません。「底なしの淵」は、「誰もいない場所」あるいは「海の底」。「サタンを縛るくさり」は、神様の民が天国にいる間、サタンが地球上で身動きが取れない状況を象徴しています。「竜」は読むだけで分かると思います。何人かの生徒に自分の言葉で言い換えさせます。すべての生徒に自分の言い換えた言葉を聖句シート 3 に書かせます。）

（ヨハネの黙示録 20 章は、千年期について述べている唯一の聖句です。この重要な章については、さらに学びを深める必要があるかもしれません。この学びのための千年期の鍵となるキーポイントは以下の通りです。）

黙示録 20 章の残りの部分（今回は学びませんが）には、千年期について鍵となるアイデアがあります。ワークシート箇条書きにして書かれています。（ワークシートを開いて見てみましょう。）

- ・神の民は天国にいて、神様に地球の歴史に関していろいろな質問をします。これらの質問は、千年期（1,000 年）の間に答えられます。
- ・地球に再び神様の王国、新エルサレムを設立するために、イエス様が神の民と共に地上に戻って来られます。
- ・サタンとサタンに従う者たちが、神様と神の民を破壊しようと試みます。
- ・サタンとサタンに従う者たちは、滅ぼされて二度と復活しません。
- ・この地球が再び新しい状態を取り戻し、もはやサタンも罪も悲しみも死もありません。

遊び：神様に質問しよう

生徒に、黒い紙で作ったカードを何枚か渡します。神様への質問を、何でもいいので鉛筆やボールペンで書いてもらいます。黒い紙に黒い文字を書くことはとてもユニークなことかもしれません。これは、神様だけに届ける質問カードなのです。他の人には見ないし、誰も答えません。実際にいくつかの質問には、神様しか答えることができないでしょう。千年期（1,000 年間）の間、神様の民はそれぞれ、すべての質問に答えていただくことが

できます。神様がどんな方なのか、神様はどんなことをなさったのか、そして、将来神様がなさろうとしていることについて、生徒たちが書いた質問を箱に入れるように導きます。これらは神様に渡すので、箱の上の部分に穴を開け、そこから入れてもらいます。すべての質問を集め、安全な箱に入れられたあと、生徒たちに、この質問に答えられるのは神様だけであることを思い起こさせます。教師は、神様だけがこれらの質問に答えることができること、そして神様は必ず答えてくださることを表すために、焼き尽くす神様への供え物としてささげる準備をします。なぜなら、これらの質問に千年期の間には答えてくださることを神様が約束してくださったからです。お部屋の安全な場所、または屋外の安全が確保できる場所で、この箱を神様への焼き尽くす供え物としてささげ、完全に燃やし尽くします。

〈途中説明〉私たちのすべての質問、秘密の質問にも神様は答えてくださいますが、神様が私たちに秘密にしておきたくないことがあります。それは、もうすぐイエス様が地球に戻って来て、罪と苦しみを終わらせることです。イエス様は、このことをすべての人に知ってもらいたいのです。あなたは、そのことをみんなに知ってもらいたいのですか？

IV. マタイによる福音書 24 章 14 節： すべての人が、これらのことに気づく必要があります。

これまで数え切れないほど、人々は、イエス様がいつ地球に戻って来られるのか、予測を試みてきました。セブンスデー・アドベンチスト教会が始まる少し前に、1844年10月22日を特定して、イエス様がきつと再臨される、というとても大きな運動が起こりましたが、その日、イエス様は戻って来られませんでした。しかし、イエス様にお会いしたいと心から願う人々は、イエス様がいつ戻ってきてもかまわないように、毎日を大切に生きました。彼らは、イエス様といつでも顔と顔を合わせてお会いする準備ができていたのです。彼らがあまりにも、再臨を待ち続けているので、周りの人は彼らのことを「アドベンチスト（再臨待望者）」呼ぶようになりました。

あなたは、アドベンチストですか？ あなたは、イエス様の再臨を楽しみにしていますか？ もし、あなたが、この偉大な出来事を心から待っているなら、そのことをみんなにも伝えましょう！ 聖書は私たちに、このニュースをもっと多くの人々に知らせるように告げています。マタイによる福音書 24 章 14 節を読んでみましょう。

（一人の生徒に聖句を読ませ、聖句シート 3 に言い換えた言葉を書くまえに、みんなで話し合いをします。）

よい知らせとは、イエス様の「賜物」のおかげで、イエス様とサタンの戦いにおいて、私たちが神様の側に立つことが許されたということ（第 1 課を見てください）、そして「永遠の命」というプレゼントを受け取ることができるということです。イエス様の再臨（二度目に地球に戻られる）のとき、

すべての人がそのことを知ります。神様の賜物を受け入れた人々にはよい知らせですが、受け入れなかった人々にとっては、とても悪い知らせとなります。私たちは、よい知らせを知り、伝えることができるのですから、他の人々も神様の賜物を受け入れることができるようにお話するのです！

(生徒ワークシートの質問3について、このタイミングで、あるいは次の項目のあとで答えさせてください。)

V. マタイによる福音書 28 章 19、20 節： イエス様は、ご自分に従う者に、この福音を世界中に 宣べ伝えるようにお命じになりました。そしてイエス様は、 いつも私たちと共にいてくださいます！

他の人々にイエス様と再臨についてのよい知らせを伝えるのは、牧師先生の働きだと考えている人たちがいます。それは、大きな間違いです！ 神様に従う人々はみな、他の人々によい知らせを伝えることができます。これは先生だけの考えではありません。マタイによる福音書 28 章 19、20 節を読んでみましょう。このみ言葉を、「大宣教命令」と呼ぶ人たちがいます。それはイエス様ご自身が、従うすべての人々に、この福音／よい知らせを伝えるように命じているからです。

(一人の生徒に声に出して読ませ、他の生徒は、一緒に聖句を目で追います。それにはどんな意味があるか話し合っ、聖句シート 3 にそれぞれが言い換えた言葉を書かせます。)

(前の項で生徒ワークシートの質問3をやっていない場合には、ここでさせます。)

遊び：大きな集まりへの招待

イエス様の再臨は、世界最大の集まりです。イエス様は、数千年間をかけて、この計画たてられました。あなたは、この集まりに招待され、そして他の人々を招待する役割も与えられたのです！ 生徒ワークシートには、白紙の招待者リストがあります。あなたが、イエス様の再臨という大きな集まりに招待したいと思う人の名前を書くことができます。

(生徒ワークシート 3 をしましょう。)

〈途中説明〉これはとても偉大なことです。この地球をはじめに創られたお方が、もう一度地球を回復してくださるのです。そして神様は、この素晴らしい集まりに私たちを個人的に招待してくださいます。いいえ、招待されただけでなく、他の人も招待できるようにして下さったのです。

結論

リストの一番上に、あなたの名前を書きましょう。神様はあなたを、この集まりに招待してくださ

いました！ あなたは、イエス様が戻って来られるという約束を信じますか？

その下に、あなたが、この集まりに絶対に一緒にいて欲しい4人の人の名前を書きましょう。あなたの家族、友だち、またあなたの知っている人々です。

次の一週間、このリストの一人ひとりに会って、世界で一番大きな集まりに参加したいか、聞いてみましょう。直接会ってもいいですし、電話をかけたり、手紙を書いたりしてもかまいません。あるいはメールやメッセージを送ったり、LINEなどを使ってみるのもいいでしょう。世界最大の集まりとは、イエス様の再臨である、と彼らに説明するのです。そして、永遠の命という賜物（無料の贈り物）を受け入れるつもりがあるかどうか、尋ねてみましょう。彼らが決心することは、彼らの人生の中で、イエス様の再臨が最高の集まりになるか、最悪の集まりになるかを定めることになるのです。彼らがまだ、永遠の命という無料の贈り物を受け入れていないのなら、それを、たった今受け入れるように招きましょう。

次の学びの時に、集まりに招待したいリストに名前を書いた人のお返事をお互いに発表しましょう。では、いまから少し時間をあげますので、よく考えて4人の名前を書いてください。もちろん、4人以上名前を書いてもかまいません。

（生徒がリストに名前を書いたら、なにか質問がないかを確認します。そして、終わりのお祈りをします。）

イツツ・マイ・チョイス
It's my choice

私の選択

4

探し求める
～聖所





バプテスマガイド 4 概要

探し求める～聖所

導入：神様の絵を描く。

- I. 聖所の目的は、神様が彼らと共にいることを神の民がわかるためでした。
(出エジプト記 25 章 8 節)
- II. 地上の聖所は、天の聖所に類似していました。(ヘブライ人への手紙 8 章 1、2、5 節)
 - A. 地上の聖所が建てられ、神様は、神の民と共に住むことができました。
 - B. 地上の聖所の象徴が意味するもの。
- III. 天の聖所は、2300 日（／年）の後に「清められます」(ダニエル書 8 章 14 節)。
 - A. 1844 年 10 月 22 日、ニュー・イングランドでの出来事。
 - B. ダニエル書 8 章 14 節に書かれている預言。
 - C. 聖所＝天が清められる＝元の状態に戻す／正しくする、裁き
- IV. イエス様は、神殿を清められました。(マルコによる福音書 11 章 15～17 節)
 - A. イエス様は、公生涯の初めと終わりに、神殿（宮）を清められました。
 - B. 荒野の聖所と、イエス様の時代のヘロデの神殿を比較してみましょう。
 - C. イエス様ご自身が、新しい聖所。
- V. 二人または三人がイエス様の御名によって集まっているところには、イエス様が彼らと一緒に
おられるのです。(マタイによる福音書 18 章 20 節)。
 - A. 現在、聖所はどこにあるでしょうか？
 - B. 現在、イエス様／神様はどこにおられるでしょうか？
 - C. イエス様は、人や場所を聖別されました。

結論：神様は、私たちと一緒にいたいと願っている。



バプテスマガイド 4 要点

探し求める～聖所

聖句

1. 出エジプト記 25 章 8 節：神様は、ご自分の民と共にいるために、モーセに聖所を作るように指示されました。
2. ヘブライ人への手紙 8 章 1、2、5 節：地上の聖所は、天の聖所に類似しています。
3. ダニエル書 8 章 14 節：天の聖所は、2300 日（／年）の後に「清められます」。
4. マルコによる福音書 11 章 15～17 節：イエス様が地上におられたとき、神殿（宮）を清められました。
5. マタイによる福音書 18 章 20 節：イエス様の御名によって集まっているところには、イエス様ご自身がおられます。

決心の時間

あなたがどこにしようとも、イエス様の前で生きましょう。

神様が、私たちの内に住むために、私たちを聖所としてくださるよう、祈りましょう（歌いましょう）。

具体的に（ステージ 3 の子どもに適切に）

「かくれんぼ」をする。

「神様の絵」

神様の絵を描いてみましょう。

幕屋の絵図。

荒野の幕屋の各部分が示すところに、名前を付ける。

「香の光景と匂い」

天の神に昇って行く私たちの祈りの象徴であるお香をたいて香りと煙を見る。

キリストが地上におられたときのヘロデの神殿の絵図。

「私の友だちを見ましたか？」

生徒たちの知らないあなたの友だちの写真

「聖所」についての讃美歌を歌う。

用意するもの

- ・ 聖書、生徒用ワークブック、ボールペンか鉛筆、色鉛筆。
- ・ 他の生徒が知らないあなたの友だちの写真。
- ・ お香と火をつけるもの



バプテスマガイド 4 内容

探し求める～聖所

はじめに

アダムとエバは、エデンの園で神様と顔と顔を合わせて話すことが出来ました。しかしこの世界に罪が入ってから、人間は、これまでと同じようには神様を見ることが出来なくなりました。神様が直接私たちと話し、顔と顔を合わせることはできなくなりましたが、神様は他の方法で、ご自分がどんな方であるかを教えようとされました。

かくれんぼをしたことがあるでしょうか？ 神様は隠れていて、私たちは必死に神様を探している、と考える人がいます。でもそれは違います。神様は、エレミヤを通して私たちに言われました。「わたしを尋ね求めるならば見だし、心を尽くしてわたしを求めるなら、わたしに出会うであろう」（エレミヤ書 29 章 13、14 節）。あなたはこれまで、心をつくして神様を尋ね求めましたか？ それとも、中途半端に求めましたか？ おそらくあなたはあまり本気ではなかったはずです。

遊び：かくれんぼ

大人も子どもも楽しめるゲームがありますね。かくれんぼです。今からみなさんと一緒にかくれんぼをしましょう。一人の人が目を閉じて数を数えます。その間に他の人は隠れます。数を数えた人が、隠れた人たちを「探して見つける」のです。さあ、はじめましょう。

（リーダー／先生はこの学びのために、実際に生徒たちとかくれんぼをすることもできます。あるいは、かくれんぼについて話すだけでも結構です。）

〈途中説明〉誰かを探すことは、簡単なときもあれば、難しいときもありますね。あなたにとって、神様を見つけることは簡単ですか？ それとも難しいですか？ 神様は離れた場所に隠れていると思いますか？ それとも簡単に見つけられる場所にいると思いますか？ 私たちはいったいどこで神様を探したらよいのでしょうか？

神様を捜すときに、目で見つけようとするのではなくて、神様の声を聞こうとするのが良い方法かもしれません。あなたは、神様の声を、先生の声聞くのと同じように聞いたことがありますか？ 特別な人はそのような経験があるかもしれませんが、ほとんどの人はないと思います。でも、神様はある方法を通して私たちにメッセージを送ることがあります。神様が、私たちに話しかけてくださる方法を思いついた人は教えてください。

（生徒に答えてもらいましょう。答えの例は、聖書、自然、両親、学校の先生、静かな小さな声、

教会で先生から聞いた話、礼拝説教、など。)

遊び：神様の絵

ワークブックの1ページ全部を使って、神様がどういうお方であるか、想像して描いてみましょう。先生もみなさんも、神様の顔を直接見たことがないので、神様の「似顔絵」を描きましょう、とは言っていません。みなさんの想像力を使いましょう。有名な画家たちは、神様の顔を描くことに挑戦してきましたし、みなさんもそのうちの幾つかを見たことがあるはずです。今日は、みなさんが画家となって描く番です。今から6分～8分時間がありますから、まずは描き始めてみて、細かいところはあとで描くようにしましょう。さあ、あなたの想像する神様の顔を描いてみましょう。

(ほとんどの生徒は、神様を描くことに遠慮がちです。幼い子どものほうが簡単に出来るかもしれません。生徒を励まして、神様が自分にとってどんなお方が、想像力を発揮させましょう。絵を描き始めたなら、励ましましょう。これは美術の能力だけでなく、生徒にとって神様の存在を自覚させることになります。時間が来たら、生徒同士お互いに見せ合ひましょう。さらに描くために時間を取るか、あるいは後で描いてもOKです。)

〈途中説明〉私たちが描く神様の絵は、これまで私たちが経験したことや、他の人から聞いた情報に基づいています。神様の絵を上手に描こうとしても、どこかが違っていたり、思ったのとは全然違う姿になってしまうかもしれません。それでも描けば描くほど、神様はご自分がどんなお方であるかをさらに教えてくださいます。神様の絵をこれからも描き続けましょう！

この世界に罪が入ったとき、罪は私たちと神様の間を切り離しました。イエス様が、私たちの所に来てくださったので、私たちは、再び神様とつながることができるようになりました。神様はご自分の民に、罪のない「小羊」を犠牲としてささげるようにお命じになり、このことを通して、罪のないイエス様が、私たちの罪を負ってくださることを教えられました。旧約聖書の中で、神の民が祭壇を建てて小羊を犠牲としてささげ、神様を礼拝した記録を読むことができます(創世記8章20節、12章7～8節、22章12～13節を参照)。神様は、人間が罪の問題をどう取り扱ったらよいのかを、ご自分の民に示してくださったのです。私たちのすべき方法は、神様を礼拝し、神様に犠牲をささげることです。そうすれば、神様は私たちの罪を赦し、罪を取り除いてくださいます。

神様が、イスラエルの民をエジプトから救い出されたとき、その道中で、神様の存在を多くのかたちでお示しになりました。十の災い、紅海(海)を渡る経験、道を指し示す雲の柱や火の柱、シナイ山での十戒——これらすべては、神様が神の民に対して意思を伝える方法でした。さらにもう一つ、神様がシナイ山でお命じになったことは、聖所——神殿と呼ばれることもある——を作る計画を与えたことでした。このことについては、出エジプト記25章8節を読んでみましょう。

(一人の生徒に読ませ、話し合いの後で、聖句シート 4 に言い換えた言葉を書かせます。)

I. 出エジプト記 25 章 8 節： 聖所の目的は、神様が共にいることを 神の民がわかることでした

神様は、聖所を作らせることによって、神の民にご自分がどんな方であるかをさらにお示しになりました。聖所は、神の民がいつでも見て、触れることができ、神と一緒にいる平安を与えました。神様は、毎日の活動を通して、民が神様を忘れないようにし、週に一度の安息日には神様を礼拝するために集まり、また年毎の宗教的なお祭りを始められました。

毎朝、毎夕、祭司たちはグループ全体のために犠牲をささげ、神様が日毎に私たちに救ってくださることを思い起こさせました。民自身も、彼らの罪を神様に告白し、神様の赦しの賜物と罪からの清めを受けるために、小羊を犠牲としてささげました。毎週安息日には、民は普段とは違う一日を過ごします。安息日は、一日中神様に礼拝をささげたからです。それは、神様がどんなお方であるかを思い起こし、また、民自身が「神様の子ども」であることを忘れないでいるためでした。

神の民は、年に七つの宗教的なお祭りを祝いました。その中には、過ぎ越しの祭り、五旬祭、贖いの日などがありました。これを毎年行うことによって、神の民は、彼らの過去、現在、未来における神様の働きを思い起こしました。

聖所は、神様がどんなお方であることを示す象徴で満ちあふれていました。ワークシート 4 を開いて、項目 2 に書かれている、モーセの時代の荒野の聖所を見てください。次の聖句のあとにまた戻って来ますが、まずはみなさんに見ておいて欲しいのです。

(ワークシート 4 の項目 2 を短く見るよう指示しましょう。詳しい説明は、後でいたします。)

旧約聖書に書かれているのと同じ聖所が、新約聖書の終わりの場面でも登場します。この 2 つの聖所は、同じところもあれば、違うところもあります。ヘブライ人への手紙 8 章を開いて読んでみましょう。

II. ヘブライ人への手紙 8 章 1、2、5 節： 地上の聖所は、天の聖所に似ています。

神様は、ご自分の民に対して、象徴を用いて意思を伝えました。神様が民と共に住むために、モーセに聖所を建てるように命じられたとき、神様は、人々が天幕に住むのと同じように、聖所も天幕のかたちに作るように言われました。後の時代、ソロモンが神様の神殿を建てたときには、人々がもはや砂漠の天幕ではなく、恒久的な家を建てたのと同じように、聖所も永久的な構造の建物にするようにお命じになったのです。しかし、神様は御自分と民について、教えるもう一つの方法として、ある象徴を用いて明らかになさいました。

ヘブライ人への手紙 8 章 1、2、5 節を読んで、ここに書いてあることに注目しましょう。

(一人の生徒に聖句を声に出して読ませ、言葉の言い換えをして話し合いをしましょう。これは、

少し複雑になります。なぜならこの聖句の場所は、新しい、より素晴らしい契約の大祭司としてのイエス様が優れていることを示しているからです。この聖句は、天にあるものは、地上にあるものよりも優れていることを指摘しています。)

旧約聖書の祭司は、神様と神の民をつなぐための大事な役割を果たしてきたことを聞いたことがあるかもしれません。祭司の働きとは、私たちと神様とをつなげる、イエス様の来臨を象徴していました。

さらに神様は、神の聖所に特定の意味を持たせられました。出エジプト記 25～30 章には、そのことについて詳細に書かれています。地上の聖所は、天の聖所と似ています。それは、写しあるいは、ひな形とも呼ばれます。(旧約聖書のヘブル語 tabnith から来ている。出エジプト記 25 章 9 節を参照。また、新約聖書のギリシャ語 tupos に似ています。ヘブライ人への手紙 8 章 5 節を参照)。ワークシート 4 の項目 2 に戻って、荒野の幕屋の略図を見てみましょう。項目 3 は、荒野の聖所の異なった部分を記しています。それぞれが、象徴しているものを記入します。

(ワークシート 4 の項目 2 と 3 に答えさせましょう。それぞれの道具が本来持っている意味、そしてそれらが象徴する、霊的な意味が理解できるように助けます。例えば、「燭台」は、聖所の中を明るく照らしましたが、それは、霊的な意味では、イエス様が私たちを明るく照らしてくださるので、私たちは安心して人生を歩むことができる、ということ象徴しています。生徒同士の話し合いのために時間を取りましょう。聖所の各部分は、日常的な神様の助け、という側面を私たちに教えてくれます。象徴は、それを理解したときに力になるのです。天の燭台と、荒野の幕屋の燭台とが同じである、というような字義通りに考える「わな」に陥らないようにしましょう。ソロモンの神殿には、燭台が 10 個ありました。南側に 5 つ、北側に 5 つ [歴代誌下 4 章 7 節] です。思い出してください。ヨハネが描いたイエス様は、7 つの燭台の間を歩いておられます [ヨハネの黙示録 1 章 12、13 節]。)

これらが、荒野の聖所が示す象徴です。

- 焼きつくす供え物の祭壇 = イエス様の死
- 洗盤 = 罪の赦しとバプテスマ
- 供え物のパン机 = 命のパンとしてのイエス様
- 燭台 = 世の光としてのイエス様
- 香の祭壇 = 神様に対する私たちの祈り

遊び：香の光景と匂い

お香に火をつけて、天に昇って行く私たちの祈りのたとえとして生徒たちに見せてください。私たちは、普段、匂いを神様と関係して活用しませんが、神様は用いられました！ 焼きつくす供え物の祭壇から火が燃え上がり、炭は香を燃やし、香りを放つことを通して、神様に対する私たちの祈りのイメージを作り上げました（香の祭壇からは、覆いを通して、至聖所へ）。私たちは、香りを一緒に記憶することがあります。

〈途中説明〉 聖所ではこれらのことが実際に行われていました。このことは、神の民が神様のお姿をよりよくイメージするための助けとなりました。聖所の他の部分についても考えてみましょう。

- ・ 契約の箱 = 神様の玉座
- ・ 中庭 = イエス様の贖い——いかに、イエス様が私たちに近づいてくださるか。
- ・ 聖所 = イエス様が毎日私たちのためにしてくださっていること。
- ・ 至聖所 = 裁きと罪の一扫

私たちは、顔と顔を合わせて神様を見ることができません。しかし、神様がデザインされた聖所の象徴を理解することによって、もっと神様についてたくさんを知ることができます。特にイエス様が私たちのためにしてくださった数々の出来事を。

遊び：私の友だちを見ましたか？

私の友だちについて、みんなに調べてもらうゲームです。他の生徒は、私の友人に会ったことはありませんが、友達の写真を見せて、いろいろなことを発見してもらいます。

(生徒たちが写真から何を発見するかに注目してください。多くのことが見つけれられるような写真を選んでください。)

〈途中説明〉「百聞は一見にしかず」。私たちは写真を見ることによって、多くのことを知ることができます。セブンスデー・アドベンチストの先駆者にとっては、「聖所」こそが神様の姿を力強く印象付けるものでした。

Ⅲ. ダニエル書 8 章 14 節： 2300 日（/年）の後に、天の聖所が「清められる」

セブンスデー・アドベンチスト教会が始まる少し前、ニュー・イングランド州の人々の多くは、イエス様の再臨が 1844 年 10 月 22 日にあると確信していました。なぜ、彼らはこのような確信を持っていたのでしょうか？ どのようにして、日付の特定に至ったのでしょうか？ 一つの意義深い聖句が彼らをこの結論に導いていました。それは、ダニエル書 8 章 14 節です。みんなで読んでみましょう。

(一人の生徒に読ませ、全員にそれがどのような意味なのかを尋ねます。)

キーワードは、「2300 日」「聖所」「清められる」です。ダニエル書とヨハネの黙示録の大部分のように、聖書が象徴的に語っているときは、1 日は 1 年を表します（エゼキエル書 4 章 6 節と民数記 14 章 34 節を参照）。ですから、2300 日は 2300 年を表します。ダニエル書 9 章の預言を計算したところ、2300 年は、1844 年 10 月 22 日に終わると結論付けられたのです。

しかし、ダニエル書8章14節で言われているのは、天の聖所のことです。1844年にイエス様が再臨すると期待していた人々は、ダニエル書が言っている聖所を、地上のことであると思い違いしてしまいました。彼らは、この日イエス様が地球においでになり、この地を清めて、贖いの日のように、罪が永遠に取り除かれる裁きの日であるを行われると理解してしまったのです。

「清められる」と翻訳されている単語には、幾つかの意味があります。それらは「正義」「正しい」「清められる」「純粋な」「回復される」などです。さらなる研究により、セブンスデー・アドベンチストは、これを再臨前の裁きを意味している、と理解するようになりました。サタンは、神様が公正な方ではないと非難し、私たち人間は天国に入る資格がない、と非難し続けてきました。ダニエルは、将来神様がすべての罪を取り除かれる、という約束を受け取りました。それは、本当によい知らせです！

深い意味のある聖句を読んで考えてきましたが、聖句シートに、あなた自身が言い換えた言葉を記入してみましょう。

(学んだポイントを復習する準備をしましょう。さらに詳しく説明するかどうかは、先生が決めてください。)

旧約聖書の時代の聖所には、三つの種類の「清め」(あるいはもう一度正しい状態にする)がありました。

1. 罪が永遠に除かれることを象徴する、毎年贖いの日
2. 人々が神様の神殿を異教の礼拝に用いたとき、それを、正しい状態にする必要があるとき。
3. 神殿が修復を必要とするとき。

(贖いの日の清めについては、レビ記16章を読んでください。生徒たちへの具体的な例としては、

- ・3学期の終わりに教室や机をきれいにすること
- ・家の改築やリフォームをすること

が、分りやすいでしょう。異教の汚れからの清めが必要なことについては、列王記下16章10～16節、21章4節、エレミヤ書23章11、14節を参照。ユダヤ教のハヌカは、この種の清めをお祝いするものです。神殿の修復が必要なときの例は、列王記下22章3～23章20節を参照。)

このように、神様の聖所は定期的に清められる必要がありました。ダニエルには、未来の清めに関する幻が与えられました。セブンスデー・アドベンチストは、これを「神様の最後の裁きは近く、罪は永遠に取り除かれる」という重要なメッセージであると解釈してきました。

IV. マルコによる福音書11章15～17節： イエス様は、神殿(宮)を清められました。

聖所の清めとして最も有名な出来事は、イエス様が地上におられたときに起こりました。イエス様は、公生涯の初め(ヨハネによる福音書2章13～16節)と終わり(マタイによる福音書21章12～14節、マルコによる福音書11章15～17節、ルカによる福音書19章45～46節)に行われました。イエス様の時代の神殿には市場があり、宗教指導者はそこでお金もうけをしていました。神殿の中です！ワークシートの項目4を見てみましょう。ここに、イエス様の時代の神殿がどのようであったかが図で表されています。両替所や動物の市場は、「異邦人の中庭」にありました。イエス

様の時代の神殿である「ヘロデの神殿」とモーセの時代の荒野の幕屋では、どこが違っていて、どこが同じでしょうか。

(項目2と項目4を比べてみましょう。)

(2つの神殿の比較ができるように生徒を助けましょう。荒野の幕屋の後、ソロモン王が美しい神殿を建てましたが、紀元前600年ごろにバビロニア人によって破壊されました。バビロニア捕囚に続き、紀元前500年ごろに、ゼルバベルの指導の下で再び神殿が建てられました。ヘロデの神殿は、この神殿を改築し、拡大したものでした。イエス様の時代の宗教指導者たちは、「ヘロデの神殿」を建てるのに46年かかったと主張しました(ヨハネによる福音書2章20節を参照)。ヘロデの神殿は大きく、階層構造になっていました。至聖所が最も高い階にあり、そこから位ごとに徐々に低く離れていきました。「イスラエルの中庭」は、男性だけが入ることができ、祭司の階に次ぐ高さにありました。女性は低い階にしか入ることができず、男性とは遠く離れていました。ユダヤ人でない民衆は「異邦人」と呼ばれ、彼らが入ることが許された場所は、ユダヤ人の女性よりもさらに下の階でした。ユダヤ人は標識を立てて、もし異邦人が「異邦人の中庭」より中に入ってきたならば、彼らをとらえて殺すことができる、自業自得であると明記しました。だから、両替商と動物の商人たちは、「異邦人の中庭」で市場を開いていたのです。)

イエス様が、異邦人の中庭から両替商と動物の商人を追い出して、神殿を清められたときに、神殿では大きな騒ぎが起きました！ イエス様がしたことは、権力者にとって、彼らの顔に盗人のラベルを貼る行為でした。それでもイエス様は、異邦人の中庭を聖くされたのです。「教会は、決して変えられない」と主張する人がいますが、イエス様が現れたときには、神殿は確かに変わったのです！ もしあなたの教会に実際にイエス様が現れたら、どんなことが起きると思いますか？

(質問するときには、教会に対する不平にならないように気をつけましょう。若者は、教会のいくつかの伝統については理解できないことがあります。人々は、古い時代から続くしきたりに慣れてしまい、当時の人々が正しいと考えたことが伝統になっていきます。ですから、必ずしも正しいことに基づいて伝統を作っているわけではありません。宗教は、しばしば時代を経て悪くなることがあるのはそのためです。しかし、若者たちの言い分がすべて正しいわけではなく、彼らは伝統に縛られたくない傾向をもっています。教会をすべての人の祈りの家にするために、イエス様が願っておられる「清め」を行うために、生徒たちができることについて話し合しましょう。)

旧約聖書の時代には、聖所と至聖所は、聖所の一部でした。イエス様が、それを正しい状態にするために聖所を「清められた」ときに、大きな変化がもたらされました。ユダヤ人の指導者や、イエス様の弟子たちでさえ、聖所の建物を重要視しましたが、イエス様は、神ご自身が建物よりも偉大であると教えられたことによって、「伝統」に挑戦されたのです(マタイによる福音書12章6節を参照)。イエス様は神殿を壊し、それを三日のうちに立て直す、と約束なさいました。イエス様がおられるならば、神様とお会いするためには聖所も神殿も必要ないのです。イエス様ご自身が神様だからです！

V. マタイによる福音書 18 章 20 節： イエス様のみ名によって二人または三人が集まって いるところには、イエス様が一緒におられます。

復活のあとで、イエス様は天にお帰りになりました。これには、いくつかの疑問が起きるかもしれません。しばらくの間、良く考え、そして考えたことを教えてください。今、聖所に関して、私たちは何をすべきでしょうか？ 神様は今どこに住んでおられるのでしょうか？ 私たちが神様を探し求めるとき、どこで見つけることができるのでしょうか？

(しばらく、考える時間を取り、そのあとで発表してもらいましょう。具体的思考者は、現実と認めるのに触ったり、見たり、聞いたりする「何か」が必要なので、とても難しいかもしれません。生徒たちの答えによっては、次のセクションをどのように扱うかに影響するかもしれません。ワークシートの質問6と7をさせてもよいでしょう。)

私たちは教会に行き、時々、その場所を神様の家と呼びます。パウロは、コリントの教会員に（コリントの信徒への手紙1・3章16節）「あなたがたは神の宮であって、神のみ霊が、自分の内に宿っているのを知らないのか」と言いました。神様の聖霊は、建物の中ではなく、神様に従う者たちの内側に住まわれるのです。旧約聖書の時代には、神様は聖所に住まわれました。新約聖書の時代には、神様は、イエス様と神様の民の心の「宮」に住まわれるように変わったのです。

聖所に関する聖書の学びの最後の聖句を読んでみましょう。マタイによる福音書18章20節です。

(一人の生徒に読んでもらい、他の生徒に言い換えた言葉で発表してもらいます。そして、聖句シートに自分の言い換えた言葉を書かせます。神様の御名によって共に集まっている場所には、神様が住まわれるという事について、しばらく、話し合いをしてみましょう。これはつまり、私たちの聖書の学びの間も、イエス様が一緒におられた、ということです！)

これは、驚くべきことではないでしょうか？ 今では聖所、つまり神様がお住みになる所とは、神様の民がいるすべての場所なのです。安息日に神様の民が教会に参加するとき、神様はそこにおられます。神様の民が教会を出て社会へ戻っていくとき、神様は彼らと一緒に出て行かれるのです。私たちは、教会を「聖なる場所」と呼ぶかもしれませんが、もし神様があなたと一緒におられるなら、あなたがどこに行ったとしても、その場所が「聖なる場所」になるのです。今や神様の聖所は、一つの場所に限定されないのです！

結論

一番大切なことは、神様が、私たちと一緒にいたいと願っておられるということです。この世界に罪が入ってきてからも、神様はずっと、私たちと共にいらっしゃいました。しかし、エデンの園で目の前にいらっしゃったのとは違う形です。イエス様は、ご自分の民に聖所を作らせ、ご自分の姿に関する良いイメージを与えようとされました。しかし、民はすっかり聖所の存在に慣れてしまったので、神様には「清め」「正しくし」「あるべき姿に戻す」必要が起きました。これらの事が何度も起き、それはいつの日か、神様が罪を消し去られる最後のときのために、すべてを正しくする、という事実を

象徴することになりました。

イエス様が地球に来られた後、神様の聖所はもはや、「聖所」あるいは「神殿」と呼ばれる建物ではなくなりました。今や、聖霊が神様の民の中に住むときに、神様は彼らと一緒にいてくださるのです。神様はたった今も、私たちと一緒におられ、私たちを聖所となさるのです。

神様の聖所として、もう一度清められ、あるいは、正しくされる必要がありますか？ 一人ひとりのために今それをしてくださるように、私たちは神様にお願いすることができます。以前聞いたことがあるかもしれない「聖所」という讃美歌を歌うことによって私たちは祈り求めることができます。

(先生が歌をリードするか、誰かにリードしてもらいます。伴奏なしで歌うこともできます。一度歌うと、繰り返し歌いたいと思うかもしれません。歌詞はとてもわかりやすいものです。)

「主よ、聖所となるように準備させてください。

純粋な、聖なる、信頼できる、真実な……。

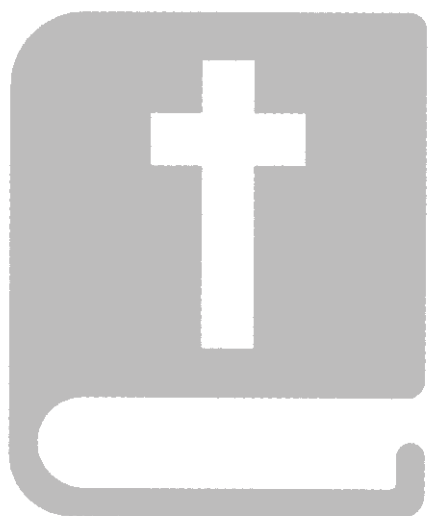
感謝とともに、私はあなたのための生きた聖所となります。」

イツツ・マイ・チョイス
It's my choice

私の選択

5

スペシャル
～靈的な生活





バプテスマガイド 5 概要 スペシャル～靈的な生活

導入：どのようにして、話をするのか？

- I. 聖書は、私たちのために神様から与えられました。(テモテへの手紙2・3章 15～17節)
 - A. 私たちは、本からたくさんのことを学ぶことができます。聖書は66の書物から成っています。
 - B. 聖書は、救いについて教えています。
 - C. 聖書は、どのように書かれたのか？

- II. 離乳食、それから堅い食べ物、ペトロの手紙1・2章2節。(ヘブライ人への手紙5章12～14節)
 - A. 聖書物語をいくつ知っていますか？
 - B. 情報を超えて、理解へ行くととき。
 - C. 聖書を自分のために読む。
 - D. 様々な訳の聖書。

- III. 神様と話をする。主の祈り。(マタイによる福音書6章9～15節)
 - A. 私たちが祈るとき、何が起こるのか？
 - B. 主の祈り。
 - C. 神様と語り合う。

- IV. 神様と定期的に会話をする必要がある。ぶどうの木と枝の例。
(ヨハネによる福音書15章4～5節)
 - A. 自分の靈的な生活に責任を持つ
 - B. あなたのディボーション生活
 - C. 花、葉をつけた枝と幹の例え

- V. 尊敬と共に、イエス様を分かち合える用意。(ペトロの手紙1・3章15節)
 - A. あなたの持っているものを分かち合う。ヨルダン川、ガリラヤ湖、死海。
 - B. ペトロの手紙1・3章15節の言い換え。
 - C. イエス様を表現する。イエス様を友人として表現する。

結論：靈的な指導者との関わりや、彼らに靈的な援助者になってもらうことによって、靈的な責任を負えるように成長する。



バプテスマガイド 5 **要点** スペシャル～靈的な生活

聖句

1. テモテへの手紙 2・3 章 15～17 節：神様は、聖書を通して私たちと会話をなさいます。
2. ヘブライ人への手紙 5 章 12～14 節：私たちは学ぶときに成熟します（ペトロの手紙 1・2 章 2 節）
3. マタイによる福音書 6 章 9～13 節：祈りは、私たちと神様との会話です。
4. ヨハネによる福音書 15 章 1、4、5 節：靈的な成長を日課にする。
5. ペトロの手紙 1・3 章 15 節：イエス様を人々と分かち合う準備をする。

決心の時間

自分の靈的な生活に責任を持つ。

具体的に（ステージ 3 の子どもたちに適切に）

教科書や参考書を含む、いくつかの本。インターネット情報。

「赤ちゃんのように食べる」

離乳食を用いて、適切か、適切でないかを考える。

聖書の訳と意識のコピー。

花、葉をつけた枝と幹の例え（切り離してしまうと死んでしまうもの）

生徒に、ある友人の素晴らしいところについて話してもらう。

「神様と話す」

四種類の祈りをしてみる：お願い、感謝、驚き、他人のために。

「関係を失う」

鉢植えの植物の枝が折られるとき。

ヨルダン川、ガリラヤ湖、また死海の例えを用いて、靈的体験と人々にイエス様を紹介することを考える。

用意するもの

- ・ 聖書、生徒用ワークブック、ボールペンまたは鉛筆。
- ・ 教科書、参考書、などのいくつかの本。インターネット環境。
- ・ 何種類かの離乳食。
- ・ 複数の訳の聖書、または聖書のアプリ。
- ・ 鉢植えの植物。花が咲いていて、枝が折れやすいものがあればなお良い。



バプテスマガイド 5 内容 スペシャル～靈的な生活

はじめに

罪が世界に入り込む前にアダムとエバがしていたように、神様と顔と顔を合わせて話したいと思ったことはありませんか？ 私はあります！ イエス様が再びおいでになり、日常的に、イエス様と会話ができる日が待ち遠しいです。イエス様もきっとそれを望んでおられるはずですが、でもそれまでの間、私たちは、どのように神様と話することができるのでしょうか？ 私たちを創られたのは神様なので、私たちは神様と一緒に過ごすことができる日まで、何かしっくりこない、心の奥に穴が空いたような気分になるのです。ある人々はそれを「魂」と呼び、別の人々は「精神」や「心」と呼びます。それは、私たちが何者であるか、本当の意味で誰であることを示す重要な部分です。しかし、多くの人々はそのことを知りません。しかし、すべての人々の内側には、神様とつながりたいと願う「部分」が存在するのです。

1. テモテへの手紙 2・3章 15～17 節： 神様は、聖書を通して私たちと会話をなさいます。

良い先生は、私たちに多くのことを教えてくれますが、ある人々は本を読むことで学びます。先輩たちが長い期間かかって発見したことを、本を読むことですぐに学び取ることができます。本を読むことは、まさに学習への近道のようなものです。あなたが赤ちゃんのときには、両親が色々なことを教えてくれました。しかし成長するにつれ、両親から学んだことだけでなく、今度は自分で学びを深めていくことができる段階になります。この成長期こそ、先生から学ぶことや本を読むことがとても役に立ちます。学校での学びと違い、読書は質問や会話はできませんが、十分に先生の役割を果たします。若い人たちは、印刷された本よりもインターネットの情報をよく調べますが、それも、外側から情報を得る手段としては同じことです。

(生徒がもっている教科書の一つを手にとり、先生の本も同じように取り上げて、本が情報の源であることを示します。参考書などは、とても有益な例です。生徒たちがインターネットで情報を得ることに慣れているなら、その方法も例示して情報を得る手段のひとつであることを説明します。)

神様が私たちと会話をされるひとつの方法は、本を読むことを通してです。神様は、66巻の本を私たちのために提供してくださいました。ある本はとても短く、1ページもありませんが、あるものはとても長く100ページ以上にもなります。その66冊の本が、私たちがよく知っている「聖書」と呼ばれる1冊の本になったのです。テモテへの手紙 2・3章 15～17 節を開いてみましょう。聖書がどこから来て、どんな目的があるのかを調べてみましょう。

(生徒の一人に聖句を読んでもらい、聖書の目的を複数発見させましょう。話し合いのあとで、自

分で言い換えた言葉を聖句シート5に書いてもらいます。)

聖書は、私たちの救いに関わる重要な情報を与えています。私たちがバプテスマの準備の教科書として、聖書を使っている理由がそこにあります。テモテが言っているように、みなさんも、お家で聖書のお話を聞きながら成長しました。みなさんの両親は、聖書に書かれている神様についての情報をみなさんに教えてきたのです。聖書は、救いへの道を示すだけでなく、私たちを訓練し、どうしたら神様喜ばれる人物になれるかについても教えています。

しかし聖書は、ある日、神様がお座りになって書かれたものではありません。では、聖書はどのように書かれたのでしょうか。

(生徒に質問します。聖書を読んだことのある生徒は、ペトロの手紙2・1章21節の「人々が聖霊に導かれて神からの言葉を語った」ことを知っているかもしれません。ワークシート5の最初の質問に答えさせましょう。話し合いの間、生徒たちのいろいろな意見を書き留めてみましょう。あるいは、この学びの最初の文章か、まとめの文章を全員で読んでもいいでしょう。)

実際に、旧約聖書の39巻の書物は、世界の創造から始まり、神様の民の歴史と、彼らが救いの道としてずっと捜し続けていた、約束されたメシアであるイエス様の初臨までを扱っています。最も古い作者は、イエス様が生まれる1500年も前の人物です。異なる作者が、1000年以上にもわたって、神様から与えられたメッセージを記録してきました。いくつかのメッセージは、ある特定の時代についてのメッセージを伝えています。それだけにとどまらず、時代を超えて現代にまで神様の教えを伝えているのです。私たちは、そのメッセージが最初に書かれた時代背景についてよく理解し、それがどのように今の私たちの生活に適用できるかを考えるときに、意味はさらに深められるのです。こうして、聖書は数千年前に書かれた単なる古い書物から、私たちの時代においても意味をなす書物となるのです。

新約聖書の27巻の書物は、イエス様が地上におられたときの物語と、イエス様が天にお帰りになられた後のキリスト教の発展の歴史を記しています。新約聖書の多くの書物は、使徒パウロが異なる教会や個人に宛てて書いた手紙です。例えば、テモテへの手紙2などもその一つです。

II. ヘブライ人への手紙5章12～14節： 私たちは学ぶときに成熟します。

私たちは成長するにつれて、両親や大人から神様について教えてもらう段階から、今度は自分で神様を理解する段階に移って行きます。若い人たちの多くは、聖書物語を一度聞くと、それで十分と思っています。ですから、ダビデとゴリアテや、ダビデとバテシバについて先生が話すのを聞くと、とても退屈そうな顔になります。彼らは、その物語がもつ深い、重要な教えを理解する準備ができていません。

みなさんはどうですか？ どれくらい多くの聖書物語を知っていますか？ 聖書クイズをしたら、完璧に答えることができますか？ そうであれば、より深く理解するための十分な基礎を持っていることになります。あなたは、他の人が教える物語をただ聞く代わりに、自分自身で神様を発見する準備ができていますか？ それとも、まだ霊的な生活については、子どものままでいたいですか？

(ペトロの手紙1・2章2節と対照的に) ヘブライ人への手紙5章12～14節は、霊的な生活において成長することに失敗している人々の問題を指摘しています。

(生徒の一人に、ヘブライ人への手紙5章12～14節を読んでもらい、他の生徒に言い換えをしてもらいます。この聖句は、多くの生徒にとって少し理解し難いので、いつもよりも多く時間が必要かもしれません。生徒たちが理解できたら、聖句シート5に自分の言い換えた言葉を書いてもらいます。)

遊び：赤ちゃんのように食べる。

みなさんは、自分の歯が生える前のことは覚えていないでしょうね。全員が離乳食を食べて育ってきたのです。

(実際に離乳食を生徒たちに見せます。数種類のものを用意し、生徒に食べさせる準備をします)

もしかしたら、大きくなってからも、離乳食をこっそり食べたことのある人もいるかもしれません。離乳食としてではありませんが、ヨーグルトにかけるアップルソースも食べることはあります。スムージーも離乳食のようなものと言えるかもしれませんね。

〈途中説明〉もし、大人になっても毎日離乳食だけしか食べないとしたら、それはとてもおかしなことです。そのような人が大人として正しく成長するためには、「大人」のための食べ物を食べる必要がある、と誰もが考えるはずです。同じことが、私たちの霊的な生活にもあてはまります。霊的な生活において、私たちがまだ赤ちゃんのままでいるということはないでしょうか？

霊的に成長する一つの秘訣(霊的な生活において成熟すること)は、聖書を自分で読み、理解することができる、ということです。みなさんくらいの年齢になれば、聖書をかなり読み込むことができます、特にそれが、現代語の聖書であればなおさらです。しかし、多くの人々は、誰かが説明してくれなければ、聖書を理解することができません。ですから私たちは、学びの中で聖句を自分の言葉に言い換えることを続けているのです。先生はみなさんに、ただ聖書を読むだけでなく、自分で理解できるようになって欲しいのです。それは、とても難しいことですが、成長するためにはとても重要なことなのです。

みなさんは、自分の聖書を持っていますか？ 本の聖書ですか？ それとも聖書アプリですか？

(この学びを学校の授業で行っているなら、何人かの生徒は、聖書を家に一冊、学校に一冊持っているかもしれません。スマートフォンを持っている生徒は、聖書アプリを持っているかもしれません。)

みなさんの持っている聖書が、何という訳かを知っていますか？ 複数の訳の聖書を持っていますか？ 持っている人は、どの聖書の訳が好きですか？

(生徒たちに、どの訳の聖書を持っているか発表してもらい、どの訳がお気に入りかを聞いてみま

す。)

ここでとても重要なことがあります。みなさんは、自分の持っている訳の聖書を読むときにそれを理解できますか？

(生徒たちに答えてもらいましょう。)

ワークシートの質問4に、あなたのお気に入りの訳を書いてもらいます。

(生徒たちにワークシートに記入する時間を与えます。自分の聖書をまだ持っていない生徒がいれば、これは彼らにとって意味のある聖書の訳について話し合うとても良い機会となります。インターネット版と聖書アプリは、複数の訳を同時に読むことができます。)

自分で理解できる聖書を持つことを生徒に勧めます。そうでなければ、それは単なるお飾り、幸運のお守り、役に立たないアプリであるということです。

他の人が使う聖書の訳について、心を乱す人々がいます。しかしそのどちらもが翻訳や意識です。聖書は、ヘブル語、ギリシャ語、少しのアラム語で書かれた、古い聖書の写本を多くの人々が集めたものです。これらを聖書学者たちが、一つの言語、例えば日本語に翻訳したいと考えたのです。翻訳者たちは、様々な教派の中から選ばれ、一つの教派の考えに偏ったものにならないように工夫しています。英語翻訳の例としては、New International Version (新国際訳)、New Living Translation (ニューリビングトランスレーション)、Kings James Version (欽定訳)、English Standard Version (英語標準訳) などがあります。そして、日本語翻訳で現在手に入るものとしては文語訳、口語訳、新改訳、新共同訳、聖書協会共同訳などがあります。

聖書を理解するのにとても効果のある方法は、聖書を自分の言葉で意識 (パラフレーズ) することです。典型的な意識とは、聖書を自分が理解できる言葉で言い換えることです。原語であるヘブル語やギリシャ語、アラム語を理解できる人も、そうでない人も、聖書を現代語に意識することで理解しやすくなります。リビングバイブルなどがその良い例です。

はっきりしていることは、誰一人オリジナルの聖書をまだ発見していない、ということです。最も古い写本でも、コピーのコピーのコピーのコピーなのです。近年、より古い写本が発見されたことで、新しい翻訳の方が古い翻訳よりも少しだけ正確になっています。しかし、その差はともわずかなものです。アドベンチストは、一つひとつの言葉に神様の靈感が働いたのではなく、ベースとなる思想に神様の靈感が働いたと考えています。ですから、いくつかの言葉が違っていても、考え方が同じならば大したことではないと考えているのです。最も重要なことは、あなたが読んでいる聖書をあなたが「理解」できるかどうかなのです。

Ⅲ. マタイによる福音書6章9～13節： 祈りは、私たちと神様との会話です。

祈りは、私たちの霊的な生活を成長させるもう一つの方法です。多くの人は、祈りとは食事の前と、夜ベッドに入るときと、緊急の助けが必要なきにささげるものであると考えています。実際に、祈りが得意だと答える人はとても少ないのです。教会などの公の場での祈りは、普段私たちたちが会話する言葉とは違っているので、私たちは、どのように祈ってよいかわからないと考えてしまいます。

また祈りとは決まり文句を唱えることであると考えている人もいます。ある人は、十分に長く祈ることとで神様の注目をひくことができると考え、神様をわずらわすことで、神様に興味を持ってもらえると考えているのです。

イエス様が地上におられたとき、弟子たちはイエス様に「祈ることを教えてください」とお願いしました（ルカによる福音書 11 章 1～4 節）。その答えが、現在「主の祈り」と呼ばれている祈りです。何人かは、聖書を見なくても暗証しているかもしれませんが、今日は、マタイによる福音書 6 章 9～13 節を開いて読んでみましょう。

（生徒の一人に聖句を読んでもらい、他の生徒に言い換えをしてもらいます。先生は、白紙を用意して、彼らの自身の言葉でお祈りを書かせてみても面白いかもしれません。その後で生徒たちに言い換えた言葉を聖句シートに書いてもらいます。）

主の祈りについて確かなことは、イエス様は私たちに、まず自分が必要としていることを願うように教えておられるということです。私たちが欲しいと思うものを直接神様にお願いするのです。しかし成長するにつれて、子どもがサンタクロースにプレゼントをねだるようではなく、個人的なことを神様に打ち明けられるようになっていくのです。神様のお姿は、創造主である「力」と、父親の持つ「知恵」と「優しさ」、さらに親友に対する「信頼」をミックスしたようなものです。私たちは、神様と定期的に親しく会話をすることができるのです。

最初の祈りはとても短いかもしれません。一言、二言で終わってしまうこともあるでしょう。しかし祈り続けていると、長く祈れるようになり、数十分間祈り続けることもできるようでしょう。神様にアドバイスを頂こうと、長い時間瞑想している自分に気付くこともあるかもしれません。それも祈りの一つです。聖書を読みながら、神様と沈黙の会話を続けることも祈りです。ですから祈りとは、ひざまずいたり、目を閉じて手を組んだりなどという形式に限られたものではありません。それだってひとつのお祈りの形にすぎないのです。

ワークシートの項目 5 にある、4 種類の事柄について祈ることも一つの方法です。ここで、4 つの具体的なお祈りの例について考えてみましょう。

1. お願い：あなたが欲しいものや必要なものを、神様に祈り求める。
2. 感謝：神様があなたのためにしてくださった事に感謝する。
3. 驚き：神様が不思議な方法で問題を解決してくださった驚き。「ワオー！」
4. 他の人のために：あなたの大切な人のことについて神様にお願いする。

遊び：神様と会話する。

時間をとって、神様と会話してみましょう。祈るための 4 つの事柄について、何かメモしましょう（ワークシートの項目 5 を参照）。順番どおりでもいいですし、好きな順番でもかまいません。4 つの事柄について複数記入してもかまいません。では、お祈りのメモを作ってみましょう。

（先生は指導する準備をしておきます。ほとんどの生徒は、「お願い」「感謝」そして「他の人のために」祈ることには慣れているでしょう。しかし「驚き」には慣れていないかもしれません。ほとんどの生徒がメモを書き終わったら、静かに個人でお祈りをささげるように伝えましょう。声に出して祈ることができる生徒はそれでもかまいません。）

〈途中説明〉 祈ることについて最も重要なことは、言葉使いでも、祈るタイミングでもありません。どれだけ長く祈るか、またどんな姿勢で祈るかでもありません。祈りは、単純に祈ることそのものが重要なのです。目的は神様と会話することです。ただそれだけを意識してください。しばらく祈っていれば慣れてくるでしょう。最初は怖がらずに、思い切ってやってみましょう！

IV. ヨハネによる福音書 15 章 1、4、5 節： あなたの霊的成長を、生活習慣にする。

子どもだった頃には、大人が神様との時間を計画していました。大人が家庭礼拝を計画し、安息日学校や教会に連れて行き、クリスチャンスクールに通わせてくれています。今や、あなたは、自分の霊的成長の責任を持つところにきました。これは、家庭礼拝に参加しない、ということではありません。これからは家庭礼拝の役割の一部を頼まれるかもしれません。また、安息日学校や教会に行くのを止めるということでもありません。これまでは他の人があなたのために選んできたことを、これからはあなた自身が選ぶということです。あなたが霊的成長の責任を持つことに関して、イエス様が鍵を持っておられます。それは、イエス様が弟子たちにお与えになったものであり、ヨハネによる福音書 15 章 1、4、5 節に書かれているものです。

（生徒の一人に聖句を読んでもらい、もう一人の生徒に言い換えをしてもらいます。その後で、全員に自分の言い換えた言葉を聖句シート 5 に記入してもらいます。）

霊的高揚感を与えてくれるキャンプミーティング、サマーキャンプ、パスファインダーキャンポリー、ミッショントリップに一年または二年に一度参加することで、霊的成長を保とうとする人がいます。しかしそれは長続きしません。霊的な歩みにおいては、上がるときも下がるときもありますが、イエス様は私たちが定期的に神様と交わり続けるように教えています。交わっていない人とどうやって友だちになれるのでしょうか？ それではただの想像上の友情です。霊的な成長のためには、友人であるイエス様と、どんなときにも時間を作る、ということです。特別なイベントの霊的高揚感も必要ですが、霊的成長に必要なのは、あなたとイエス様との定期的な時間です。それは、他の時間も、イエス様を中心に生きていくことにもつながるのです。

イエス様と定期的に時間を作らないと何が起きるのでしょうか？ あなたの霊的生命は死んでしまいます。週に一度の食事では、生命を保てないように、霊的生命も養われなければ餓死してしまいます。

遊び：関係を失う

これを理解するひとつの方法は、植物のある部分が、栄養の源から切り離されるときの、何が起きるかを観察することです。

(植物を持ってきて、一本の枝を切り離すか、折ってしまうことで例証します。)

栄養の源から切り離された枝には何が起きるでしょうか？

(生徒に答えてもらいます。一日か二日、枝をそのままにしておくとうどうなるか、みんなで話し合ってみましょう。)

〈途中説明〉枝は、はじめは生きてるように見えます。しかし、それが死んでしまうのは時間の問題です。

イエス様と過ごす時間がなければ、霊的生命は餓死してしまう、ということを本当には信じていない人々がいます。しかしイエス様と交わることなしに、どうやって神様との関係を保つことができるのでしょうか？ それは突然起きるのでしょうか？ それとも長い時間をかけて起こるのでしょうか？あるいは彼らは、自分の霊性の責任を他の人に期待するのでしょうか？自分で自分の霊性の責任を取る代わりに。これでは、彼らはイエス様との関係を保ち続けることはできません。

V. ペトロの手紙1・3章15節： イエス様を他の人に紹介する備えをする。

イエス様と豊かな経験を持っている人々が、自分の持っているものを他の人に紹介しない

なら、霊的生活は、新鮮でなくなります。あなたが、自分の持っているものを与えるならば、あなたは、更に与えられることになります。聖書の巻末には、ヨルダン川、ガリラヤ湖、死海などの地図があります。そこで起きていることは、霊的な生活においても起きることを教えてくれています。ワークシート5を見てみましょう。

ヨルダン川は、ガリラヤ湖に流れ込んでいます。地図の上をみてください。ガリラヤ湖には、生命があふれ、たくさんの魚が住んでいます。ヨルダン川は新しい水をそこへ運びます。ガリラヤ湖下方からヨルダン川は続き、イスラエルの大地を流れていきます。そして最後に死海へと流れ着きます。死海には、流れ込む川はあっても、流れ出る川がありません。それが「死海」と呼ばれる理由なのです。流れ込む川と流れ出る川があって、生命は生きることができます。霊的な生活にも同じことが言えます。受けるだけでなく、与えることが重要なのです。受けるものとは、イエス様を知ることです。与えるものとは、他の人にイエス様を紹介することです。霊的に与えられるものと、霊的に与えるもので、他に思いつくものがありますか？ それらをワークシートに書いてみましょう。

(受けるものについて生徒が思いつくように助けましょう。答えはこの学びですすで扱いました。与えるものについては、もっと助けが必要かもしれません。例えば、他の人にイエス様について話す

ことや、奉仕活動をするなど。)

あなたはどうやって霊的な経験を「与える」ことができますか？ あなたの霊的な生活の中で人を助けることによって、自分の中で経験していることについて(また、経験していないことについて)人々に語ることによってです。ペトロの手紙1・3章15節は、まさにそのことについて書かれています。

(生徒の一人に聖句を読んでもらい、他の誰かに言い換えをしてもらいます。この聖句は三つの部分を持っています。真ん中に焦点を当て、他の文章も関連付けましょう。話し合いの後で、聖句シート5に自分で言い換えた言葉を書いてもらいます。)

あなたの友だちの一人について考えてみましょう。その友だちについて、先生に教えてください。その友だちのどこが好きですか？ 何に興味を持っていますか？ 私にその友だちを紹介してください。誰から始めましょうか？

(順番に生徒に紹介してもらいます。)

イエス様との友情について考えてみましょう。イエス様のどこが好きですか？ イエス様は何に興味を持っていますか？ 私がイエス様についてどう感じると思いますか？ あなたの友だちであるイエス様を先生に紹介してください。

(この実践も生徒に順番にしてもらいます。さっきより、かなり難しいかもしれませんが。なぜなら、生徒たちはイエス様を友だちとして認識していないかもしれないからです。また、イエス様が人間の友だちのように、手で触れることのできる存在ではないからです。)

聖句の最後の部分を忘れないようにしてください(原文では「イエス様を、優しさと尊敬を持って紹介しなさい」となっています)。他の人にイエス様を強制することは、かえって興味を失わせてしまうものです。それは決して、イエス様が人々にお示しになった方法ではありません！

結論

今回の学びの主題は「霊的な生活(霊性)」でした。あなたは自分の霊的な生活に責任を持つのに十分な年齢に達しています。今日は、霊的に成長するためのいくつかの方法を学び、みんなで話し合いました。例えば、あなたがバプテスマを受ける選択をしたとき、それはイエス様に従う決心をしたことを表しています。どのようにして、神様と関係を持ち続けるか、ということがとても大切なことであり、その責任はあなた次第であることを学びました。まさに「あなたの選択」なのです。

あなたの霊的な生活をいかに成長させるか、計画をたてることをお勧めします。そしてそれを、あなたの人生で大切な人々に相談しましょう。大切な人々とは、両親、先生、牧師、安息日学校リーダー、友だち、そして、あなたの霊的な生活を導いてきた人々のことです。彼らはあなたのサポーターです。次の学びのときに、みなさんがどんな相談をしたかを発表してもらいます。もし相談するのに勇気が必要なら、どんな風に話したら良いか、先生がいくつかのアイデアを教えたいと思います。

さあ、みなさんは自分自身の霊的な生活の責任を負うときが来ました。あなたは、今、十分にそれができるほど成長したのです！

(最後にお祈りしてクラスを閉じます。)

イツツ・マイ・チョイス
It's my choice

私の選択

6

与える
～靈的な賜物





バプテスマガイド 6 概要

与える～靈的な賜物

導入：靈的サポーターとの会話のフォローアップ

- I. イエス様に従う者たちには、聖霊の賜物が与えられます。(使徒言行録 2 章 38 節)。
 - A. イエス様に従う者は孤独ではありません。
 - B. 神様は、聖霊を通して神様の民の中にお住みになります。
 - C. 他の人々の中に、聖霊の神様を見るのはどんなときですか？

- II. 聖霊の実（ガラテヤの信徒への手紙 5 章 22、23 節）
 - A. 聖霊があなたの中に住んでおられるかどうかをどのように知ることができますか？
 - B. 聖霊の実は、あなたの中でどのように成長していますか？
 - C. 植物と枝で例証する。(第 5 課)

- III. 聖霊は、ご自分の意のままに、それぞれの信者に靈的な賜物を与えます。(コリントの信徒への手紙 1・12 章 1、7、11 節)
 - A. 生徒それぞれの賜物について。
 - B. 聖霊が神様の民に賜物を与えます。
 - C. もしあなたがイエス様に従うなら、聖霊はあなたに賜物を「与えます」。
 - D. 聖霊があなたに与えられた賜物を特定します。

- IV. 聖霊の賜物の目的（エフェソの信徒への手紙 4 章 11～13 節）
 - A. 賜物の目的は、キリストの体を建てあげることです。
 - B. パズルのピースで例証する。
 - C. あなたの賜物について深く考える。

- V. 神様の民は、預言の靈的な賜物を期待することができる。(ヨエル書 2 章 28 節)
 - A. メッセンジャーを送る。
 - B. アロンはモーセのための預言者であり、メッセンジャーでした。
 - C. 神様は預言者を通して、私たちにメッセージをお与えになります。
 - D. 神様の民は、預言の霊の賜物を通して、神様が民と会話することを期待できます。

結論：あなたの人生の中で、聖霊の実が成長するよう神様に祈りましょう。キリストの体を建てあげるために、聖霊の賜物を特定することを始めてみましょう。



バプテスマガイド 6 **要点** 与える～靈的な賜物

聖句

1. 使徒言行録 2 章 38 節：聖靈の賜物は、イエス様に従う者に与えられます。
2. ガラテヤの信徒への手紙 5 章 22、23 節：聖靈の実について。
3. コリントの信徒への手紙 1・12 章 1、7、11 節：聖靈は自ら決めた通りに、信者それぞれに靈的な賜物を与えます。
4. エフェソの信徒への手紙 4 章 11～13 節：靈的な賜物の目的は、キリストの体を建てあげることです。
5. ヨエル書 2 章 28 節：神様の民は、預言の靈の賜物を期待することができます。

決心の時間

生徒の生活の中で「聖靈の実」が成長し続けるように神様にお祈りしましょう。
キリストの体を建てあげるために、靈の賜物を特定することを始めてみましょう。

具体的に（ステージ 3 の生徒に適切に）

「生き続けるように」

花が咲いている鉢植えを、聖靈の実の例証として見せる。

「あなたのためだけに」

生徒それぞれに、包装された特別なギフトを。

「パズルから絵へ」

パズルを組み合わせて、絵を完成させる（またはレゴでもよい）。

「あなたへの言葉」

その生徒のために、メッセージを送る。

両親から受け取ったメッセージ。あなたは、神様からのメッセージを受け取りますか？

用意するもの

- ・ 聖書、生徒用ワークブック、ボールペンまたは鉛筆。
- ・ 花が咲いている鉢植え、できれば第 5 課で使ったもの。
- ・ 生徒それぞれに、包装された特別な贈り物。安い物で結構です。靈の賜物にはいろいろなものがあることを示すために、いろいろな種類のものを用意してください。
- ・ 生徒たちそれぞれに 1 つか 2 つのパズルのピースを持たせ、全員でパズルを完成させてください。出来上がる絵（写真）は、できれば教会、人物、イエス様の絵、世界をあらわすもの（地球など）のパズルにするといいでしょう。



バプテスマガイド 6 内容 与える～靈的な賜物

はじめに

前回わたしたちは、靈的な生活の責任を負うのに十分に成長している、ということ学びました。では、実際にどのようにするのか？ どのように計画したらよいのかを学びます。大切な人に相談しましたか？ どのように相談したか、発表してください。

(生徒がどのように大人に相談できたか、発表できるようにうながしましょう。何人かの生徒は、この宿題をするのにさらに励ましが必要でしょう。相談ができた生徒は、準備ができているかもしれません。前の週にしたとは限りませんが。)

I. 使徒言行録 2 章 38 節： 聖靈の賜物は、イエス様に従う者に与えられます。

あなたは自分の靈的な生活の責任を任されて、不安を感じたかもしれません。でももう一つ、力強い存在があることを発見して欲しいと思います。使徒言行録 2 章 38 節を開いてみましょう。悔い改めてバプテスマを受けた者にどんなことが起きたのかを見てみましょう。

(生徒の一人に読んでもらい、他の生徒に言い換えをしてもらいます。聖靈を賜物として受けることに注目させます。そして自分で言い換えた言葉を聖句シート 6 に記入してもらいます。)

これは驚くべきことです！ 神様である聖靈があなたの中に住む、というのです。実際に、聖靈はすでにあなたの中で生きています。あなたは、聖靈は目に見えないものだ、と思っていますが、他の人々の中に聖靈が住んでおられることを発見するときに、聖靈が実際に存在している証拠を見るのです。あなたは、聖靈をこれまでどこかで見つけたことがありますか？

(生徒に質問します。可能であれば、生徒が誰かの人生の中で見つけた聖靈について答えを引き出してください。)

全員が聖靈を発見できるかどうかはわかりません。しかし、時々聖靈は、あなたを通してご自分をお表しになるのです。素晴らしいと思いませんか！

II. ガラテヤの信徒への手紙 5 章 22、23 節： 聖靈の実について。

では、聖靈があなたの中に住んでいることをどのように知ることができるでしょうか？

それはとても単純なことです。ガラテヤの信徒への手紙 5 章 22、23 節に答えが書かれています。みんなで読んでみましょう。

(生徒の一人に聖句を読んでもらいます。それから、聖句シート6に自分で言い換えた言葉を書いてもらいます。)

植物の実、大きくなるのに少し時間がかかりますね。種をまいた次の日に実がなることはありません！ 時間がかかるのです。他の人の生活の中で「聖霊の実」が成長しているのを注意深く見つけてみましょう。そしてあなたが見たことを彼らに話しましょう。これは決して彼らにうぬぼれを与えるものではありません。それは、彼らの生活の中で、聖霊が働いていることを知ってもらうためなのです。

遊び：生き続けるように。

前回のクラスのときの植物を覚えていますか？

(前回のクラスの鉢植えを持ってきます。)

植物にから切り離された枝には何が起きましたか？

(生徒たちに答えさせます。)

今見ているように、植物のいくつかの枝は「実」を作り出しました。この花も「実」のひとつです。枝が植物につながっている限り、花は自然に咲くのです。イエス様と一緒に生きることは、歯をギシギシ鳴らして踏ん張ることで、よい生き方をするために無理やり努力することでもありません。ただイエス様とつながり続けることであり、私たちの生活の中で、聖霊に「聖霊の実」を大きくしてもらおうことなのです。

〈途中説明〉誰でも理解できることですね。生き続けるためにしなければならないことは、命の源にいつまでもつながっていることです。霊的な生活について言うならば、私たちは自分のエネルギーの源であるイエス様とつながることに集中することだと言えるでしょう。イエス様こそが、私たちを生かしてくださり、生活の中で「実」を豊かに実らせてくださるお方です。

ワークシート6の項目1を見てみましょう。そこには聖書の中にある聖霊の実がリストアップされています。説明を良く読んで、自分自身が持っていると思われるものに下線を引いてみましょう。また、もっと必要だと思うものにはチェックをつけましょう。

Ⅲ. コリントの信徒への手紙1・12章1、7、11節： 聖霊は、御自分が決めた通りに、 信者それぞれに霊的な賜物を与えます。

遊び：

先生は、みなさん一人ひとりに、特別な贈り物を持ってきました。たくさんではありませんが、この贈り物はあるものを象徴しています。

(生徒一人ひとりに包装された贈り物を手渡します。そして彼らに贈り物を開けさせます。)

どうして突然、贈り物がもらえたのか興味津々の生徒もいるでしょう。全員が開けてみればわかるとおり、一つとして同じ贈り物はありません。みなさんは、みな同じではないからです。この小さな贈り物は、聖霊が与えるもっと大きな賜物を象徴しています。聖霊は、みなさん一人ひとりに贈り物を与えてくれるのです！ 聖霊があなたの中に住んでくださるとき、彼はあなたの生活の中で聖霊の「実」を大きくしてくださいます。あなたの思いや行動、性格がイエス様に似てくることは、あなたの中で実際にイエス様が生きておられることの証拠であることを学びました。聖霊は、イエス様を信じる者に霊的な「賜物」をお与えになりますが、全部を一人に与えるわけではありません。聖霊の「賜物」を完全にコレクションするためには、私たちにはお互いの存在が必要です。それは「キリストの体」と呼ばれるもので、私たちはそれぞれ「キリストの体」の一部分なのです。これが神様が考えられた方法です。

〈途中説明〉この霊的な賜物についてももう少し調べてみましょう。聖霊の与える特別な賜物はとてもユニークなので、イエス様が地球で行われた色々な種類のことをすることができるのです！

霊的な賜物についてより深く学べる聖句は、コリントの信徒への手紙1・12章1、7、11節です。(複数の生徒に1節ずつ読んでもらいます。これらの聖句は多くの意味を含んでいます。それぞれの聖句について生徒たちと話し合ってください。)

最初の聖句は、私たちは霊的な賜物について知ることができる、と言っています。知らないままでいる必要はありません！ 7節には、すべてイエス様に従う者は少なくとも一つの賜物を受け取る、と言っています。もしあなたがイエス様に従う者であり、聖霊を受けているなら、あなたはすでに賜物を受け取っています！ 11節には、誰が何の賜物を受け取るかは聖霊が決める、と指摘しています。あなた自身は、何を受け取るかを定めることはできません。これはとても大切なことです。聖霊の賜物は、聖霊からの贈り物なのです！

コリントの信徒への手紙1・12章全体は、聖霊の賜物について扱っています。読んで深く学ぶ価値のある章です。14章にはさらに議論が続いています。12章と14章のちょうど真ん中に、「愛の

章」があります。コリントの信徒への手紙1・13章です。また、霊の賜物の様々なリストが12章に書かれています。聖霊の賜物については、ローマの信徒への手紙12章とエフェソの信徒への手紙4章の2箇所にも見つけることができます。ワークシートの質問2に答えてみましょう。将来の学びのためにとっても便利です。聖霊の賜物には次のようなものがあります。よい教師、もてなしのできる人、普通の人より大きな信仰を持つ人、神様のためにたくさんお金を儲ける人、助ける人、よい牧師、伝道者として大きな力を持つ人、新しい文化の中で効果的に働ける人、リーダーシップのある人、などです。神様のために、これらの賜物を活用している人々を知っていますか？

霊の賜物の三つのリストはすべて同じではありません。似ている点と違う点があります。どうして？と思う人にははっきりした答えがあります。それは、聖霊はどんな賜物が必要か、状況に応じて与えるからです。それぞれの3つのリストは、違う教会に向けて与えられています——コリントの教会、ローマの教会、エフェソの教会。聖霊は神様なので、必要なものは何でも聖霊が与えてくださる、と私たちは期待することができます。この超自然の力を、聖霊があなたを通して与えられる、と考えることはとてもワクワクすることではないでしょうか。人々がこのことを次のように表現しました。「あなた方はイエス様の手と足……」。もしかしたら、私たちは、イエス様の耳、口、腕かもしれません。

IV. エフェソの信徒への手紙4章12、13節： 霊的な賜物の目的は、キリストの体を建てあげること。

イエス様は、復活された後、天に戻られました。イエス様はまだ天におられますが、世界中に影響力をもって働いておられます。それはどういうことなのでしょう？ それは、聖霊の神様を通してです。イエス様は、弟子たちにもこのことが起こるとおっしゃいました（ヨハネによる福音書16章7節；14章12、16節）。イエス様が天におられるにも関わらず、これほど多くの人々がイエス様に従っているという事実は、地球上で聖霊が働いておられることの証拠です。イエス様を伝える働きが、イエス様に従う者たちによって地球上で続いているのです。この働きのために、聖霊が、人々に賜物を与えることによって備えさせているのです。

霊的な賜物の目的を明確にしておきましょう。エフェソの信徒への手紙4章11～13節を、あなたの聖書で読んでください。

（生徒の一人に聖句を読ませます。11節に、いくつかの聖霊の賜物がリストアップされています。これらの聖句が意味していることを生徒たちと話し合います。より深く理解するために、いろいろな訳の聖書で比べてみます。その後で、聖句シート6に自分で言い換えた言葉を書いてもらいます。）

聖霊の賜物の目的は、キリストの体を建てあげることです。このためには、二つの方法があります。一つは、キリストの体である教会に人々を連れてくることです。例えば、親しい人々を教会に招待することができます。二つ目は、すでに教会に導かれた教会員を、霊的な生活の中で成長させることです。それも、キリストの体を建てあげることです。これらの課題はとても大きなものですが、その資源は無限の神様から来ます！ 私たちは活動の中心に進み出て、神様が私たちを通してキリストの体を建てあげてくださるのです。

遊び：パズルから絵へ

先生がもっているパズルのピースをみんなに配りたいと思います。難しいパズルではありませんが、みんなに配るピースを使って絵を完成させる助けをして欲しいのです。

(生徒たちにパズルのピースを配ります。一人一つ以上配ってもかまいません。配り終わったら、生徒たちに一緒に絵を完成させようと声をかけます。時間を決めると、集中力を保つことができます。彼らは、このパズルが何の絵か興味を持つでしょう。20個から25個ピースのパズルをお勧めします。グループがどのように協力するかに注目します。彼らは一つの体として協力することができるのでしょうか？ この課題を終えたら先生は自由にコメントしてください。パズルの代わりにレゴを使うこともできます。出来上がったものを作品として展示することもできます。美術のクラスの中で行うこともできます。)

〈途中説明〉生徒一人ひとりには役割があります。時々、ある部分は、他の部分より重要に思われるかもしれませんが、どれか一つでもピースが無くなってしまったら、絵は絶対に完成しないのです。私たち一人ひとりはとても重要な存在なのです。

人に手伝ってもらうより、一人で完成させたほうが簡単に思えることがあります。確かに、ある種類の働きの場合はそのほうがいいでしょう。しかし聖霊の神様は、「キリストの体」を建てあげるのに、パズルのような賜物を、多くの人々が用いて働くことを選ばれました。キリストの体を完成させるためには、一人ひとりが必要とされているのです。

私たちは、聖霊の神様が、私たちの生活の中で、聖霊の「実」を成長させてくださることを学びました(ワークシートの最初の項目を復習させます)。聖霊の「賜物」は、教会の中にも配られています。あなたは、パズルのようにどのような役割を果たしましたか？ あなたは、どんな聖霊の賜物を持っているかを知っていますか？ 特定できますか？

(生徒たちがどんな賜物を持っているか特定してください。ほとんどの生徒は、自分が何かを持っているなどとは意識していません。彼ら一人ひとりが、キリストの体を建てあげるために何ができるかについて話し合いましょう。これは、イエス様が地球におられたときにもなされたことです。そして聖霊によって能力と力が与えられるとき、教会において実際に素晴らしい働きが起こったのです。)

V. ヨエル書2章28節：神様の民は、預言の霊の賜物を期待することができます。

遊び：あなたへの言葉。

一人の生徒に隣の部屋に移動してもらい、他の生徒に彼にメッセージを伝えるように指

示します。「クラスはあと 10 分で終わりです」と隣の部屋の生徒に伝えるのです。先生のメッセージを伝えたこの生徒は、「預言者」の役割を果たします。このようなことは、日常のなかでも良く起こります。私たちは携帯電話のメールや他の方法で、お互いのために情報を伝え合います。

この方法のネガティブな形は「うわさ話」です。うわさ話は、届いたメッセージに何か別の情報を加え、本来のメッセージから内容を完全に変わってしまうことさえあります。人から人へ情報が伝えられるとき、しばしばメッセージは拡大し、あるいはゆがんでしまいます。

メッセージを明確に正しく伝えることができる能力をもつ人は、とても信頼できる人です。

〈途中説明〉神様は、私たちに伝えたいと願っているメッセージを持っておられます。そこで神様は、メッセージを正しく明確に伝えるために、信頼できる人々をお用いになります。

霊的な賜物は数多くありますが、その中の一つは預言の賜物です。「預言」と聞いて思いつくことは何ですか。

生徒に質問します。何人かの生徒は、将来の出来事を「予言」することを思いつくでしょう。それも一つの「預言」です。

預言者とは、神様のメッセージを伝える報道官です。彼は、将来に起こる出来事、また今生きている人々に向けてメッセージを与えます。神様の預言者は、神様からメッセージを受け取り、それを他の人に伝えます。ある時には、メッセージは特定の一人に向けられたものであり、またある時にはグループ全体のためのメッセージでもあります。メッセージを伝える方法としては、言葉で伝えられるか、演じられるか、文字として書かれることもあります。聖書は、神様が預言者にお与えになったメッセージを文字として集めたものです。ワークシートに、預言者の定義をあなたの言葉で書いてください。

(生徒たちにしばらく時間を与えましょう。ワークシートに記入するまえに、少し説明が必要かもしれません。彼らが書いたものを読んでもらってもかまいません。)

罪のために、私達は神様と顔と顔を合わせてお話することができなくなってしまったので、神様は預言者を通してメッセージを送ることによって、私たちに情報を伝えたいと望まれました。イエス様が地球におられたときには、神様はイエス様を通して直接メッセージをお与えになりました。なぜなら、イエス様も神様だったからです(ヘブライ人への手紙 1 章 1、2 節)。イエス様が天に戻られた後は、預言者を通してメッセージを送り続けています。「預言」も聖霊の賜物の一つなので、神様から賜物を与えられた人が、神様の民にメッセージを与えることになったのです。

神様は、モーセやエレミヤ、他の多くの預言者に特別なメッセージをお与えになりました。他にどんな預言者を思いつきますか？

(生徒に質問しましょう。聖書を開かせて、ヨナ、ダニエル、ヨシュア、マタイ、マルコ、ルカ、

ヨハネの名前を発見させます。聖書の中には書物を残さなかったエリア、エリシャ、ナタン等もいます。)

みなさんは、神様がご自分の民と会話することを素敵なことだと思いますか？ ヨエル書2章28節を開いて読んでみましょう。

(生徒の一人に聖句を読んでもらい、聖句シート6に自分で言い換えた言葉を書いてもらいます。)

アドベンチストは、初期の時代に一人の預言者が価値ある勧告を神様から提供されたことで、膨大なメッセージのコレクションを持っています。私たちは、このことを預言の霊的賜物が人間に与えられる証拠と考えています。

しかし聖書のみことばは、多くの人々が同じ賜物を受け取ることを期待できると言っています。預言の賜物を与えられた人のメッセージは、グループ全体に向けられたものとは限らず、特定の教会や、個人の教会員に向けられたものである場合もあります。牧師が説教を語る時には、それがまさに神様からのメッセージであり、説教者に神様の預言者としての賜物を与えられていることを強く望みます。教会員のうち何人に預言の賜物を与えられているのか、先生には分かりません。それは聖霊の神様が決めることです。みなさんは、神様のメッセージを伝える「預言の賜物」を受け取る準備はできていますか？あるいは別の賜物を受け取る準備はできていますか？

結論

イエス様に従う者の心には、聖霊の神様が住んでくださいます。神様とつながり続けるならば、生活の中で、聖霊はあなたの内側で「実」を大きく成長させてくださいます。しばらくの間、目を閉じてお祈りしましょう。毎日の生活の中で、聖霊が「実」を大きく育ててくださるよう、お願いしてみましょう。

(しばらく目を閉じて、生徒と一緒に祈りの時間を持ちます。)

みなさんの生活の中で「聖霊の実」を成長させてくださるだけでなく、聖霊はもう一つ別の働きをしてくださいます。聖霊は、様々な種類の中からあなたに特別な霊的賜物を与え、イエス様が地上におられたときになさっていた働きを、神様の民が続けることができるようにしてくださいます。このようにして、イエス様に従う者がキリストの体を建てあげることができるように助けてくださるので

(クラスを閉じるお祈りを、生徒たちと一緒にします。)

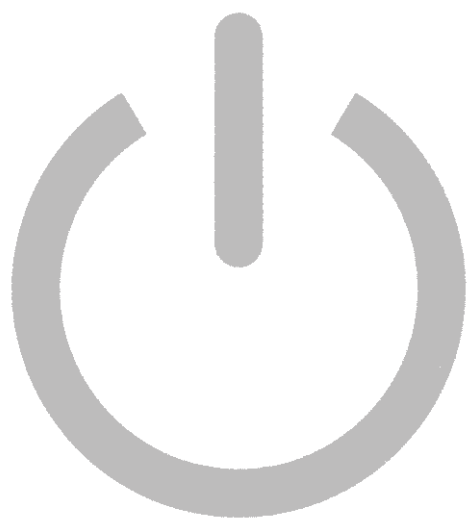
イツツ・マイ・チョイス
It's my choice

私の選択



眠り

～あなたが死んだあとに、
何が起こるのか





バプテスマガイド 7 概要

眠り～あなたが死んだあとに、何が起こるのか

導入：お葬式について、あなたが覚えていること。

- I. 神様は命を与えます：土の塵 + 神様の息／霊 = 生きた魂（創世記2章7節）
 - A. 聖書は、方程式を与えます。
 - B. 箱の例証。
 - C. 神様は、命の源。

- II. 世界で最初の嘘：「あなたは、死なない！」（創世記3章4節）
 - A. 創世記3章4節を言い換えた言葉。
 - B. その他の嘘：再生、永遠の地獄で燃える、すべての人が天国に行く。

- III. 塵は地に、霊は神様に、人格はなし。（コヘレトの言葉12章7節）
 - A. 逆の方程式。
 - B. 箱の例証。
 - C. 死んだ「霊」と話す。

- IV. イエス様は、死は眠りであるとおっしゃった。（ヨハネによる福音書11章11～14）
 - A. ラザロの物語。
 - B. 死んで生きる、死んで死ぬ、生きて死ぬ、生きて生きる。
 - C. 懐中電灯の電池の例示。

- V. キリストの二回目の来臨と三回目の来臨における復活
（テサロニケの信徒への手紙4章13、16～18節）
 - A. お葬式のとき、どのように答えるか？
 - B. キリストが二回目と三回目に来られるとき、何が起こるのか？
 - C. 死か眠りか？

結論：イエス様から永遠の命を受け取る。



バプテスマガイド 7 **要点**

眠り～あなたが死んだあとに、何が起こるのか

聖句

1. 創世記2章7節：神は命を与える：土の塵 + 神様の息／霊 = 生きた魂
2. 創世記3章4節：最初の嘘：「あなたは、死なない」
3. コヘレトの言葉 12章7節：塵は地に、霊は神様に、人格はなし。
4. ヨハネによる福音書 11章 11～14節：イエス様は、死を眠りであるとおっしゃった。信じるものは決して死なない。
5. テサロニケの信徒への手紙 1・4章 13、16～18節：キリストの二回目と三回目の来臨のときの復活。

決心の時間

キリストにあって生きることを選ぶ。

死の恐れからの解放。

イエス様の再臨に希望を持つ。

具体的に（ステージ3の子どもたち適切に）

「どこに行くのか？」

パート1とパート2：板とねじで、魂の形成を例示する。

いろいろな動物の寿命。しかし悲しいことに、命あるものはみな死ぬ。

「パワーアップ」

電池式の懐中電灯、新品の電池、切れた電池で、眠りとしての死を例示する。

用意するもの

- ・ 聖書、生徒用ワークブック、ボールペンまたは鉛筆。
- ・ 小さな箱を作り、解体するための板とねじ（あるいはくぎ）、プラスドライバー（またはかなづち）
- ・ 電池式の懐中電灯、新品の電池、切れた電池。



バプテスマガイド 7 内容

眠り～あなたが死んだあとに、何が起こるのか

はじめに

お葬式に参列したことがありますか？

(生徒に答えさせます。これは、親族を亡くした子どもには繊細な質問であり、そうでない子どもには冗談のように聞こえることを意識してください。)

お葬式について、何を覚えていますか？

(もう一度生徒に答えさせます。)

地球上の人々が何千年もの間考え続けてきた質問です。「人が死ぬとどうなるのですか？」

(生徒に答えさせます。お葬式のときに、人が死んだあと何が起きたかについて、一人ひとりの答えを記録しておきます。)

死ぬことは、嬉しいテーマではありません。ほとんどの人は死を恐れています。誰かが亡くなったと聞けば、最初の反応は、「残念」でしょう。「そんなばかな……」そして私たちのほとんどは、自分が死ぬとは思っていません。びっくりですね！ しかしあなたが行きている間にイエス様が再臨なさらないなら、あなたは必ず死ぬのです。ある人は80歳になる前に死ぬかもしれません。ショックですね？

1. 創世記2章7節：神様は命を与えます。 土の塵 + 神様の息／霊 = 生きた魂。

人が死ぬとどうなるのかを考える前に、どのようにして人間が生きるようになったのか、について考えてみましょう。創造の物語に戻って、アダムとエバの命の始まりを調べましょう。聖書の創世記2章7節を開いてみましょう。

(生徒の一人に読ませ、自分で言い換えた言葉を聖句シート7に記入してもらいます。)

この聖句は単純な方程式にすることができます。神様が最初の人間をお創りになったとき、「土の塵」を取り、「神様の息」を吹き入れられました。「息」を意味するもう一つの言葉は「霊」です。ヘブル語のネシュマーも、ギリシャ語のプニューマも「息」または「霊」を意味します。ですから、私たちは、「土の塵」と「神様の息」を持っているのです。その結果として、人間は「生きた魂」となったのです。つまり命の方程式は、土の塵 + 神様の息 = 生きた魂 となります。

(ワークシート7の最初の質問の空欄に答えを記入してもらいます。)

遊び：「どこに行くのか？」パート1

ではこの方程式を、木の板とねじ（またはくぎ）で検証してみましょう。

〈小さな板とねじ（またはくぎ）で小さな箱を作ります。あとで解体するので、あまりきっちり作らないでください〉

板が表している「土の塵」は、大地から取られました。ねじ（くぎ）が表している「息」は、命の源である神様から来ました。箱が表している「生きた魂」は、この二つが組み合わせられてできました。

私たちの本質は、浮遊している霊であって、ある日体の中に飛び込んできた、と考えている人々がいました。しかし「霊」とは、神様の息そのものです。神様は命の源であって浮遊する霊ではありません。私たちが作る箱は、箱にする前は空中を浮遊していたのでしょうか？ では天から来たのでしょうか？ 地獄から来たのでしょうか？ 違いますね。板とねじ（またはくぎ）が組み合わせられるまで、それは存在さえしていませんでした。

〈途中説明〉命は神様から来ます。神様は私たちに「霊」である「神様の息」を与え、地球上の物質と組み合わせることで人間が誕生したのです。それが「生きた魂」なのです。

アダムとエバは、生まれてはじめてお互いを知りました。二人は、神が土から人間を造られるまで存在すらしていませんでした。神様は素晴らしい芸術家です！ そして、神様の息を吹き入れられたのです。

あなたは、両親によって生まれましたが、アダムとエバと同じように、土の塵と神様の息の特別な組み合わせで生まれた、ということもできます。その結果、生きているあなたが「生きた魂」なのです。お母さんのお腹にあなたが宿る前、あなたの個性や考え方を持った「霊」が、まるで家を探すように、誰かの体を探していたわけではありません。神様は二つの要素を組み合わせることで、あなたが生まれたのです。

神様は、神様の息を吹き入れることによって人間をお創りになりました。霊を与えてエデンの園に住ませ、命の木をお与えになりました（創世記2章9節）。同時に、食べてはいけないという警告と共に善悪を知る木も植えられました。それを食べれば必ず死ぬことになっていました（17節）。神様が命の源であるので、神様なしで生きることは、死という結果につながるのです。

II. 創世記3章4節： 世界で最初の嘘：「あなたは、死なない！」

現代では大勢の人々が、神様なしで生きようとしています。彼らはおそらく、世界で最初の嘘に騙されているのでしょう。創世記3章4節の中にそのことについて書かれています。

（生徒の一人に読んでもらいます。）

最初は非常に単純な嘘でした。みなさんは神様がおっしゃったことと、サタン（蛇）が言ったことと、どちらを信じますか？ 命の源である神様は、私たちに隠し事をしているかもしれない！ 神様から離れても楽しく生きることができるかもしれない。また、死なないかもしれない！ そのように思うのでしょうか？ 私たちができることは、歴史の中で証拠をチェックすることです。アダムとエバが善悪を知る木の実を食べてから、死ななかつた者がいたでしょうか？ 実を食べることによってもっと神様のように優れた人になった人がいたでしょうか？ 私たちの周りにも、証拠をたくさん見つけることができますね。罪によって生み出された病気、痛み、そして死などです。

（聖句シートに自分で言い換えた言葉を書いてもらいます。）

地球上で最も寿命の短い生物は、わずか24時間しか生きられないカゲロウです。また、最も寿命の長い生物は、約200年生きるホッキョククジラです。犬や猫はどのくらい長く生きるのでしょうか？ みなさんもペットの死を経験しているかもしれませんね。どんなペットも、やがて死をむかえるという悲しい現実があります。小型犬の平均寿命は12年から15年と言われ、大型犬になるともっと寿命が短くなります。猫の場合も12年から15年です。多少長生きする犬や猫もいますが、やがて死ぬことになります。馬の寿命は25年から30年と言われているし、人間の平均寿命は約80年と言われます。長生きする人も中にはいますが、みな必ず死んでしまいます。死は現実であり、とても悲しく、気持ちが沈むものです。だからこそ、イエス様がくださる「永遠の命」がどれほど素晴らしいプレゼントであるかがわかると思います。

でも大勢の人々は、世界で最初の嘘を今も信じ続けています。「あなたは死なない。牛や、蚊や、亀になってこの世界に戻ってきます。別の生物となってもう一度生まれるのです」。次の人生は、あなたが直前の人生でどれだけ良いことをしたかに関係する、と信じている人々もいます。もしあなたが一度目の人生で悪いことをしたなら、ゴキブリやネズミにしかなることができません。良いことをしたなら、よい条件で生まれ変わることができます。金持ちで賢く、外見も美しく、才能が豊かで、多くの友だちに囲まれる、と言うのです……。

また他の人々は、人生のチャンスは地球上で一度だけ、と信じています。あなたが良いことをしたなら天国に行き、悪いことをしたなら地獄に行きます。彼らは、命は永遠に続くと言っているのに、「永遠に」天国にいるか、「永遠に」地獄にいるかです。地獄について考えたり、聞いたりすることをほとんどの人は嫌います。それは聞くだけでも苦しいからです。そこで、人々は死ぬと無条件に天国に行くことができ、と考えます。すべての人が天国に行って、地球上と同じ生活を続けるのです。天国で彼らには翼が与えられ、雲の上を飛び回ることができ、自由時間にはハーブを弾き、子どもたちはキリンの首ですべり台をする、というのです。また、暇になると地球にこっそり戻って、人間にいたずらをします。それが見つかる前に天国に戻って、高いところからずっと地球の人々を見下ろしている、と考えます。これが、私たちが死んだらどうなるか、という質問に対する多くの人々の漠然としたイメージです。

Ⅲ. コヘレトの言葉 12 章 7 節： 塵は地に、霊は神様に、人格はない。

聖書は、私たちがどのように生きるようになったかを告げるのと同時に、死んだあとどうなるのかについても説明しています。まるで映画を逆再生するようにです。コヘレトの言葉 12 章 7 節を読んでみましょう。

(生徒の一人に聖句を読んでもらい、全員で話し合った後で、聖句シートに言い換えた言葉を書いてもらいます。)

聖書の答えはとても単刀直入です！ 土の塵は大地に戻り、神様の霊（あるいは息）は、それをお与えになった神様に戻ります。

(生徒に質問します。)

では、魂には何が起きるのでしょうか？

魂は天国に行きますか？ 地獄に行きますか？ それとも空中に浮遊していますか？ あなたのところに挨拶に来ますか？ あなたが棺の前に立ったり、お葬式で亡くなった人と対面したとき、その人の魂がそこにいなかったのは明らかです。では魂は他の場所にいるのでしょうか？ 魂はいったいどこに行ってしまったのでしょうか？

遊び：「どこに行くのか？ パート 2」

最初に作った箱をもう一度手にとって見てみましょう。木の板が表す「土の塵」と、ねじ（くぎ）が表す「命の息」を組み合わせると箱「生きている魂」ができあがりました。この箱作りの工程を逆方向に戻してみましょう。まず、ねじ（くぎ）を板から外します。

(生徒にねじを外すように言います。)

どうなりましたか？ 木の板（土の塵）とねじ（命の息）になりました。あれ？ 箱はどこに行きましたか？ 天国にいきましたか？ 地獄にいきましたか？ それとも空を飛んでいますか？ 箱はいったいどこにいったのでしょうか？

(生徒に答えてもらいます。)

そうですね、箱はもう存在しなくなったのです。

あなたを「生きている魂」にしているもの —— 神様の息（または霊） —— は神様から来ました。あなたが死ぬときには、あなたの体はなくなり、神様の息（霊）は神様に戻り、あなたの魂は、イエス様が再び再臨されて私を再創造してくださるまで存在しなくなります。ですから、幽霊のように、霊が空中を浮遊しているとか、魂が天国にいったというのは間違っています。あなた自身である「生きている魂」は、神様の息（霊）と地球の物質が組み合わさったときにはじめて存在するものなのです。

〈途中説明〉人間の魂とは神様の息です。人間が死ぬときに、それは神様に戻ります。「身体」はお葬式が終わるまでわずかの間残りますが、「生きている魂」はもう存在していません。

ある人々は「死んだ人と話しをした」とか、「彼らは霊の世界に行った」と言います。あなたのよく知っている人が死んだ後、その人があなたの前に突然現れたら、その衝撃にびっくりしてしまうでしょう！ 死んだ人が生き返った！ とあなたは叫ぶかもしれませんが、幽霊だと思って恐怖に襲われるかもしれません。しかし聖書によれば、死んだ人が私たちの目の前に現れることは、復活の日まで絶対にありません。

「でも私は確かに見たし、その人と話しをした！」とある人は言うかもしれません。

ここで知っておいてほしいことがあります。このような現象は世の中で現実に起こります。それは疑いようがありません。私たちが恐怖に襲われる理由は、自分が見た「その人」が、死んだ人に「そっくりだった」ということです。でも、死んだ人は天国から戻ってきたわけでも、空中を浮遊していたのでもありません。何千年もの長い間、悪魔は人類の歴史と関わりながら、死んだ人にそっくりの「偽物」を造り出すことに一生懸命でした。悪魔には魔法や魔術が使えるからです。もしあなたがこのような現象を見たら、一番いいのはその場所から離れることです（申命記 18 章 9～12 節）。そして悪魔に対して、あなたを混乱させないようにイエス様の名前によって命じることです（ヤコブの手紙 4 章 7 節）。

「私たちが死ぬと、存在がまったく無くなる」と聞くと、私たちの人生にはまるで意味がなかったかのように感じるかもしれません。でも、聖書は死について喜びに満ちた言葉を与えています。

ヨハネによる福音書 11 章 11～14 節：イエス様は、死は眠りであり信じる者は死なない、とおっしゃいました。

ヨハネによる福音書 11 章 11～14 節を開いてみましょう。これはラザロの物語です。（生徒の一人に聖句を読んでもらい、全員でこの聖句にはどんな意味があるのかを話し合います。そして、「死」についてどう思うか質問します。その後で、言い換えた言葉をそれぞれ聖句シートに書いてもらいます。）

弟子たちが混乱したように、先生がその場所にいたとしてもきっと混乱したに違いありません。病気の友だちが死んだとき、死が眠りと同じと聞いたならショックを受けたはずです。

もしそれが本当なら、イエス様がマルタに向かって言われた、ヨハネによる福音書 11 章 25～26 節の言葉はどのように説明できるでしょうか？

（生徒に読んでもらい、答えを引き出します。）

今この瞬間、みなさんは生きていますでしょうか？ それとも死んでいるのでしょうか？

（生徒に質問します。）

私たちは、この聖書の言葉がどの「死」と「命」について言っているのかを確認する必要があります。聖書には二種類の「命」と二種類の「死」について書かれているので、「生きているが死んでいる」、または「死んでいるが生きている」、ということが起こり得るのです。難しい内容ですが、できるだけわかりやすく説明します。私たちは多くの場合、「命」について考えるときに、ただこの地球上にいる時間に制限していますが、イエス様はどんなときも、すべてのことを永遠の視点で考えられるのです。

例として、二種類の人のことを考えてみましょう。

ある人は、実際に生きていて心臓も動いていますが、もし神様なしで生きているのなら（エフェソの信徒への手紙2章1節）実際には死んでいることとなります。

もうひとりの人は、死んで眠りにつき、心臓も動いていませんが、神様を信じて人生を過ごしたので永遠の命が約束されている、とすることができます（ヨハネによる福音書3章16節、ヨハネの手紙1・5章12節）。このように考えると、「死んでいて死んでいる」こともあり得ますね。（最初の「死んでいて」は、実際に死んで眠りにつき、心臓も動いていない状態、次の「死んでいる」は、神様を信じて生きてこなかったことを意味します）同時に、「生きていて生きている」こともあり得ます。（最初の「生きていて」は、実際に生きていて心臓も動いている状態、次の「生きている」は、神様を信じて生きていることを意味します。）

「生きていて生きている」

「生きていて死んでいる」

「死んでいて生きている」

「死んでいて死んでいる」

この四つのうち、みなさんを表す状態はどれでしょうか？

（生徒たちに答えさせます。）

ワークシートの質問5に答えてください。

（これらの四つは、身体の命や死を最初に表し、永遠の命や死を二番目に表しています。身体が実際に生きている人の場合は、上の二つが当てはまります。（子どもたちが混乱するかもしれないので、まずは先生がよく理解してください。生徒たちが、四つの意味を正しく理解できるように）

みなさんがイエス様を信じて生きようと決心するとき、イエス様はみなさんに永遠の命をお約束されます。イエス様の再臨のときに、生きていようが、眠りについていようが、あなたが永遠の命を持っていることに変わりはありません。

イエス様が死を「眠り」と表現されたのは、私たちに理解しやすい言葉で説明されるためでした。なぜなら私たちは毎日、「眠る」という経験をしているからです。私たちが眠っている間、世の中では実際に様々な出来事が起きていますが、「眠っている」ために私たちはそのことを全く知りません。生きている人は、眠りから目を覚まして「生き続け」ますが、死んだ人は「眠り続け」たままです。

遊び：パワーアップ

私たちは、「死は眠り」ということを懐中電灯と切れた電池と比べることができます。

（切れた電池の入った懐中電灯を生徒たちに見せます。電池を使ったどんな製品でも構いません。生徒たちが使ったことがある物を選びましょう。）

電池が切れているので、懐中電灯の灯りはずきませんが、新しい電池を入れることで再び点灯させることができます。（新しい電池を入れて懐中電灯を点灯させましょう。）

〈途中説明〉人間の死は、電池が切れるようなものです。しかし、イエス様のもとには新

しい電池があります。私たちは「死」を最終的な終わりと考えてしまいましたが、イエス様にとっては一時的な「眠り」である、という理由がここにあります。

V. テサロニケの信徒への手紙1・4章13、16～18節： イエス様の二度目と三度目の来臨のときの復活

イエス様の再臨の前に、もし私たちが死んだなら（眠りについたら）、多くの人々が悲しむことでしょう。みなさんもお葬式に行ったことがあるなら、人々が悲しんでいるのを見た経験があるはずです。あなたも悲しかったでしょう。私たちが大事な人と別れなければならないときに、特に関係の深かった人々の心は張り裂けそうになります。やがて天国で彼らと再び会うことができますが、たとえ一時的であっても、別れは本当に悲しいものです。しかし彼らはイエス様の再臨のときまで、実際には眠っているだけなのです。復活の希望を持たない人々にとって「死」がどんなものか想像できますか？ それは彼らにとって、本当の終わり、永遠の別れなのです。

パウロは、イエス様の死、復活、再臨について聖書の中に書いています。テサロニケの信徒への手紙1・4章13、16～18節を読んでみましょう。

(13節だけを生徒の一人に読ませ、全員で話し合しましょう。)

パウロは、イエス様が使った言葉「眠り」を使っています。もはや私たちは、私たちが死ぬときに起こる出来事について「無知」ではありません。復活の希望を持っていない人々と同じように、悲しむ必要はないのです。もちろん、大切な人々との別れは悲しいものです。しかし愛する者と再び会えるという希望を持たない人の悲しみとは明らかに違います。

テサロニケの信徒への手紙1・4章16～18節を読んでみましょう。

(13節を読んだ生徒に、もう一度声に出して読んでもらいます。そして、聖句シートに言い換えた言葉を書いてもらいます。)

私たちは、この聖句を「再臨」について学んだときに読みました。イエス様が再臨なさるときに起きる出来事の一つは、イエス様を信じて死んだ人々がよみがえることと、天国に上げられることです。私たちは、死んですぐに天国に行くではありません。私たちは、眠りにつきます。イエス様が再び戻って来られるときに、イエス様は、彼に従う者たちすべてを天国に連れて行ってくださるのです。死んでいた（眠っていた）人々だけでなく、再臨のときに生きている者もすべてです（ヨハネの黙示録20章4～6節を参照。)

イエス様による永遠の命を受け入れなかった人々はどうでしょうか？ 彼らには何が起きるのでしょうか？ 私たちが再臨についての学びで発見したように、イエス様を信じなかった人々は、イエス様の再臨のときに死にます（テサロニケの信徒への手紙2・1章8～20節；2章8節）。私たちは千年期についても学びました。再臨の日から千年後に、イエス様と、彼に従う人々、そして新エルサレムが地球に降りてきます。サタンは、地球上の監獄から自由にされ、最後にイエス様に戦いを挑むために、神様に反逆する大勢の人々とともに立ち上がります。しかしこのとき、火が天から降ってき

て、彼らを一瞬のうちに滅ぼすのです。聖書はその滅びを「第二の死」と呼んでいます（ヨハネの黙示録 20 章 14 節）。

わたしもみなさんも、眠りである「第一の死」を人生の最後に経験するかもしれません。残された人々は、イエス様が再臨なさる日まで私たちとの別れを悲しむかもしれません。しかしもっと深刻な問題は「第二の死」なのです。この「第二の死」は、私たちが救うためにイエス様が経験された「死」そのものです。私たちはイエス様から永遠の命という賜物をいただいたので、誰も「第二の死」を経験する必要がなくなったのです。

結論

あなたは決して死ぬことがないように、イエス様から永遠の命を受け入れる決心をしますか？（生徒たちに答えさせます。）

もしみなさんが永遠の命を約束されたなら、自分はいつ死ぬのかと悩むことから解放されます。これまで多くの人々が、イエス様の再臨を待ち望みながら喜んで死んでいったことも驚くには値しません。彼らは、自分が永遠の命を持っていることを信じていたので、一時の「眠り」を恐れることがなかったのです。イエス様を信じているみなさんは、永遠の命を持っています。この事実が、世の大勢の人々が感じているような「死」の恐れを取り除き、真にイエス様のために生きる喜びの人生を与えてくれるのです！

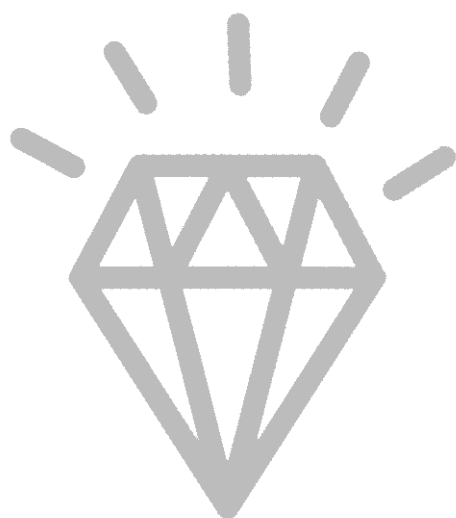
イツツ・マイ・チョイス
It's my choice

私の選択



輝け

～あなたの基準





バプテスマガイド 8 概要

輝け～あなたの基準

導入：レゴや、机を組み合わせるための、説明書。

- I. すべては神様／イエス様のものです。(ローマの信徒への手紙 12 章 1～3 節)
 - A. 赤ちゃんのとき、私たちは両親の支配下にあります。
 - B. 私たちは成長しながら、自制を発達させます。
 - C. 神様に従うか、従わないかはあなた自身が選ぶことです。
 - D. あなた自身について：「すべては神様のもの」ですか？

- II. 安息日は、私たちの時間の七分の一です。(出エジプト記 10 章 8～11 節)
 - A. 一週間（七日間）の一日。
 - B. 私たちの時間は、どれだけ神様のものですか？ 一日ですか、それとも七日ですか？

- III. 什一は、私たちの収入の十分の一です。私たちはそれを教会でささげます。(マラキ書 3 章 10 節)
すべての参加者にプレゼントを。
 - A. 十分の一 = 什一
 - B. 十分の一を決めるための、数学的問題。
 - C. 教会は、マラキ書 3 章 10 節で述べられている、「倉」。
 - D. 什一は、いかに使われるか？
 - E. あなたは、十分の九をどのように使いますか？

- IV. この世の物 VS 神様の物 (ヨハネの手紙 1・2 章 15～17)
目的は、キリストの体を建てあげること。
 - A. この世の物
 - B. 神様の物

- V. 私たちの体は、神様のものです。(コリントの信徒への手紙 1・6 章 19、20 節)
メッセンジャーを送る。
 - A. 「それは、**私の**体です」本当に？
 - B. 健康的な生き方をするのは、私たちの体は神様のものだから。
 - C. 健康的な生き方のガイドライン。

結論：あなた自身について：すべては神様のものですか？ もし違うならどうしてですか？ もしすべてが神様のものなら、そのように生きるためにどんなことをしますか？



バプテスマガイド 8 **要点** 輝け～あなたの基準

聖句

1. ローマの信徒への手紙 12 章 1～3 節：すべては、神様／イエス様のものです。
2. 出エジプト記 20 章 8～11 節：安息日は、私たちの時間の七分の一です。
3. マラキ書 3 章 10 節：什一は、私たちの収入の十分の一です。私たちは、それを教会でささげます。
4. ヨハネの手紙 1・2 章 15～17 節：この世の物 VS 神様の物。
5. コリントの信徒への手紙 1・6 章 19、20 節：私たちの体は神様のものです。

決心の時間

神様に自分を100%ささげる。または、もう一度ささげる。私たちが神様のためにどのように生きるのかについて、神様の指導に喜んで従う。

具体的に（ステージ3の子どもたちに適切に）

“新しいレゴ建設”

誰がどのように建設したかについてのレポート。

“混ぜて、混ぜて”

ゲームで遊ぶためにはルールが必要であることを教えるゲーム。

“優先順位と予算”

いろいろな収入の金額に対して、什一はいくらになるかを調べます。10歳以上の子どものために、優先順位を決めて単純な予算をつくらせます。世的なものと神様のものを区別します。

“ジェンガ・タワー”

健康的に生きるためのルールは何かを確認し、例証するためにジェンガでタワーを作ります。

用意するもの

- ・ 聖書、生徒用ワークブック、ボールペンまたは鉛筆。
- ・ 優先順位をつけるために、単純な予算を作る。
- ・ 新しいレゴと説明書 — 初めて組み立てるもの。
- ・ ジェンガタイプの積み木で、タワーを作る グループに一つ、あるいは生徒個人に一つ。
- ・ 積み木に描くための油性マジック。



バプテスマガイド 8 内容 輝け～あなたの基準

はじめに

新しいレゴを買ったら、どのように組み立てるのか、写真の載った説明書がついてくるはずですが。大型スーパーマーケットや大きな家具店で、組み立てが必要な家具のセットを買っている人を見たこともあるでしょう。これらの家具にも、組み立て方の説明書が付属しているはずですが。

(先生のアイデアで、「よい例」と思われる方法を示してください。単純なレゴセットにも、目で見ると説明書がついてきます。説明書を見て組み立てる子どももいれば、全く見ない子どももいるでしょう。新しいレゴセットを、説明書をみて組み立てるか、説明書なしで組み立てるか、結果がどうであるかをグループで報告してもらいます。バプテスマガイドの学び以外の時間で行うことをお勧めしますが、学びの中で行ってもかまいません。)

時間が少し必要ですが、説明書を見て、一工程ずつ進める子どももいれば、説明書を全く見ずに、自分で組み立てる子どももいます。多くの場合、子どもたちは両方を行います。最初に説明書を見て、あとは自分でやろうとし、再び分からなくなったら説明書を見る、という具合に。あなたならどのくらい説明書通りに組み立てますか？

このように単純なゲームで遊ぶときにも、説明といくつかのルールが必要です。

遊び：「混ぜて、混ぜて」ゲーム

このゲームには少なくとも5人必要ですが、もっと人数が多ければさらに良いでしょう。部屋の中央に生徒たちを集め、「混ぜて、混ぜて」と声を出しながらぐるぐる歩き回ります。突然、リーダーが集まる人数を言います。参加者は、言われた人数で集まって床に座ります。グループができなかった人は、外に出ていかなければなりません。グループを作れた生徒たちは再び「混ぜて、混ぜて」と声を出しながら歩き回ります。

先生が「3人！」と言ったら、彼らは3人でグループを作り、座らなければいけません。参加者が5人の場合、3人のグループができると、2人が残されることになります。例えば最初に全員を壁際に離れて立たせて、リーダーが「二人」と言ったら、中央に駆けて行って二人のグループを作るのも面白いでしょう。誰か1人が残されるわけです。このゲームをしたことがなければ、練習をしてみましょう。

5人以下のクラスの場合には、神経衰弱ゲームなどをします。どのようなゲームもルールに従わないと面白くありません。

〈途中説明〉ルールが嫌いだという人もいますが、単純なゲームであってもルールを守らなければ楽しく遊ぶ事ができません。子どもから大人に成長するにつれて、ルールはどんどん変わり、新しいルールもどんどん増えていきます。ルール（規則）を知ると、たくさんのご事に納得することができるようになります。また規則に従うならば、よい結果を得ることができるのです。

1. ローマの信徒への手紙 12章 1～3節： すべては神/イエスのもの

子どもから大人へ成長する過程の中で、あなたは、両親があなたを完全に支配することはないという事を理解し始めます。事実、両親はあなたに「自制」することを学んでほしいと希望しています。両親は、あなたがすること、しないことに口を出すかもしれませんが、それはあなたに自分で選択してもらいたいからです。当然ですが、あなたが選んだ結果は、あなた自身で経験することになります。とても良い結果もありますが、二度と経験したくない苦い結果をすることもあります。それが成長するということです。

バプテスマを受ける決心も、自分でできる選択の一つの例です。もしあなたが5歳だったとしたら、バプテスマを受けるかどうかは、あなたの両親が決めることです。しかし成長した今、バプテスマを決めるのはあなた自身の決心でなければいけません。周りの人々が望んでいるかどうかは、選択とは別の話なのです。

一方で若い人は、自分で選択する頻度が高くなるほど、両親からも、あらゆる支配からも完全に独立できると考えがちです。しかし大人になったからといって、社会のルール（規則）から独立するわけではありません。大人だって赤信号を無視していいわけではありませんし、ティーンエイジャーでないと飲酒運転が認められるわけでもありません。「成長」した人々もルール（規則）には従うのです。このことは、社会で私たちが人々とどのように接するか、ということにも影響します。成長した大人であっても、他人に陰口をされれば、子どものように傷つき、互いにけんかをする事だってあるのです。

子どものときには、どのように生きるべきかの知恵を両親が与えてくれました。両親の経験から学ぶことは、本来あなたが自分で習得しなければならない知恵を分けてくれたも同然なのです。両親のほとんどは、子育てにおいて失敗したことがあると答えるでしょうが、少なくとも彼らはあなたに対して多くの良い教育をしてきたのです。

あなたに神様について最初に話した人は両親でしょう。自分自身では、あなたが神様と直接つながることはなかったはずですが。実際に、あなたの多くの友達も、神様なしで生きることを選んでいます。彼らは、これから人生の多くの「つらい経験」を通して神様の存在について知っていくのです。私たちに与えられた選択は、神様と共に生きるか？ それとも神様なしで生きるかを選ぶ自由を与えるのです。

神様に従おうと選ぶことは、非常に大きな選びです。なぜなら、神様に従うときに、神様は私たちにすべてを委ねて欲しいと願われるからです。それは、簡単にできることではありません。あなたは、神様にすべてを委ねる準備ができていますか？ それを喜んですることができますか？ あなたの友だちとの関係、好きな音楽、才能、服装、時間、評判、お金、体。これらのすべてを委ねるのです。

実際にいくつかの事は、あきらめることが難しいものです。あなたにとって、友だちが大切であるなら、友だちとの関係を変えていくことはとても難しいのです。あなたが、自分の体に無到着であるなら、体を神様にささげるとはとても易しいことです。しかし神様は、何か一つではなく、すべてを委ねることを求めておられます。神様は、私たちにすべてを与えてくださったからです。ローマの信徒への手紙 12 章 1～3 節を読んでみましょう。

ローマの信徒への手紙の前半で、パウロは「すべての人は罪人であり、失われている」と説明しています。しかしイエス様は、そんな「失われた」私たちのために来て死んでくださいました。それは、私たちの罪が赦され、イエス様と一緒に生きられるようになるためです。もし私たちが、この驚くべきプレゼントを受けたいと願い、イエス様を信じようとするとき、このプレゼントはあなたのものになります。そのことが、ローマの信徒への手紙 12 章に書かれていることです。

(生徒の一人に聖句を読んでもらいます。他の生徒に、それがどんな意味かを発表してもらいましょう。話し合いの後で、聖句シート 8 に自分で言い換えた言葉を書いてもらいます。)

ワークシート 8 の最初の質問を見てみましょう。「あなたが持っている物は、すべて神様のものですか？ それともあなた自身のものですか？」これらは単純な質問に見えますが、すべての質問に答えていくなれば大きな違いが生まれます。

(質問を読んで、生徒自身に答えさせます。)

すべてが神様のものである、というのは事実ですが、その事実をすべての人が認めているわけではありません。すべてのものが神様のものだとなあなたが心から信じる時、神様を無視したり反抗したりしないで、神様がおっしゃることを受け入れて生きようと心が開かれていくのです。神様のおっしゃることが正しいと認めることができるのは、神様を信じるからなのです。

II. 出エジプト記 20 章 8～11 節： 安息日は、私たちの時間の七分の一です。

すでに私たちは、安息日について学びました。十戒に書かれている安息日の戒めをもう一度復習してみましょう。出エジプト記 20 章 8～11 節を読みましょう。

(生徒の一人に読んでもらいます。私たちが、すべての時間が神様のものだと思えるとき、私たちはどのように生きるべきでしょうか、と生徒に質問します。そしてこの聖句が意味していることを話し合います。その後で、生徒たちに聖句シート 8 に自分で言い換えた言葉を書いてもらいます。)

安息日だけが神様のもので、週の残りの時間は私たちの自由だ、と考えているアドベンチストがいます。どうしてそんなことがありえるのでしょうか？ このような人は、神様と過ごす時間を、まるで苦い薬を飲む時と同じように考えているように思えてなりません。薬は大嫌いでも、決まりなので仕方なく飲んでいるのです。週に一度薬を飲めば、あとは神様から離れて自由に好きなことができる、

と言っているのと同じなのです！

神様は世界を七日間かけてお創りになったので、週の七日間すべては神様のものです。しかし神様は、安息日を休み、祝い、そして礼拝のために聖別されたのです。ワークシート8の質問2に、あなたはどのように答えますか？

(この考え方は、具体的思考者には本当に難しいものです。ワークシート8の質問2に単純に答えさせるだけでなく、必ず説明を加えましょう。)

キリストに従う者は、すべてのもの—私たちのすべての時間も含めて—が神様のものであると認めます。安息日だけでなく、それ以上のものを含みます。一週間のうち、安息日だけが神様に属すると、だれが線を引くことができるでしょうか？

次のように考えてみましょう。あなたは、週末に友だちと一緒に時間を過ごすとしています。でも、だからといって他の日に友だちと一言も話さない、ということがあるでしょうか？ 週末会ったのだから、他の日に学校で会っても話すことはない、ということはないでしょうか？ それはとてもおかしいことです。私たちは、神様に対するイメージを、意地悪な裁判官ではなく、親しい友だちに描きなおす必要があるかもしれません。

Ⅲ. マラキ書3章10節: 什一は、私たちの収入の十分の一です。 私たちはそれを教会でささげます。

時間について話してきましたが、お金についてはどうでしょうか？ まず、私たちの出発点について考えてみるべきです。—すべてのものは、神様のものです— クリスマンは、すべてのことを神様に委ねるということを学んでいます。神様は、私たちのお財布に入っているお金を奪い取るようなお方ではありません。また私たちも、自分の持っているお金を神様が喜ぶ方法で使いたいと望んでいます。

では、神様はどのように私たちにお金を使って欲しいのでしょうか？ その答えはマラキ書3章10節に書かれています。一緒に読んでみましょう。

(生徒の一人に読んでもらいます。他の生徒に読んだ聖句について考えたことを発表してもらいます。その後で、聖句シート8に言い換えた言葉を書いてもらいます。)

什一とは、十分の一です。ワークシートにある算数を全員で行いましょう。

(ワークシート8の質問3に答えてもらいます。)

十分の一とは、小数点を左に一桁動かすだけのことです。四捨五入の規則を覚えていますか？ これは、規則を「言葉」ではなく、「精神」でとらえるよい機会です。25,555円のお金の中から什一をお返ししようとする、と、2,555円と2,556円のどちらにしようか迷いが生まれます。什一をお返しすることは、私たちのすべてのお金が、神様のものだということを思い起こさせてくれますから、あなたが神様にお返ししたいという「精神」を優先しましょう。あなたは、残りの十分の九についても、神様が助けてくださると信頼しますか？ それとも自分自身で生活できている、という間違っただけの考えを持ちますか？ 什一をお返しする多くの人々が、十分の十でベストを尽くして神様に頼らないことよりも、十分の九で神様に頼って生活することのほうが、不自由しないことを発見してきたのです。

奇跡だと思わないでしょうか？

マラキ書の聖書のみ言葉は、「倉に什一を持ってきなさい」と言っています。倉とはどこでしょうか？私たちは農夫ではないので、収穫したとうもろこしや人参を蔵に入れることはありません。そうではなく、什一を教会に持って行って神様にお返しします。什一は、神様のメッセージを伝える牧師たちの給与として用いられ、彼らが常勤で奉仕できるようにします。一方で、什一が電気料金や週報の印刷代やコミュニティーサービスのために用いられる事はありません。このようなものための献金は、什一に加えてささげられます。神様は、このような経費のサポートも必要だと考えておられますが、これらは神様の倉にお返しする十分の一からではなく、什一に加えてささげるように求めておられます。多くささげる者は、多くの祝福を受け取ると約束されています。

では、什一をお返しした後で、神様は残りの十分の九をどのように用いて欲しいと願っておられるでしょうか？

遊び：優先順位と予算（10歳以上の生徒にお勧めします）

家族のすべてのお金の責任を、あなた自身が任されたつもりになって、何にいくら使うかを考える面白いゲームです。多くの人がまず予算を考えるでしょう。予算とは、お金を何と何のために使うかあらかじめ計画することです。もしあなたが10,000円を持っているとしたら、おもちゃ、ゲーム、食べもの、将来の貯金にどのくらいずつ使うでしょうか？私たちは什一について学んだばかりです。什一は、十分の一の意味で、あなたが神様のために最初にとっておくお金です。このことは、神様があなたの十分の九に豊かな祝福を注いでくださると信頼することであって、すべてのお金を自分の力で何とかしなければならない、ということではありません。

予算は単純なものから複雑なものまでありますが、今日の予算はシンプルなものにしましょう。今回はすべてのお金から七種類の出費を考えます（先生は、生徒たちに、七種類を書いた紙を配るか、ホワイトボードに書くか、プロジェクターに映し出します）。それらは、

1. 家賃
2. 食費
3. 車／移動に必要なお金
4. 什一
5. 服を買うためのお金
6. 楽しみのお金
7. 貯金

です。一度に七種類すべてを同時に支払うのは難しいと考えましょう。来月にはもう少し多くのお金が入るかもしれません。そこで優先順位を決めましょう。七種類のうち、今、

あなたとあなたの家族のためになくてはならないものはどれでしょうか？ その番号に「1」と書きましょう。二番目に必要なものには、「2」と書きましょう。だんだん難しくなってきますね！ 七番目くらいになると、今月ではなくても大丈夫なものに思えるはずですよ。優先順位を考えて、1から7まで優先順位をつけましょう。

答えを完成させるために、生徒たちに時間を与えましょう。子どもたちはこの学びの前には、優先順位や予算のことを真剣に考えたことはなかったと思います。優先順位と、それらが何を意味するのかについて格闘させましょう。彼らは、自分のことだけ考えればいいのでしょうか？ それとも家族のことも考えなければならないのでしょうか？ 特にすべてに十分なお金がないときに、彼らの決心のなかで神様への信頼がどのように働くのでしょうか？ この格闘は、什一を単純な計算から、神様への信頼へと導くことができます。

〈途中説明〉十分の一がいくらか、と考えるのは什一の一部分に過ぎません。多くの人にとっては、毎日神様に信頼し、ひとつひとつお委ねする決心をすることが什一の重要な部分なのです。

IV. ヨハネの手紙1・2章15～17節： 私たちは「この世の物」を選ぶか、 「神様の物」を選ぶか選択しなければいけません。

時間とお金は特定されたものです。しかしこのようなものについても、神様は、大部分の時間とお金をどのように使うかについて、多くの選択肢を与えておられます。私たちは、これらのものを神様が喜ばれる方法で使う方法を、どのようにして知ることができるのでしょうか？ 神様は、神様に従う者たちに、この質問に対する答えを与えられました。ヨハネの手紙1・2章15～17節にその答えを見つけることができます。

(生徒の一人に聖句を読んでもらい、生徒全員で話し合いをしましょう。その後で、聖句シート8に、自分で言い換えた言葉を書いてもらいます)

答えはとても基本的なことです。——すべての物を二種類に分けます。「この世の物」と「神様の物」です。あなたの心は、いつもあなたが大切に思っている物に従うのです。(マタイによる福音書6章21節)、私たちがどのように時間とお金を使うかに基づいて、私たちの思いは、この世か、神様か、に向けて形作されます。

ワークシートの質問4には、二つの空白のリストがあり、記入できるようになっています。左のリストは、「この世の物」、右のリストは「神様の物」です。しばらく時間を取って、それぞれのリストを埋めてみましょう。

(この作業は、生徒たちがこれまであまり考えていなかった事柄を、その背後にある物事を考えて区別させる理想的な機会となります。また、そのための具体的な行動について議論するときになりま

す。多くの生徒は、これまで、両親や他の大人が彼らに教えたいと望んでいたことを、自分の内で経験することができるでしょう。)

V. コリントの信徒への手紙1・6章19、20節： 私たちの体は神様のものです。

1960年代のヒッピーの人々の中に、健康的な生活に興味を持つ人々が現れはじめました。その動機はとても変わっていました。麻薬を服用するのに、健康的な体を持った人のほうが高い恍惚感を得られる、というのがその理由でした。体を破壊するために、その前に体をケアしようと考えたのです！

妊娠中絶の問題を議論するときに使われた表現の一つは、あなたの体は母親であるあなたのものだが、お腹の赤ちゃんの生命は赤ちゃん自身のものだ、ということです。しかし聖書を読むと、この考え方が間違っていることがわかります。コリントの信徒への手紙1・6章19、20節を読んでみましょう。私たちの体や赤ちゃんの生命は、いったい誰が所有しているのかを発見することができます。

(生徒の一人に聖句を読んでもらい、その後で聖句シート8に、自分で言い換えた言葉を書いてもらいます。)

私たちの体は誰に属しているのでしょうか？ このことを死ぬ瞬間まで否定する人もいますが、私たちを創造し、私たちに罪の赦しを与え、再び戻ってこられ、永遠の命を与えてくださる神様に属しています。クリスチャンはこの言葉をよく理解しなければなりません。

この聖句は、精神が神様に属していれば、体そのものは人間の自由にできる、と考えるクリスチャンに向けられているのです。パウロも、「絶対にそんなことはない！」と強く人々に語りました。私たちの体は神様のものであり、私たちが自分の体を通して行うことは、私たちの感情、精神、霊的認知にも深く影響するのです。

先生は、健康的な生き方をするために最も大切な8つのことをホワイトボードに書こうと思います。先生が何を書くか想像できますか。みんなのアイデアを教えてください。(ここに書くことは、生徒用ワークブックの41ページに載っていますが、生徒全員で最初に推測して、それから41ページを見せるようにします。)

(ワークシート8の質問5を参照してください。そこに、健康的な生き方のための10の要素をリストしています。)

Nutrition (栄養)

これは、食事に関する事柄です。ベジタリアンの人でも、多くの砂糖を使ったデザートをよく食べる人もいます。あるいは、果物はたくさん食べますが、野菜をほとんど食べない人もいます。ゼロカロリーの物を選びながら、食事の間にはジャンクフードを食べる人もいます。「良い食事」の基本的な概念は、栄養面で入手できる最善の食物を食べる、ということです。食習慣の結果は、長い期間を経て現れます。一度の食べすぎでは人は肥満になりませんが、日々それを繰り返すことによって肥満になるのです。あなたはどんな食習慣を身に付けているのでしょうか？あるいはどんな食習慣を身に付けたいと思いますか？

Exercise (運動)

私たちの多くは、身体的エネルギーをほとんど使わずに毎日生活しているため、意識的に時間を見つけて運動する必要があります。学校の体操の時間がよい機会かもしれません。大人の人の中にはジョギングをする人もいれば、自転車に乗る人もいます。またジムに通う人もいます。公園を散歩したり、早歩きをすることはとてもよい運動になります。あなたはどんな種類の運動を毎週しているでしょうか？

Water (水)

「一日に八杯の水」は、現在でも標準的なルールであり続けています。暑い時期にはもっと多くの水が必要です。シーツを洗うことを考えてみてください。コップ一杯の水で洗うのと、洗濯機の水で洗うのとどちらが簡単でしょうか？ 体が正常に働くためには、内側にたくさんの水が必要とされます。もちろん体の外側を洗うことも大切なことです！

Air (空気)

私たちが生き続けるためには空気が必要です。呼吸は、きれいな酸素を取り込み、汚れたものを排出するための一つの方法です。運動をすることは、深く呼吸する助けになります。国や地域によっては、空気汚染がひどいためきれいな酸素を得ることが困難です。空気は健康的な生き方の一つの重要な原則なのです。

Rest (休息)

休息と聞くと、人は十分な睡眠をとることだと考えます。しかしそれは休息の一部です。一般的には毎晩七時間から九時間の睡眠が必要です。子ども時代や青年期は、成長時期でもあるためもっと多くの睡眠が必要な場合もあります。しかし、休息は日常のペースを変化させることでもあります。それが、安息日を聖として守る第一の原則なのです。——一週間の働きを一度中止し、安息日に休むのです。

Balance (バランス)

この概念は、よい事であってもやり過ぎてはいけないことを教えてくれます。運動は良いことですが、一時間運動するより十時間運動するほうが良いという意味ではありません。水を飲むことはよい事ですが、一回に10リットルも飲んだら大変なことになります！ また一日に20時間も寝てしまったら、すぐに体のバランスを崩してしまうでしょう。私たちは自分のすることに夢中になりすぎる傾向があるので、第三者の視点で、次のように言ってくれる人が必要です。「君、大切なのはバランスだよ。君は_____をやり過ぎているよ」真に健康的な生き方とは身体健康だけでなく、それ以外に精神面、感情面、社会性、そして心の霊的な部分が安定していることが必要です。

God (神様)

身体健康に、神様への信仰など関係ないと考える人が大勢います。しかし、私たちの体を創られたのは神様であり、神様は私たちのデザイナーなのです。最初から人間が神様とつながるように創られたのも神様です。ですから、神様とのつながりが、あなたの身体健康に肯定的なインパクトを与えるのです。身体的健康づくりのために、あなたにもたくさんの責任がありますが、神様だけがおできになることもあるのです。賢い人々は、日々神様と交わります。彼らは、健康のためには自分が

できることだけでなく、それ以上のことが存在することを知っているからです。

Attitude (態度)

肯定的な人もいれば、否定的な人もいます。すべての事に前向きに取り組もうとする人もいれば、すべての事から逃げようとする人もいます。物事への態度は行動となって表れますが、それはあなたの内側から出るものです。聖書のみ言葉は、「何事でも全力でしなさい」(コヘレトの言葉9章10節)と教え、また「心から行いなさい」(コロサイの信徒への手紙3章23節)と教えています。あなたの態度は、あなたの健康に影響を与えます。あなたは自分の態度がどのようなものか知っていますか？あなたよりもあなたの友人のほうがそれをよく知っているでしょう。あなたの信頼できる友人に忠告を依頼してください。態度を変える必要があったなら、どのように変えることができますか？(ヒント：神様にお願いした後で行動を起こす、など。)

Prayer (お祈り)

お祈りは、どのように身体の健康に影響するのでしょうか？ 明らかなことは神様とつながることで得られる力です(上記参照)。私たちは神様にお祈りを通してお願いし、神様は答えとしての力をお与えになります。もう一つ、お祈りが身体の健康に良い影響を与えるのは、困難を神様に委ねることによって否定的なストレスから解放されることです。それは、安心感という変化となって現れます。実際に、重荷が肩から取り除かれたような感覚になります。また、お祈りはわくわくするような気持ちの高揚と喜びを作り出します。それは神様とつながることで、神様から直接答えを頂くことができると経験上知っているからです。

Laughter (笑い)

笑いが身体の健康に影響するのを知っていましたか？ あなたが良く笑っているときには、心の中で「人生はよいものだ」と無意識に感じているかもしれません。脳内でこのような感情が起きる時、体はエンドルフィンという物質を分泌します。エンドルフィンとは自然な「よい感情」を生み出すホルモンです。それがあなたの体に影響するのです。聖書はこのことを上手に表現しています。「喜びを抱く心はからだを養うが／霊が沈みこんでいると骨まで枯れる。」(箴言17章22節)

アドベンチストは、健康的な生き方が人生に与える影響についてよく知っており、それを重要視しています。現代人の体は、神様がエデンの園で創造された人間と比べればかなり劣っていますが、それでも体を十分にケアするならば大きな違いを生み出します。ここでいうケアとは、完全食しか食べてはいけないとか、ボディービルダーのような筋肉質な体になるまで運動する、という意味ではありません。健康的な生き方のガイドラインに沿って生活することです。しかし実際にそれを知っていても実行しない人も大勢いるのです。ワークシート8の質問5を見て、自分自身について1から3で採点してください。(1=知ってはいるけれど、実行していない 2=健康的に生きるために、これから実行しようと考えている 3=すでに毎日実行している)

(生徒たちに時間を与えて答えを完成させます。その後で次の質問をしましょう。) この健康的な生き方の原則の中で、あなたにはどれが一番易しいですか？ どれが一番難しいですか？

(個人的な採点の作業のあとでフィードバックの時間を持ちましょう。大きなクラスであれば、ワークシート8の質問に個人的に答えさせた後で、小さなグループで話し合い、最後に大きなグループ

で発表しましょう。他には、ワークシート8の項目の中で、最も易しいもの（あるいはすでに習慣になっているもの）に、^{プラス}＋マークをつけさせ、最も難しいものには^{マイナス}－マークをつけさせる、ということもできます。また、他の健康的な原則を加えて話し合うこともできます。）

このような原則の多くは、長い時間をかけて違いが現れるので、これらに関心を持つのは高齢の人々です。若者は、年を取るのはずっと先のことだと思っているので、健康的な生き方にはほとんど興味を示しません。しかし皮肉なことに、若い人々が今従っている習慣が、人生を長く、楽しく生きる可能性を決めてしまうのです。この健康的な生き方のガイドラインは、自分の命を惨めなものにしないため、命をより良いものにするために与えられているのです。

遊び：ジェンガ・タワー

ジェンガは54個の小さな木の積み木を使って遊びます（正規のジェンガ・積み木を使っても、他のメーカーの積み木を使ってもかまいません。安いものを探すこともできるでしょう）。積み木でタワーを建てるには、三つの積み木を、ジェンガ・タワーの基盤として並べることから始めます。次の三つは違う方角に積み上げます。最初の三つと直角に交わるようにします。同じように18段まで積んでタワーを完成させます。

積み木を生徒に配り、タワーを作るまえにマジックペンを与えて、健康的な生き方の原則を一つずつ積み木に書かせます（クラスの人数が多い場合には、できるだけ少人数のグループになるように配分します）。積み木を配ったら、一番好きな健康の生き方の原則、または一番好きでない生き方の原則を書かせます。上級生には、リストにない健康の原則を追加で考えてもらって書いてもらってもかまいません。このゲームの目的は、健康の生き方の原則を記入した積み木でタワーを建てることです。このタワーは、揺れないテーブルの上に置いて、次のクラスで使えるようにしましょう（第9課の遊びでも使います）。

〈途中説明〉私たちは種類の違う健康的な原則を使ってタワーを建てました。一人ひとりが選んだ原則は、どれもが大きなタワーの一部になっています。次のクラスまで、この原則を覚えているために、タワーはこのまま残しておきます。みんなが選んだ原則のひとつひとつが、大きな体を建て上げたことを覚えていてください。小さく見える原則でも、実際にはとても重要なのです。

結論

このクラスの出発点は、すべては神様のものである、ということを知ることです。「すべて」には、私たちの時間、お金、体、そのほかのすべてが含まれます。私たちはこの事実を認めて生きるか？ または認めないかの2つの選択肢を持っています。

今日、先生はみなさんに、すべてを神様にささげる決心をして欲しい、と願っています。すでに神

様に従う決心をした人も、はじめて決心する人もです。あなたが「はい」と決心して神様のために生きようと思うなら、そのためにしたいと思うことを1つでも決めてほしいと思います。

(生徒たちに時間を与えて、この選択について良く考え、それぞれが言葉にできるように導いてください。生徒たちが、何をしたら良いか迷っているようであれば、もう一度ワークシートを読ませるようにしましょう。生徒たちが神様と生きる道を選択したなら、明るく、力強く彼らに励ましを与えましょう。お祈りをしてクラスを閉じます。)

イツツ・マイ・チョイス
It's my choice

私の選択



叫べ

～ 三天使のメッセージ





バプテスマガイド 9 概要

叫べ～三天使のメッセージ

導入：人々の注目を得る方法

- I. 神様は、地球にいる人々に意思をお伝えになります。(ヘブライ人への手紙 1 章 1 節)
 - A. 旧約聖書の時代、神様はモーセ、サムエル、エリヤ、ダニエル、他の預言者を通して、意思をお伝えになりました。
 - B. 新約聖書の時代、神様はイエス様を通して、またペトロ、パウロ、ヨハネ、他の人々を通して、明らかに意思をお伝えになりました。
 - C. 神様は、ご自分の民を通して、今日も意思を伝え続けています。

- II. 第一天使のメッセージ：すべての人に永遠の福音を：神様を尊敬し、神様に栄光を帰し、神様を礼拝せよ。神様の裁きの時が来ました。(ヨハネの黙示録 14 章 6、7 節)
 - A. 第一天使のメッセージの構成要素
 - B. 黙示録 14 章 6、7 節の言い換え
 - C. 「叫び声」の中断

- III. 第二天使のメッセージ：神様の敵が敗北します。(黙示録 14 章 8 節)
 - A. このメッセージの象徴
 - B. 今日の意味
 - C. 誰が勝利し、誰が敗北するか、あなたには分かります。

- IV. 第三天使のメッセージ：神様の敵にとって悪いニュース：彼らは再び戻って来ません。(黙示録 14 章 9～11 節)
 - A. 神様の怒り
 - B. 神様の敵は再び戻って来ない。

- V. 再臨を待つ間、神様の民には、忍耐、信仰、従順が必要です。(黙示録 14 章 12 節)

結論：神様は、地球の歴史の最後に、神様の民を通して全世界の人々に意思を伝えたいと望んでおられます。そのためには、私たちには真剣なる献身、従順、忍耐が必要です。あなたは、神様のメッセージを、他の人々に向かって、彼らのために叫びますか？



バプテスマガイド 9 **要点** 叫べ～三天使のメッセージ

聖句

1. ヘブライ人への手紙 1 章 1 節：神様は、地球にいる人々に意思をお伝えになります。
2. ヨハネの黙示録 14 章 6、7 節：すべての人に永遠の福音を：神様を尊敬し、神様に栄光を歸し、神様を礼拝せよ。神様の裁きの時が来ました。
3. 黙示録 14 章 8 節：第二天使のメッセージ：神様の敵が敗北します。
4. 黙示録 14 章 9～11 節：第三天使のメッセージ：神様の敵にとって悪いニュース：彼らは再び戻って来ません。
5. 黙示録 14 章 12 節：再臨を待つ間、神様の民には、忍耐、信仰、従順が必要です。

決心の時間

三天使の言葉を宣べ伝える役割を負う。
忍耐、信仰、従順を求める祈り。

具体的に（ステージ 3 の子どもたちに適切に）

「沿って動く」

書かれた手紙、声のメッセージ、携帯メール、最後に本人が直接伝える。

「鳴り響く音」

大きな声でメッセージを伝える人、あるいは可能であれば、トランペットの音で、聖書研究を中断させる、など。

「そして、勝者は……！」

雑誌、新聞、あるいはインターネットの結果予想。スポーツの優勝決定戦の予想と、実際の結果レポート。

用意するもの

- ・ 聖書、生徒用ワークブック、ボールペンか鉛筆。
- ・ 親からの四種類のメッセージ。書かれたメッセージ、誰か伝言する人、携帯メールか声のメッセージ、直接（直に）。
- ・ (何か) 大きな音によって、聖書研究を中断させる仕組み。
- ・ 雑誌、新聞、あるいは、インターネットの結果予想のプリント。スポーツの優勝決定戦の予想と、実際の結果レポート。



バプテスマガイド 9 内容 叫べ～三天使のメッセージ

はじめに

アダムとエバが罪を犯したあと、二人は神様と顔と顔を合わせて話すことさえできなくなりました。しかし神様は、何世紀にもわたって、人間に意思を伝える方法を模索して来られました。一方サタンは、そうはさせまいと偽りのメッセージで反撃します。サタンは、神様が伝えようとするメッセージとは正反対のことを信じさせようと、それらを大きく歪曲するのです。

一つの例えがあります。神様がアブラムを神様の民の祝福の基として召されたとき（創世記 12 章 1～3 節を参照）、神様はアブラムを特別に選び、全人類のために彼を祝福し、人々の祝福の基とされました。しかし時が経つにつれて、民は自分自身の内にも神の祝福を受ける価値があると思いつくようになり、自分たちの価値のゆえに神様は働かれるのだ、と考えるようになりました。最初の神様のメッセージがどれほど変わってしまったことでしょうか？

（生徒たちに問いかけ、考え、応答する時間を与えます。この変化の微妙さを生徒たちにきちんと説明する必要があるかもしれません。一つの大きな変化は、「神様が私たちを選んでくださった」のではなく、「私たちには選ばれる価値がある」になってしまったことです。彼らにとっては、神様の祝福が賜物として与えられたのではなく、彼らに価値があるから頂けたのだと考えてしまったのです。もう一つの歪曲は、神様の祝福を分け与えるのではなく、自分自身のために祝福をため込み、それらを分け与えることにケチになってしまったことです。）

これは、神様が人類に送られたメッセージが時間の経過とともに変化し、ついには神様が意図されたこととは正反対に伝わってしまった、という事例です。人々の神様に対する理解と、人間同士の関係も大きく変化させてしまいました。これ以外にも、神様が彼の民にメッセージをお与えになった他の事例も思い出すことができるでしょう。

キリストが天にお帰りになった後、聖霊が神様の民にメッセージを送り続けられました。最初に読む聖句は、このメッセージの中の最初の言葉です。ヘブライ人への手紙 1 章 1 節を開いて、読んでみましょう。

（生徒の一人に声に出して読ませます。それから、生徒たちに言い換えた言葉を書かせます。最初に先生が説明し、生徒たちが話し合いを終えてから、言い換えた言葉を書かせる、という選択肢もあります。）

1. ヘブライ人への手紙 1 章 1 節： 神様は、地球上の人類（私たち）に意思をお伝えになります。

この聖句の最初の部分では、神様が時代を通して、私たちに意思を伝えて来られたということがわかります。神様からのメッセージを預言者が受け取り、それを人々に伝えるというのが、神様が意思

を伝えられる鍵となる方法でした。旧約聖書に登場する預言者は、たとえばモーセ、エリヤ、エレミヤなどでしょう。神様からメッセージを受け取った他の預言者の名前が言える人はいますか？ ワークシートに名前をあげてみましょう。

(他の預言者の名前を書けるように励ましましょう。思いつかないようであれば、ダニエル、イザヤ、ヨナの名前を思い起こさせてあげましょう。ほかにもダビデ、ソロモンのような有名な預言者の名前を言って驚かせたり、ミカやマラキの名前も挙げることができます。上級生はもしかしたら、ナタンやイド、フルダ、ミカヤを挙げることもできるかもしれません。)

私たちの読んでいる聖書は、御子イエス・キリストを通して、神様の意思を伝えるものとして今日まで続いています。イエス様は、単なる大説教者ではなく、神ご自身でしたので、預言者よりもはるかに正確に神様の意思を伝えることができました。

遊び：「伝達ゲーム」

部屋の片側の壁に立っている大人ともう片方の側に立っている大人に、情報を正しく伝達するゲームです。立っている大人には、それぞれ異なった態度をとるように打ち合わせ済みです。つまり「応答する側」の大人は生徒が伝えるメッセージを聞いた後復唱します。もう片方の「応答しない側」の大人は首を縦にふるだけで何一つしゃべりません。

メッセージを伝えるためには四つの方法を用います。あらかじめ協力者である親が書いたメッセージを用意しておき（両親が不在の場合は、先生が代わりにします）、生徒1～5名を部屋の真ん中あたりに集めて一緒にそれを読み上げます。

その内容をそれぞれ壁際に立っている大人に正しく伝えてください、と最初の生徒に依頼します。生徒は『応答する側』の大人と『応答しない』側の大人に、その紙に書かれた内容を見せて、読んでもらいます。

〈手順〉

1. 協力者である親が紙に書いてくれた「一つの情報」を、生徒はそれぞれの側の大人のところに持って行って読んでもらいます。口で説明してはいけません。（そして部屋の中央に戻り、次の生徒にバトンタッチします。）
2. 今度は、先生が違う情報を「口で」生徒に伝えます。（これも協力者の親からあらかじめ聞いていた情報です）。生徒はそれぞれの側の大人に同じように今度は「口で」説明します。（そして部屋の中央に戻り、次の生徒にバトンタッチします。）
3. 今度は生徒に携帯を持たせてそこにメールを送り、メールの内容をそれぞれの側の大人に「口で」伝えてもらいます。（そして部屋の中央に戻ります。）
4. 最後に、協力者である親に部屋に入ってきてもらい、それぞれの側の大人に直接メッセージを伝えてもらいます。（最後のパターンは、神様が、イエス様を地球に直接送られたことを表しています）

〈途中説明〉 神様は、人の書いたことばと、人の話すことばを用いてメッセージを伝えようとなさいます。しかし人々は、時には応答し、時には応答しませんでした。イエス様が直接地上においでになった時にも、ある人々はイエス様のところに集まってきましたが、他の人々は完全に無視しました。

神様のメッセージはどれほど明確ですか？ いくつかのメッセージは数千年前のままで、現在のあなたにとっては分かりづらいと感じるかもしれません。でもイエス様が直接地上においでになられたことによって、神様が旧約聖書の中で与えられたメッセージはより明確になりました。では、イエス様がお語りになったメッセージは明確でしょうか？ イエス様は 2000 年前にメッセージを与えられたのです。神様は、それ以降もなにかメッセージを与えておられるでしょうか？ ワークシートに書いてみましょう。

(生徒の答えを引き出します。新約聖書の四福音書の著者 —— マタイ、マルコ、ルカ、ヨハネ —— は、イエス様のご生涯について書きました。新約聖書の残り —— 使徒言行録、ローマの信徒への手紙、コリントの信徒への手紙一、二、パウロからの他の手紙、その他の書物 —— は、イエス様が天に戻られたあとに、神様のメッセージを私たちに提供しました。新約聖書が世の中に登場したあとはどうでしょうか？ 神様は、マルチン・ルターや、ジョン・カルヴァンのような、何人かの宗教改革者を通して、追加的なメッセージを送りました。アドベンチストは、神様が追加したいと思われたメッセージを、エレン・ホワイトという人を通して与えられたと信じています。他の多くのクリスチャンは、ビリー・グラハムや他の霊的な指導者たちが神様のメッセージを伝えたと考えています。)

現在、神様はどんなメッセージを送り続けておられますか？ 終末時代には、神様が霊的な預言の賜物や多くの人々を通してメッセージを送る、と約束されたことについて学びました。

遊び：鳴り響く音

(あらかじめ依頼していた人に部屋に入ってきてもらい、トランペットや他の楽器で大きな音を出してもらいます。目的は、生徒全員の注目を集めることです。第3課では、大音量の響きがキリストの再臨と共に鳴り響くことを学びました。この課では、再臨以前にも、イエス様が人々の注目を得たいと思っておられることを学びます。生徒の注目を得たあとで、「この聖書研究の次の部分に特別に集中しましょう」と、言うように誰かに頼んでおいてもいいでしょう)

〈途中説明〉 この大きな音は、確かに皆をびっくりさせるものです！ 次に学ぶことに特別注目を得られるようにしましょう。

みんなに質問します。もし神様があなたに、またあなたが他の人に与えたいと思っている特別なメッセージに注目してもらいたいときには、どんな方法がよいでしょうか？ 何か考思いついたらワークシートに書いてください。

(質問の答えを考える時間を与えます。ワークシートに答えを書く前に、自由に話し合いをさせましょう。)

アドベンチストは、神様が最後の時代に特別に注目されるメッセージを与えられた、と信じています。それは、聖書の最後の書物の真ん中に見つけることができます。ヨハネの黙示録 14 章を開き、「三天使のメッセージ」として知られている場所を読みましょう。黙示録 14 章 6、7 節です。

II. ヨハネの黙示録 14 章 6、7 節：

第一天使のメッセージ：永遠の福音をすべての人に。神様を尊敬し、神様に栄光を帰し、神様を礼拝せよ。神様の裁きが来たからです。

このメッセージを以前に聞いたことがある人もいれば、はじめて聞く人もいるかもしれません。三人の天使を一人ずつ見てみましょう。まず黙示録 14 章 6、7 節にある最初のメッセージを見てみます。

(一人の生徒に読ませ、それから話し合いを始めます。「永遠の福音」「あらゆる国民、種族、言葉の違う民、民族」等の言葉に注目します。

「神を畏れ」とはどういう意味でしょうか？ どのように「神の栄光をたたえる」のでしょうか？

「神の裁きの時が来た」とは、どういう意味でしょうか？

創造主を礼拝するとは、どういう意味でしょうか？

話し合いの後で、第一天使のメッセージを自分の言葉に言い換えて聖句シートに書かせます。)

これはとても広範囲のメッセージです。すべての人類に対するメッセージでもあり、また大宇宙の広がりをも扱っています。ですから、大きな声で叫ぶ天使の姿で描写されているのです。それは、前半の学びで私たちが経験した「決心」に似ています。セブンスデー・アドベンチストとして、私たちは大胆にこのメッセージを伝えたいと望んでいます。私たちは何をすべきでしょうか？ と問うすべてのクリスチャンに対する答えが、極めて簡潔に書かれているのです。あなたは、メッセージを宣べ伝えるメンバーの一員になりたいと思いますか？

「福音」という言葉を誤解している人々がいます。第一天使は「永遠の福音」について叫んでいますが、福音とは何のことでしょうか？ ワークシートには、いくつかの選択肢が与えられています。あなたならどのように答えますか？

「福音」を理解するためには、ヨハネによる福音書 3 章 16 節を読む必要があります。この聖句を覚えていますか？ またどんな意味だったか思い出せるでしょうか？

(生徒たちが、福音を自分の言葉で言い換えられるように助けましょう。先生自身が、この言葉を明確に理解していないのであれば、それと格闘するとてもよい機会になります。そして、その学びを

通して得たものを生徒に分かち合ひましょう。それこそが、第一天使がしていることなのです)

ある人たちは、第一天使のメッセージの残りの部分こそが、福音の説明であると言っています。残りの部分には、下記の四つが含まれています。

神様を畏れる＝神様を讃える。尊敬する。神様は全知全能、宇宙の支配者である。

栄光をたたえる＝自分の最善をもって神様をたたえます。

神の裁きの時が来た＝神様がすべての時代の地球上の人々を裁かれる。あるいは、神様の裁きがすべての人に明らかにされる。

創造主を礼拝せよ＝神様がどんなお方であるかを知った人は、自然な応答として神様を礼拝します。これは、一時的なものではなく、神様がおっしゃったすべてのことに従うのです。神様が創造主であることを考えるときに、私たちは天地創造の物語に導かれます。安息日ごとに、私たちは創造主を礼拝するのです。

第一天使のメッセージは広範囲にわたっています！ このメッセージに対して、あなたはどのように応答しますか？ どのように、このメッセージを他の人々に伝えますか？

(生徒の答えを引き出します。)

黙示録 14 章には、さらにメッセージが続きます。第二天使のメッセージを見てみましょう。三つの中で、一番短いものです。

Ⅲ. 黙示録 14 章 8 節： 第二天使のメッセージ：神様の敵は敗北します。

第二天使のメッセージは、黙示録 14 章 8 節に書かれています。

(一人の生徒に読ませ、それから話し合いを始めます。言い換えた言葉を聖句シートに書かせます。)

短い言葉ですね！ この言葉にはどんな意味があるのでしょうか？

(生徒の答えを引き出します。)

今、私たちは聖書の中で、とても象徴的な部分を読んでいます。バビロンは、すべての神様の「敵」を表しています。「バビロン」の根は、バベルの塔の物語の中に見つけることができます。それは、神様に信頼せず、代わりに自分自身の力でなんとかしようとすることです。それは、時に神様に対する明白な反逆となります。「姦淫」が表しているのは、神様に忠誠を表さないことです。神様の民が他の神々に従おうとするとき、それは霊的姦淫と呼ばれるのです。

メッセージはとても明確です。神様に敵対するすべての悪は敗北するのです！ イエス様を受け入れた人々はそれをすでに知っています。でも、決心するために、行動を起こすために、もっと時間が必要だと考える人たちがいます。そのようなひとたちに先生は質問をしたいと思います。あなたは「なぜ敗北するとわかっているチームにいるのですか？ 大切な一つのことは、私たちが一生懸命この戦いを戦う、ということです。そしてもう一つのことは、歴史の中の最終的な決着の場面において、だれが勝者で、だれが敗者かをあらかじめ知ることができる、ということです。これは、宇宙で起きる最も大きな戦いであり、あなたは勝つチームか、敗北するチームをあらかじめ選ぶ事ができるのです。

悩む必要はないと思いませんか？

遊び：勝者は誰か！

スポーツの試合では、どちらが勝ち、どちらが負けるかを予想する人々がいまね。選手のファン同士が自慢話で盛り上がることもありますし、自分が勝つと思う選手にお金をかける人もいます。でも、チーム戦でも個人戦でも、明らかに勝つと思われた選手が、負けるはずの選手に敗北することがあるのです。最近のニュースからこのような例を見てみましょう。

（勝つと思われた選手が負けた、という実例を話しましょう。プロ野球、ラグビーワールドカップ、NBAファイナル、オリンピック競技、サッカー、ボクシングのチャンピオン試合など）パプテスマクラスの生徒が多い場合には、必要な枚数のコピーを用意します。一つの競技結果だけでなく、複数の例を用意すると良いでしょう。誰もが予想できなかった勝負の結果があるとさらに効果的です。

〈途中説明〉予想をした人々は絶対的な自信を持っていました。しかし世の中には何が起きるか分からない、と実は誰もが知っているのです。100%確実な予想をできる人などいないからです。

しかし、第二天使のメッセージは、スポーツの熱狂的なファンや解説者の予想とは大きく違います。この予想は「確実」という言葉に近いものです。そして一方が負ける理由もはっきりしています。「人々を真実の神様から離し、偽物の神々に導いた」というのがその理由です。偉大に見えた——大バビロン——は、戦いの最後には敗者となるのです。神様から離れて生活し、魅力のあるものを好み、派手な生活を愛してきたすべての人は、やがて自分が敗北するチームの一員であったことを知るのである。あなたは、今どちらのチームにいるのでしょうか？

IV. 黙示録 14 章 9～11 節： 第三天使のメッセージ：神様の敵にとって悪いニュース。 彼らは二度と戻って来ません。

私たちは、この三人の天使のメッセージを見る準備が整いました。黙示録 14 章 9～11 節を読んでみましょう。

（一人の生徒に読ませ、話し合った後で言い換えた言葉を聖句シート 9 に書いてもらいます。）

このメッセージは、私には不吉なものです！ 神様に反抗して歩く者には、やがて神様の忍耐と憐れみが、裁きと罰に取って代わるときが来ると言うのです。

私たちは、愛の神様の優しさについてよく聞きますが、神様が誰に対しても、決して罰を与えない

方のような印象を持つことがあります。しかし神様の「敵」がしかけた戦いは、全宇宙の神様に対するものでした。人間を創り、人間のために死なれた神様は、神様に対しても、あるいは神様の民に対しても悪意を持って行動することを決してお許しになりません。それは旧約聖書において、神様の民が何度も繰り返し不従順を行ったゆえに、バビロニア王国に捕囚にされたことが表しています。そして、後にバビロン帝国もすべてを失うことになりました。神様は「敵」に対して、神様の側に来るまで忍耐して機会を与え続けられるので、神様がお怒りになることはない、と考える人もいます。しかし三天使のメッセージによると、その怒りは必ずやって来ることがわかります。

最初にこれらの言葉が理解された時には、まるで地獄において永遠の燃える炎に責め続けられる苦役のように考え、中世において宗教的に改宗するきっかけにもなりました。聖書時代の物語を学ぶなら、ソドムとゴモラに起きたことを知っているでしょう。贅沢で安楽な生活と、自分自身のためだけに生きる人生は、完全な破壊に終わりました。神様は、人々の思いをご自分で調査され、警告のためにメッセンジャーを送り、人々に町から逃げるように告げられました。しかし多くの人は町に残り、完全に破壊されてしまいました。

また、ノアの時代に洪水が地球全体を覆った出来事も知っているでしょう。水は、洗い清めることを象徴していますが、最終時代には地球全体を火の洪水が覆って、最初の天と最初の地を完全に浄化することで、神様はすべてを新しくされ、全く新しい天と地を与えてくださるのです（黙示録 21 章 1 節）。

そんなことは決して起こらない、と断言する人もいます。それがおとぎ話であるかのように生きている人々が大勢います。神様は、人々にこの警告を伝えるために、大きな声で叫ぶ天使を送られたのです。あなたはどのように答えますか？ この警告を、あなたは誰に伝えますか？

(生徒たちの答えを引き出します。)

V. 黙示録 14 章 12 節： 再臨を待つ間、神様の民には、忍耐、信仰、従順が必要です。

神様の民は、そのときまで踏みとどまるために忍耐が必要です。悪が勝利するように見え、神様に忠実に従う民を「敵」があざ笑うときがやって来ます。あなたの立場がまだはっきりしていないときに、神様は忠誠を試されるのです。あなたは、たとえ悪い兆候が見える時にも、神様の約束にしっかりと踏みとどまって信頼し、献身していますか？ あなたは、三天使の終末のメッセージを信じることができますか？ 忍耐に加えて、天使は神様がおっしゃるすべての事に忠実に従うこと、イエス様が父なる神を完全に信頼されたのと同じように、私たちも神様に信頼するべきであることについても述べています。これは、イエス様に完全に献身した関係を求める必要があるということです。三天使のメッセージを受け取るときに、終末時代にとっても困難なときが訪れることを予測できます。これも大切なメッセージの一部分なのです。

結論

終末時代の働きには、真剣な献身が要求されます。あなたは、三天使のメッセージを伝えるチームの一員になる準備ができていますか？ ワークシートに「はい」または「いいえ」をチェックする□があります。たとえ世の人々から厳しい反対を受けたとしても、価値のある「重大な任務」であり、その結果はすべての人の生命に関わるのです！ あなたは、み言葉を伝えるチームの一員になりたいと思いますか——「はい」または「いいえ」のどちらですか？

(これまでの聖書研究を通して、生徒たちに献身と応答を繰り返しながらして来ました。今回のうながしは、三天使のメッセージに特別に関連したものであり、他の人々にそれをシェアするためのものです。生徒たちに十分に考える時間を与え、その後ワークシートにマークをつけさせます。生徒たちの答えを発表するかどうかは、先生が判断してください。)

ワークシートの最後には、あなたの人生のための最も重要な三つの資質をリストしています。それは——忍耐、従順、神様への信頼です。これらは、あなたの生活の中でどのくらい発達していますか？自分の生活をかえりみて、それぞれ1～10の数字をつけましょう。

(生徒たちに、彼らの人生のための最も重要な三つの資質について、応答する時間を与えましょう。)

全員で黙祷をささげるために時間な時間をとります。あなたを通してみ言葉が伝えられ、生徒たちの人生に必要な、忍耐、従順、神様への信頼を持つことが出来るように神様に祈りましょう。

全員の黙祷が終わったら、先生がグループ全体のために声に出してお祈りし、クラスを閉じます。

イツツ・マイ・チョイス
It's my choice

私の選択

10

象徴／シンボル

～バプテスマと洗足式





バプテスマガイド10 概要

象徴／シンボル

～バプテスマと洗足式

導入：オリンピックの金メダルとその他の象徴、例えば旗について。

- I. バプテスマは、罪の赦しの象徴。(マルコによる福音書1章4節)
 - A. 他の象徴
 - B. 改正されたピクショナリー
 - C. バプテスマは、赦しの象徴。

- II. 悔い改めよ：赦しのためのバプテスマ：聖霊を受けよ(使徒言行録2章38節)。
 - A. 使徒言行録2章38節を読んで、言い換えた言葉を書きます。
 - B. 悔い改めが、バプテスマに先立ちます。
 - C. バプテスマは、聖霊が人の命に宿ることも象徴しています。

- III. 最初の洗足式：イエス様の模範(ヨハネによる福音書13章10、14、15)
 - A. 足式の象徴の背景。
 - B. なぜ、今日私たちはそれをするのでしょうか？

- IV. パンの象徴(コリントの信徒への手紙1・11章23、24節)。
 - A. 最初のイエス様の晩餐と、過ぎ越しの祭りからの変化。
 - B. パンは、私たちの基本的な必要を象徴している — イエス様は、必要を満たしてください。

- V. ぶどうジュースの象徴(コリントの信徒への手紙1・11章25、26節)
 - A. ぶどうジュースは、イエス様の血を象徴しています。
 - B. それは、再臨の約束も含んでいます。

結論：バプテスマの象徴は、あなたにとって何を意味していますか？ この象徴をあなたの人生の中で実現させたいと望むなら、バプテスマを受けることが期待されています。



バプテスマガイド10 要点

象徴／シンボル

～バプテスマと洗足式

聖句

1. マルコによる福音書1章4節：バプテスマは罪の赦しの象徴
2. 使徒言行録2章38節：悔い改めよ：赦しのためのバプテスマ：聖霊を受けよ
3. ヨハネによる福音書13章10、14、15：最初の洗足式：イエス様の模範
4. コリントの信徒への手紙1・11章23、24節：パンの象徴
5. コリントの信徒への手紙1・11章25、26節：ぶどうジュースの象徴：イエス様が再び来るまで

決心の時間

あなたにとって、バプテスマにはどんな意味があるかを書いてもらいます。

私は、バプテスマを受けることを選びます。

私は、教会において象徴されているバプテスマ、洗足式、イエス様の聖餐式に参加することを選びます。

具体的に（ステージ3の子どもに適切に）

「はい、知っています！」

見たことがある象徴（シンボル）を見せて、生徒たちに象徴を書かせ、何を意味しているかを推測させます。

「洗足式」

洗面器、水、タオルで行う。

「聖餐式 — パン」

聖餐式を象徴するパンを食べる。

「聖餐式 — 飲む」

聖餐式を象徴するぶどうジュースを飲む。

用意するもの

- ・ 聖書、生徒用ワークブック、ボールペンか鉛筆。
- ・ 象徴的なシンボルを集めたもの（ロゴ、等）。
- ・ ホワイトボード、専用マーカー。
- ・ 洗足式用の洗面器、水、タオル。
- ・ 聖餐式用のパンとぶどうジュース。



バプテスマガイド10 内容

象徴／シンボル

～バプテスマと洗足式

はじめに

オリンピックで選手が金メダルを獲得するとき、彼らは、永久の宝物となる象徴を受け取ります。金メダルは、表面だけが金で覆われているものですが、それは単なる金属よりはるかに価値のあるものです。オリンピックのメダルには、これまで耐え抜いたすべての練習、参加資格を得るために勝ち抜いてきた多くの試合が反映されているからです。メダルは、その選手が「勝者」であることの象徴です。

金メダルの授与式では、国旗が揚げられ、国歌が演奏されます。国旗も国歌も、選手の出身国を象徴するものです。旗は国の代わりにはなりませんが、その瞬間には国を象徴するものになります。勝利した優秀な自国民の栄光の瞬間を、国全体が喜びをもって共感するのです。そのような意味では、その選手自身も国の象徴となるのです。

1. マルコによる福音書1章4節： バプテスマは罪の赦しの象徴

私たちは日常において象徴を良く用います。葬儀に参列する人々は、悲しみを象徴する黒い喪服を着ます。国家の重要な人物が亡くなると半旗を掲げます。既婚者の多くは、結婚を象徴する指輪をはめています。結婚指輪によって彼らが結婚したわけではありません、指輪はお互いの愛の献身を象徴しているのです。

「愛しています」と言葉で語るほかに、「愛」を伝えるたくさんする方法があります。バラの花束を贈る人もいれば、ラブソングを歌う人もいます。他に「愛しています」と伝える方法が他にありますか？
(生徒たちに応答を求めます。)

私たちが日常的に使っている象徴が他にありますか？ 例えば、挨拶をするときの握手や、喜びを表すハイタッチです。

(生徒からの答えを引き出します。リズムよく答えられるようにするには、いくつかの例を挙げる必要があるかもしれません。)

ホワイトボードに「車」と書きましょう。そして「これは何ですか？」と尋ねます。生徒が「車」と答えたら、びっくりした顔をして「これは、車ではありません。インクの線です」と説明します。生徒たちは当惑するかもしれませんが、説明を続けましょう。)

書かれた文字も象徴のひとつです。「車」という文字に乗って、走ることはできません。文字は、私たちが知っている実物を象徴しています。文字自体は象徴なのです。「C」という文字は、それだけでは不完全ですが、私たちはそれをアルファベットという組み文字にしたのです。「C」という文

字は、Kの発音では cat、Sの発音では center というように使われるのです。

イメージを描いてそれが何だか当てる「ピクショナリー」というゲームをしたことがあるでしょうか？ 例えば、わたしが聖書に出てくる人物の名前を当てさせたい場合、羊飼いの杖をホワイトボードに描いたとしましょう。（羊飼いの杖をホワイトボードに描きます）するとあなたはおそらく、staff（杖の意）か、cane（こちらも杖の意）を想像することでしょう。そこであなたは、「cane」と、聖書の人物である「カイン」が全く同じ発音であることに気付くのです。

でも、今日はそれとは違うゲームをします。描かれたものから別のものを連想する代わりに、実際に描かれたものが何を示しているかを考えます。例えば、聖書に出てくる人物の名前を当てる場合、羊飼いの杖が描かれたら「モーセ」や、「ダビデ」のような有名な羊飼いを思い浮かべます。あるいは、よい羊飼いである「イエス様」を思い浮かべます。

遊び：「はい、知っています！」

先生が、いくつかシンボル（象徴）を描きます。それが何を意味しているか当ててください。（生徒ワークシートの一番上の余白に書かせたり、生徒に声に出して答えさせることもできます。誰でも知っている有名なロゴを描きましょう。例えば、「マクドナルドのゴールデンアーチ」、「アメリカ合衆国の国旗」、「ダビデの星」、「アップルコンピューターのロゴ」、「十字架」、「ハートマーク」、「まんじ（かぎ十字章）」、など。生徒たちが答え方を理解したら、先生の代わりに生徒に出題者になってもらってシンボルを描いてもらいます。）

〈途中説明〉シンボルやロゴを見ただけですぐに思い出してもらえるように、会社では自社のマークが有名になってほしいと願っています。制服の胸にプリントして、より多くの人の目にとまるようにしている会社もあります。

シンボルは、いろいろな意味を持っているので、それを見た時に強い感性を造りだすことができます。軍隊で働いた経験のある人は、国旗を見ただけで感情的な反応を示します。共に戦って死んだ友だちの写真を見たときには、同じようにとても感情的になります。でも同じシンボルでも、人によって感じ方が違うので、そのシンボルを見ても何も感じない人もいます。

神様も、私たちにシンボルを与えておられるのを知っていますか？ それはある人にはとても強力なイメージを与えますが、他の人は、ほとんどなにも感じません。神様のお与えおられるシンボルの一つが、マルコによる福音書1章4節に書かれています。何がシンボルか、それが何を示しているのか。

（一人の生徒に聖句を読んでもらい、他の生徒たちにシンボルを特定させます。また、それが何を示しているのか話し合います。それから、生徒が各自言い換えた言葉を聖句シート10に記入するようにします。これは、ワークシート10の質問2と関連があります。正しい答えが一つ以上あることに着目してください。そしてさらに活発に話し合いができるように導いてください。）

人間の罪が完全に洗い流される（赦される）ことを象徴するために、バプテスマのヨハネは、人が

水の中に完全に沈むバプテスマの象徴を用いました。先生なら、石鹸とタオルを使って「さあ、体を洗いましょう」と言っても良かったのではないかと思います。ヨハネは罪の赦しの象徴としてバプテスマを選んだのです。それは水で手や顔を洗う、というのとはまったく違いました。バプテスマは、全身が水に沈むのです。バプテスマを授けてほしい、というイエス様の依頼をヨハネがためらい、むしろ自分こそがイエス様からバプテスマを受けるべきだと言ったことも不思議ではありません（マタイによる福音書3章13～15節）。イエス様は、バプテスマのヨハネや他の人間のように、洗い清める「罪」を持っておられませんでしたが、私たちのためにバプテスマを受ける模範をお与えになったのです。

あなたは罪を犯したことがありますか？ 先生はあります。たとえ水に沈んだとしても、あなたの罪が完全に消えることはありません。しかし、人々はすべての罪を赦して頂きたいとイエス様にお願いすることを象徴するバプテスマを行うのです。あなたは、イエス様にすべての罪を赦してください、とお願いしたことがありますか？ バプテスマを受けることによって、この赦しの象徴を経験したいと思いませんか？ 何人かのみなさんは、この聖書の学びが終わった時にバプテスマを受けることになるかもしれません。そのときに完全な罪の赦しの象徴をあなたも経験することになるのです。

II. 使徒言行録2章38節： 悔い改めはバプテスマに先立ちます。 バプテスマは、罪の赦しと聖霊を受け取ったことを象徴します。

プールに泳ぎに行き水に潜ることと、バプテスマを受けることは全く違うことです。使徒言行録2章38節を読みましょう。このみ言葉の背景は、イエス様の十字架、復活、昇天の後のペトロの説教です。聖霊に満たされた弟子たちは、大胆にイエス様の物語を語りだしました。ペトロの力強い説教を聞いたあと、会衆は自分の罪深さを感じ、メッセージに応答しようとしていました。これが、ペトロが彼らに「しなさい」と命じたことなのです。

（一人の生徒に聖句を読んでもらい、話し合いのあとで、生徒たちに言い換えた言葉を聖句シート10に書かせます。）

悔い改めは、バプテスマに先立ちます。悔い改めは、罪の結果を後悔するだけでなく、神様に反抗したことを後悔することも含みます。なぜなら、それはあなたと神様の関係を傷つけてしまったからです。悔い改めにはまた、神様に向かって方向転換することと、神様との関係を邪魔するあらゆる物から離れることを含みます。これが、100%献身したいという思いに至る機会となります。バプテスマの象徴は、赦しの水門を開く、悔い改めも表しているのです。

使徒言行録2章38節を読むと、バプテスマのもう一つの意味を見つけることができます。イエス様が天に戻られるときに、イエス様に従う者たちには聖霊の賜物が約束されていました。バプテスマは、聖霊の賜物を受け取ることも含んでいたのです。ですから、あなたがバプテスマを受けるときには、罪の赦しだけでなく、あなたの生活に聖霊の賜物を受けることも含まれているのです。

Ⅲ. ヨハネによる福音書 13 章 10、14、15 節： イエス様は私たちに、 足を洗うことによって奉仕の象徴を与えました。

イエス様は、地上におられる間に、いくつかの宗教的な象徴を開始されました。セブンスデー・アドベンチストが今でも行っている象徴のひとつは、聖餐式の一部として行われる洗足式（人々が互いに足を洗い合うこと）です。基礎となっている物語は、ヨハネによる福音書 13 章に書かれています。

当時の人々はサンダルで泥道を歩いていたので、彼らの足はいつもほこりだらけで、家に入るときには召使いが足を洗いました。しかし、イエス様と弟子たちが二階で集まった時、召使いは一人もいませんでした。これは、弟子たちにとって気まずいことでした。なぜなら、誰一人として、召使いの仕事をして自分の地位を低くしたくなかったからです。その時突然、グループのリーダーであるイエス様が、自ら召使いとなって弟子たちの足を洗いはじめたのです。イエス様は、弟子たちの足の汚れを落とすこと以上のことをされました。イエス様は、従う者たちが自分のことばかりを優先しないで、他の人々に仕えることの象徴として模範を示されたのでした。ヨハネによる福音書 13 章 10、14、15 節を読んでみましょう。

（一人の生徒に聖句を読んでもらい、話し合いをさせます。その後で、言い換えた言葉を聖句シート 10 に書かせます。そして、ワークシート 10 の質問 3 に答えてもらいます。）

体を洗った者は、もう全身を洗う必要がないことを覚えましょう。私たちは、足だけを洗えばよいのです。これは、次のようにも言い換えることができます。「バプテスマで水に沈む時に、すべての罪が洗い流され、赦されることを表しているのです、たとえ再び罪を犯したとしても、全身を水につける必要がない」ということです。バプテスマを受けた後に犯した罪は、お互いの足を洗い合うことによって赦されるのです。このような意味では、足を洗うことは、再バプテスマと言うこともできるでしょう。自分は再び罪を犯すことはない、と言い張る人は、他の人の足を洗う象徴を理解できていません。足を洗い合うことは、バプテスマを受けたあとも、私たちがまだ間違いを犯しやすい性質をもっていること、赦される必要があることを認めていることなのです。

実践：洗足式

みなさんは、洗足式をしたことがありますか？

（生徒に、洗足式用の洗面器とタオルを見せます。）

二千年前に、イエス様が弟子たちの足を洗い、お互いの足を洗い合うようにとおっしゃいました。それを二千年後に生きる私たちも行っているのです。

弟子たちはちょうど、誰が一番偉いか、について話し合っていました。彼らは、他の人より自分のほうが偉いと考えていたので、他人の足を洗う、という召使いがする仕事などしたくなかったのです。

イエス様が弟子たちの足を洗いはじめたとき、彼らがどれほどばつの悪い思いをしたか

想像してみてください。イエス様は、弟子たちが互いに争い合っていたのとは正反対のことが正しい、と示されたのです。リーダーであるイエス様が弟子たちの足を洗ったことは、他人に仕えることなどごめんだ、という彼らの考えに挑戦するものでした。弟子たちにそれがとても大切であることをイエス様は示されたのです。イエス様が弟子たちに、お互いに足を洗い合うように言われた理由はそこにありました。足を洗い合うことは、本当の謙遜を実践するための方法だったのです。

現代では、サンダルで泥道を歩くことはほとんどないですし、玄関から家に入る時に、召使いが足を洗ってくれることもありません。でも私たちは、召使いのように謙遜になって、お互いの足を洗うことの意味を理解することができます。

いまから、この象徴を実際に体験してみたいと思います。象徴ですから、いま足が汚れていなくても、謙遜な心になって他の人に仕える気持ちを持ちましょう。また互いに足を洗い合う時には、自分は過去にイエス様に完全に赦していただいたけれども、再び赦してもらわなければならない罪を持っていることを思い出してください。私たちは、もう一度清くしていただくために、イエス様に行動、考え、態度を赦していただくかなければなりません。これを定期的に行うことは、とても価値のあることなのです。

(生徒たちに洗足式のやり方を教えます。悔い改め、赦しと清め、そして他の人のために謙遜の精神が与えられるように祈ることを教えます。)

〈途中説明〉洗足式を実際にするのは今回が初めてかもしれません。これは毎日することではありませんが、この新鮮な体験を通して、他の人を赦し、他の人に仕えることを心に思い浮かべることができるように願っています。

お互いの足を洗い合うことを気まずく感じる人もいます。それは召使の仕事だからではなく、そもそも私たちは、泥道を歩かないのでそれほど足が汚れているわけではありません。ですから、洗足式は毎日行う必要はありません。人の足を洗うことより、人に自分の足を洗ってもらうことが恥ずかしいという人もいます！ でも私たちは、人の足を洗うときも、自分の足を洗ってもらうときも、召使の気持ちを共感できます。洗足式は、その象徴する意味を真剣に考えるときに、とても意義深いものになります。

IV. コリントの信徒への手紙 1・11 章 23、24 節： 主の聖餐式において、 パンはキリストの体を象徴しています。

キリストがお亡くなりになった後、クリスチャンはこの厳粛な出来事を、主の聖餐式というかたちで、あるいは、最後の晩餐と呼ばれる象徴的な礼拝を通して記憶してきました。ベースとなっている

のはイエス様が十字架におかかりになる前に、弟子たちと共に過ごされた最後の食事です。弟子たちは「過ぎ越し」と呼ばれる、ユダヤ人の象徴的な夕食に参加していました。「過ぎ越し」は、エジプトで小羊の血を鴨居に塗った人々を、死の天使が「過ぎ越し」たことを思い起こさせました。それは、罪のない小羊が彼らの身代わりとなって死ぬことを信じるという象徴でした。この象徴は、罪のない者であったイエス様が、私たちの身代わりになって死なれたことを示していたのです。

この物語は聖書のいくつかの場所に書かれていますが（マタイによる福音書 26 章 26～29 節、マルコによる福音書 14 章 22～25 節、ルカによる福音書 22 章 19、20 節）、これから読むみ言葉は、とても有名なコリントの信徒への手紙 11 章 23、24 節です。これが、コリントの教会のクリスチャンたちがイエス様の聖餐式を覚える方法でした。

（一人の生徒に聖句を読んでもらい、以前に読んだことのある生徒がいるかどうか訪ねてください。この聖句にはどんな意味であるか、そしてその象徴することを説明してもらいましょう。その後で、聖句シート 10 に自分で言い換えた言葉を書かせます。）

実践：聖餐式 — パン

イエス様は、弟子たちに「私を記念するため、これを行いなさい」とお語りになりました。それこそが、私たちが聖餐式を行う理由です。

イエス様は、食物の象徴であるパンを取り、それを彼の死の象徴にしました。言い換えるなら、イエス様は私たちの基本的な必要を満たしてくださる、ということです。主の祈りの一部分である「わたしたちに必要な糧を今日与えてください」（マタイによる福音書 6 章 11 節）の答えはイエス様にあるのです。この象徴を食べることでカロリーを満たそうとする人はきっと失望するでしょう。（聖餐式のパンを取り上げて見せます）

時々、若い人たちも聖餐式に参加しますが、覚えておいてほしいのは、このパンの目的は、カロリーを摂取することではなく、イエス様の死を忘れずに覚えておくことなのです。

先生は、みなさんの心のなかにイエス様に住んで欲しいという思いを象徴するために、パンをひとつ取って欲しいと思います。みなさんは、自分の心と生活の中に、イエス様にお入りください、と祈ってほしいのです。私たちは、自分が食べたものが消化器官に入り、それが体の一部になって、生きるためのエネルギーを与えることを知っています。同じように、イエス様が私たちの中に入ると、私たちが見たり、考えたりする仕方が変わります。そして、イエス様のために生きようとする力が与えられるのです。

（生徒たちが、聖餐式のパンをひとつ取る時間を与えます。みんなが取ったら、グループ活動を再開します。）

お亡くなりになる前の夜、イエス様は最後の晩餐の席で、基本的な食物であるパンを取り、象徴的な新しい意味をお与えになりました。このパンは、まもなく殺されるイエス様の体を象徴していて、その贖いの死のゆえに、信じる人々が永遠に生きることができるようになると言われました。イエス様は弟子たちに、彼の死を思い起こすためにパンを食べるよ

うにと告げられました。私たちは、弟子たちと同じようにこれを行おうとしています。パンをゆっくり噛みしめて飲み込む間に、このパンが何を象徴し、自分にとってどんな意味があるのかを考えてみてください。

イエス様は、未来の弟子たちに向かっても、これを行うようにおっしゃったので、現代の私たちも行っているのです。イエス様が「私を記念するため、これを行いなさい」と言われたからです。

(パンを口に入れ、ゆっくり噛みしめるように生徒たちに伝えます。食べている間、静かに瞑想します。)

〈途中説明〉お祈り：イエス様。私たち一人ひとりのために死んでくださり、あなたが私たちのためにしてくださったことを思い起こす象徴をお与えくださり、ありがとうございます。

聖書は、私たちが聖餐式をやりたいならばしなさい、とは言っていません。そうではなく、イエス様が私たちのためにしてくださったことを思い起こすために、定期的にしなさいと言っているのです。象徴を実践することがきっかけとなって、その象徴が意味していること——イエス様があなたや私のために死んでくださったこと——思い起こすのです。象徴は、信じる人々にとってはとても意味のあるものですが、無関心な人々にとっては、形だけの意味のない行為に過ぎません。セブンスデー・アドベンチストは、聖餐式を一年に四回行っています。

V. コリントの信徒への手紙1・11章25、26節： 聖餐式の中で、ぶどうジュースは、イエス様の血を象徴し、 救いの恵みと再臨を思い起こします（「彼が来るまで」）。

聖餐式について読み進めていくと、もう一つイエス様が制定された象徴を発見します。それは、コリントの信徒への手紙1・11章25、26節に書かれています。

(一人の生徒に読んでもらい、その後で話し合いをします。フォローアップとして、聖句シート10に言い換えた言葉を書かせます。)

「新しい契約」とは、イエス様が私たちの心の中に住んでくださり、彼に従いたいという願いを私たちに与えてくださる、という約束です。「古い契約」では、神様が望んでおられることを知ることは出来ても、それを行うための動機や力が私たちの内側にはない、ことを意味していました(エレミヤ書31章31～34節を参照)。

実践：聖餐式 ― 杯を飲む

イエス様と弟子たちは、過ぎ越しを祝っていました。それは、エジプトで奴隷の身分であった神の民を解放するために、死の天使が彼らを過ぎ越して、彼らの敵を撃ったことを思い起こすためのお祭りです。イスラエルの人々が鴨居に塗った小羊の血は、神様の救いに対する信頼を表していました。千年以上の後、イエス様は過ぎ越しの象徴に新たな意味をお与えになりました。つまり、小羊の血は、すべての人を贖う「神の小羊」であるイエス様の血を表すのだと教えられたのです。

過越の食事の間、いくつかの種類が用意され、さらに特別な四つの目的のために、四つの特別な時間に、彼らは杯から飲みました。イエス様が聖餐式を始められたとき、彼は、象徴であるパンと飲み物について述べられました。

血を象徴させるぶどうジュースは、少し残酷に思えますが、私たちは、吸血鬼のように血を飲もうとしているわけではありません。イエス様がこの象徴を制定された当時の人々は、「血」と「命」をひとつのものと考えていました（レビ記 17 章 11 節を参照）。言い換えるなら、イエス様の血を表すぶどうジュースは、同時にイエス様の命を表しているということです。そのジュースを飲み、それが私たちの体の一部となるときに、イエス様が命をお与えになったことを思い起こすことができるなんて、素晴らしいとは思いませんか！私たちは、本当にイエス様に私たちの内に入って頂きたいと思っているのですから！

みなさんは、このぶどうジュースを飲むように招かれています。ちなみに、イエス様の時代には、ぶどうを絞って作られた飲み物は、みな「ワイン」と呼ばれていました。（希望する生徒たちに、ぶどうジュースをひとつずつ取るように勧めます。みんなが準備できるまで待ちましょう。）

あなたの内にキリストの命が与えられるという象徴、そして、あなたの体を通してイエス様の命があふれ出る、という象徴を私たちは思い起こすのです。（模範として、あなたのコップをゆっくり丁寧に持ち上げます。）イエス様はおっしゃいました。「わたしを記念するため、これを行いなさい」。（ジュースを飲んで、しばらく静かに瞑想します）

〈途中説明〉イエス様は、再び地球に戻って来られるまで、ぶどうの実から取った飲み物を飲まないと言った弟子たちにお語りになりました。ここにもう一つの象徴的な意味があります。聖餐式に参加するとき、私たちは、イエス様が私たちのために死んでくださったことを思い出すだけでなく、イエス様が再臨されるときまで、この聖餐式を続けていくことを決心するのです。（マタイによる福音書 26 章 29 節を参照）

聖餐式にはいくつかの象徴が含まれますが、それら一つひとつには、深い意味が込められています。しばらくの間、これらがあなたにとってどんな意味があるのか、熟考してみましょう。ワークシート

10の質問4を見てみましょう。選択肢を読んで、自分で応答しましょう。

(生徒たちに、ワークシート10の質問4に回答させます。)

最後にもう一度ぶどうジュースを飲みます。イエス様の命をあなたの命の一部分にするための象徴として。決して、喉の渇きを癒すためではありません。

結論

今日、私たちは、象徴（シンボル）に注目しました。象徴には私たちが考える以上に深い意味が込められています。今回私たちが学んだ宗教的な象徴は、バプテスマ、洗足式、そして聖餐式でした。

バプテスマの意味について、みなさんはそれぞれ選択肢に○をつけましょう。ワークシートには、あなた自身の言葉で、バプテスマがあなたにとってどんな意味があるのかを書いて欲しいと思います。正しい答えを書こうとするのではなくて、純粹にあなたが思う通りの答えを書いてほしいと思っています。

(生徒たちが、個人個人で回答するために時間を与えます。この学びの最後の部分は、バプテスマへの招きになります。これは一対一で行いたいと思う場合もあるかもしれません。しかし、一人の大人と一人の子どもがこのような大切な会話をするとき、それは非常にデリケートな状況になります。大人は若者にとって、容易におびやかす存在になり得るのです。人々に対してキリストに献身してほしいと願う私たちの切実な思いが、実際には彼らの未熟な決心を強制することになる場合もあります。もし、このようなことが起きた場合、彼らはあとになって、大人が宗教的な力を悪用したと感じ、怒りを感じ、傷を負ってしまうことがあるのです。でも、人々をバプテスマに招かないことは、大宣教命令を無視することになってしまいます。私たちは、人々が個人的に、バプテスマの選択をすることができるように、彼らの自由意志に任せなければなりません。イエス様が私たちに示してくださった模範をお教えします。このような重大な招きをするときには、十分な祈りを通して、神様に判断力を求めるのです。)

ワークシートの一番下には、バプテスマを受けたいかどうかを書き、その理由を書くようになっています。はっきり言っておきたいのは、これはみなさん自身へのバプテスマの招きだということです。先生は、みなさんにすべての罪が赦されるという象徴を経験してほしいと思っているので、この学びをみなさんに教えました。でも、みなさんの中にはそんな気が全然なかったり、それほど関心がない人もいるかもしれない、ということも分かっています。先生はみんなにプレッシャーをかけたくありません。もしあなたが、自分自身を完全に神におゆだねすることに興味がないなら、無理にそうする必要はありません。このような場合には、もう少しあとになって決心する方がよいでしょう。でも、もしあなたが、この大きな献身をする事にとっても興味をひかれているなら、あなたは今、神様から直接の招待を受けていることを知ってほしいと思います。

最後の質問に答えるために、じっくり時間を取ってください。そして、あなたの答えを先生に教えて下さい。どのような答えであっても、先生はあなたの書いた答えをととても知りたいと思っています。

(慌てずに生徒たちが答えられるように熟慮して時間を与えます。そして、学びの終わりのお祈りをします。)

イツツ・マイ・チョイス
It's my choice

私の選択

11

バプテスマの 誓約と契約





バプテスマガイド

～バプテスマの誓約のために

聖句

この学びでは特に聖句は定めませんが、これまでの研究を参照する目的と、このシリーズでは扱われていない項目についても答えられるように準備しておきましょう。

決心の時間

バプテスマの誓約にサインすることによって、最終的なバプテスマへの献身の気持ちを強める。

具体的に（ステージ3の子どもたちに適切に）

バプテスマを受けたいと望む子どもたちにもわかるように、バプテスマの誓約（ジュニア用）を使用する。

用意するもの

- ・正式なバプテスマの誓約。生徒用ワークブックに印刷されています。通常、バプテスマ証明書の裏にも印刷されています。
- ・バプテスマの誓約（ジュニア用）。これも生徒用ワークブックに印刷されています。
- ・バプテスマ候補者本人と、霊的にサポートしてくれるメンターがサインするためのバプテスマの契約書。これは、最初からオリジナルを使用してもよいし、生徒用ワークブックに印刷されているものをアレンジしてもよい。
- ・バプテスマ証明書を人数分。
- ・バプテスマの誓約にサインするためのペン。

はじめに

あなたのバプテスマの準備のために、たくさんの聖書の学びを継続して来ました。いくつかは、あなたにとってとても有意義な復習にもなったと思います。あなたの家族が、神様を愛する子どもにあなたを育ててくれたことが、最も幸福なことです。しかし今、あなたは自分で決心するときに来ています。これまでは、周りの人々があなたのために正しい道を選んでくれました。でも、これからもずっとそのまま生きていくことはできません。過去にあなたを導いてくれた両親や他の教会員は、今度はあなたを支える友人としての役割を担ってくれます。霊的な命への道を、あなたは自分ひとりで歩いてきたわけではないのです。でも今度は、いよいよあなたが主導権を握る番になりました。あなたがどれだけ成熟しているか、あるいは霊的であるか、などと考えて、すべてを自分の力でしようとは思わないでください。責任をもって選ぶ、という意味は、あなたが自分で神様に助けと支えを求める人になるということを表します。クリスチャン人生は独りで生きて行くものではありません。キリストの体の一部になるということは、他の人々に頼る、ということであり、あなたもまた、他の人々から頼られるという意味なのです。体はひとつになって働きます。体の各部分が、目的もなしに単独で働くことはないからです。

バプテスマは、あなたが大人となるための重要な儀式です。一度バプテスマを受けた人は、一生の間、霊的な生活を問題なく送ることができると思う人もいますが、それは間違いです。実際に、バプテスマを受けた途端に、物事が悪くなって行くように感じる事だってあるでしょう。イエス様とサタンの大きな戦いの中では、あなたがバプテスマを受けてキリストのものとなった後も、あなたの生活はまだ戦場にあるのです。イエス様の側に立つことは、あなたがサタンから完全に自由になったという意味ではありません。それは、あなたが悪魔と戦えるように、神様が味方についてくださったことを意味するのです。あなたも神様と共に戦う兵士になるのです！ 私たちはますます神様を必要とし、お互いのことも必要としているのです。

ここで私たちが学ぶことは、バプテスマの誓約を理解する、ということです。みんなで輪になって、順番にバプテスマの誓約を読みます。途中で質問があれば自由にしてください。読み終わったあとで、どんなことでも質問できる時間を取ります。

正式なバプテスマの証明書に記載してある誓約を読むか、ジュニア用のものを読んでもかまいません。先生が選んでください。

(生徒に、バプテスマ証明書にある誓約の4番まで〈あるいはジュニア用の誓約の4番まで〉を読ませます。生徒一人ひとりに、交代で1番から読ませます。必要などころでは説明を与え、バプテスマ候補者自身が、承認を声であらわして「はい」と返事するのを待ちます。このプロセスは、すでにバプテスマを受けている大人にとっても、バプテスマの誓約を再確認するのに役立ちます。まだバプテスマを受けていない人たちが、プロセスを知るのにもとても有益です。

バプテスマ式について書かれている次の課にも注目してください。そして、「牧師ができるいくつかのこと」のリストも見てください。新しくバプテスマを受けた人には、霊的なメンターがいることが望ましいです。テキストの最後には、霊的なメンターができることについての提案も書かれています。)



バプテスマの誓約

1. わたしは、唯一の神 —— すなわち、父なる神、み子イエス・キリスト、聖霊なる神 —— が、三位一体の永遠の神であることを信じます。
2. わたしは、カルバリーにおけるイエス・キリストの死を、わたしの罪を贖う犠牲として受け入れ、神の恵みにより、その流された血を信じる信仰によって、わたしが罪とその刑罰から救われることを信じます。
3. わたしは、イエス・キリストを自分自身の主、また救い主として受け入れ、神がキリストにあってわたしの罪を赦し、新たな心を与えてくださっていることを信じます。またわたしは、この世の罪の道を捨てます。
4. わたしは、天の聖所におけるわたしの仲保者であるキリストの義を信仰によって受け入れ、わたしの家庭において、また世の前に、キリスト中心の愛の生活をするために心を変える恵みと力を与えるというキリストの約束を信じます。
5. わたしは、聖書が神の靈感によるみ言葉であって、それがクリスチャンの信仰と行為の唯一の基準であることを信じます。またわたしは、計画的に祈りと聖書研究に時間を用いることを約束します。
6. わたしは、神のご品性の写しであり、神のみ旨のあらわれである十戒を受け入れます。また、週の第7日を主の安息日、創造の記念日として守ることを要求する第4条を含めて、このおきてを、内住するキリストの力によって守る決意があります。
7. わたしは、「この朽ちるべきものが朽ちないものを着（る）」（Iコリント15：54）ときに実現する祝福された望み、間近なイエスの来臨を待ち望んでいます。わたしが主に会う準備をするときに、主の愛の救いのあかしを立て、自分の能力を用いることで、主の栄光ある出現に他の人々を備えさせる救霊の努力をします。
8. わたしは、霊の賜物についての教理を受け入れ、預言の霊は残りの教会を証明するしるしの1つであることを信じます。

9. わたしは、教会組織を信じ、什一と諸献金、また個人的な努力と影響力によって教会を支える決意があります。
10. わたしは、自分のからだが聖霊の宮であることを信じます。また、からだを大切にすることによって神をあがめます。また、有害なものを用いることを避け、すべての清くない食べ物を慎み、アルコール性飲料の使用、製造、販売、またいかなる形であっても、タバコの使用、製造、販売を行わず、麻薬類の乱用、不正な取引を避けます。
11. わたしは、セブンスデー・アドベンチスト教会が教える聖書の基礎的原則をよく理解して、神の恵みにより、わたしの生活をこれらの原則と一致させることで神のみ旨を行う決意があります。
12. わたしは、新約聖書に教えられている沈めのバプテスマを信じ、キリストと彼によるわたしの罪の赦しを信じる信仰の公の表明として、バプテスマを受けることを望みます。
13. わたしは、セブンスデー・アドベンチスト教会が聖書の預言の残りの教会であることを信じ、またすべての国、民族、国語から人々がこの教会に招かれ、その交わりの中に受け入れられることを信じます。わたしは、この世界教会の一員となることを望みます。



バプテスマの誓約 (ジュニア用)

1. 私は、父、御子なるイエス・キリスト、聖霊なる神様を信じます。
2. 私は、イエス様が私の罪のために死んでくださった、と信じます。
3. 私は、私の罪深い心の代わりに、イエス様が新しい心を与えてくださる、と信じます。
4. 私は、イエス様が私の最高の友達であると信じます。そして、イエス様が天にいて、私が神様に従うことが出来るように、聖霊を与えてくださる、と信じます。
5. 私は、神様が、一番大切な本として、私に聖書を与えてくださった、と信じます。
6. 私は、私の中におられる神様によって、十戒を守りたいと思います。第七日の安息日も守りたいと思います。
7. 私は、間もなくいらっしゃるイエス様をお迎えするために、出来るだけ多くの人を助けたいと思います。
8. 私は、神様は、教会にいろいろな聖霊の賜物を与え、選ばれた人たちに、預言の霊を与える、と信じます。
9. 私は、私の影響力、努力、献金によって、神様の教会を助けたいと思います。
10. 私は、聖霊が今住んでくださっている私の体を大切にしたいと思います。
11. 私は、神様の力によって、セブンスデー・アドベンチスト教会の教えに従いたいと思います。
12. 私は、自分がクリスチャンになったことを人々に証しするために、バプテスマを受けたいと思います。
13. 私は、セブンスデー・アドベンチスト教会のメンバーになりたいと思います。私は、この教会には、世界に伝える特別なメッセージが与えられていると信じます。



契約

「契約」とは、人々の間でなされる個人的な約束です。聖書の時代、神様は、神の民と契約を結びました。彼は、今日も契約を結び続けています。神様と私たちとの契約とは次のようなものです。

**神様は「私は、あなたの神になりたい。
そして、あなたには神の民になって欲しい」と言われます。**

私たちが時々、同じようなことを言います。「私は、あなたの友だちになりたい。そして、あなたにも私の友だちになって欲しい」。

しかし、契約の言葉はいつも行動を要求します。人間はバプテスマを受けるときに、約束と共に、神様と契約を結びます。バプテスマは素晴らしい出来事ですが、もっと大事なものは神様との関係です。バプテスマで結ばれる契約には、人が神様との関係の中で実践する行動も含まれています。もちろん「善いときも」「悪いときも」あると思いますが、本来、契約は毎年、更新されるべきものです。

バプテスマを受けることによって、人間はイエス・キリストと結び合わされ、またキリストの体である教会に結び付けられます。バプテスマを受ける人（メンティー）には、彼らの側において霊的な援助をする「メンター」と呼ばれる人と契約を結ぶことをお勧めしています。メンターは、クリスチャン人生の経験のある人で、バプテスマを受ける人と一緒に経験を積むことを喜んでくれる人であるべきです。

メンターとは十分に長く、頻繁に時間を過ごすべきで、その中で、情報を分かち合うだけでなく、より深い会話、例えば、霊的な質問、感情、希望、恐れ、欲望、そして告白や祝いごとなども分かち合うのです。ある場合にはメンターが主導権を握ることもありますが、情報は常にオープンで互いに将来を期待することができ、またバプテスマを受けた人からも熱心さやエネルギーを与え、若い洞察やアイデアを与えることが期待されています。メンターは、自分自身の人生に起きたおぼろげな記憶となってしまった要素を再び発見することになるかもしれません。

メンターとの関係は、互いへの尊敬と献身の気持ちも含まれていることを認め、よく熟考してからスタートするべきです。二人は関係を築くために、定期的に率先して会うようにします。一年が過ぎたら、未来についての総括と決断をします。それは、新しい契約や、新しい決心をするべき時かもしれませんし、変化の時かもしれません。イエス様と共にある命は、常にダイナミックで、成長、変化、革新を経験するのです。

メンターとメンティーは、自由に契約を作成することができます。もちろんテキストに掲載されている例をそのまま使用したり、独自のスタイルに内容をアレンジすることもできます。

バプテスマの契約

神様と私と友だちとの契約

私、 _____ (メンティー) は、

神様と、

_____ (メンター)

との間に契約を結びます。

バプテスマに続いて霊的に成長するためです。

この一年の契約には、私 (メンティー) の霊的成長のために喜んで献身してくれる、
クリスチャンの人生経験豊かなメンターとの契約を含みます。

この関係を相互に大切にし、メンターとメンティーはお互いに積極的に関わり合い、
霊的成長を目指していきます。

この誓約のために、私 (メンティー) は、一年間以下の献身を約束します。

- **毎日**、お互いのために祈ります (祈りのリクエストとフォローアップ)。
- **毎週**、お互いに連絡を取り合います (実際に会う、電話する、メールする)。
- **毎月**、霊的な実践を行います。

(霊的に成長するために、他者に仕えるために、奉仕を楽しむために)

私たちは、互いに霊的に成長するために、以下のことに心がけます。

- イエス様と個人的なつながりを持ちます。
- 神様を礼拝します。
- 教会活動に積極的に参加します。
- イエス様がなさったように人々に仕えます。

私は、パートナーであるメンターと、

個人的に、あるいは共に挑戦していくことに同意します。

私は神様の求められる方法で、

- 聖書を読みます。
- 祈ります。
- 礼拝します。
- 他者に仕えます。

人々に奉仕します。

- 時間を用います
- お金を用います
- タラントを用います

一年後、私たちはこの契約を総括し、さらに未来のために決心をするつもりです。

_____ 日付

_____ サイン (メンティー)

_____ サイン (メンター)



バプテスマ式

いかにバプテスマ式を肯定的な記憶として残るものにするか。

人が結婚するときには、「誰と」結婚するのかが一番大きな問題です。「いつ」「どこで」結婚式を行うかも重要ですが、ずっと小さな問題です。

バプテスマを受けることは、イエス様と結婚するようなものです。最も大切なことは、自分は「なぜ」イエス様を選ぶのか、ということです。それに「いつ」「どこで」という選択肢が続くのです。

ほとんどの人は「礼拝の時間」に、教会の「バプテスマ槽」でバプテスマを受けます。

この「ゴールデンタイム」にバプテスマ式を企画すれば、多くの教会員が参加できるからです。バプテスマは、イエス様への個人的な献身を証しするものですが、あなたのことをまだよく知らない人々に対しても励ましを与えるよい機会となります。

しかし、安息日礼拝の中で行われるバプテスマ式に参加した人の中には、大切な式を大急ぎで行っているようだ、と感じる人もいます。彼らは、安息日礼拝とは別にバプテスマ式を行っても良いと思っています。つまり、バプテスマ式を「いつ」「どこで」行うかについては、いろいろな選択肢が考えられるということです。あなたの考え方を刺激するために、以下にいくつかのアイデアを紹介したいと思います。

〈礼拝プログラムの作り方〉

いつ：安息日礼拝の中で

どこで：教会のバプテスマ槽で

1. 「キリストへの献身」についての説教をする中でバプテスマ式を行い、献身と応答の具体的な例証としてのバプテスマを人々に示すことができます。
2. 礼拝説教の代わりにバプテスマ式を行い、式後のフォローアップの証しを通して、教会員が自らのバプテスマを振り返る機会とすることもできます。
3. 讃美と献身の歌の間にバプテスマ式を組み込み、礼拝プログラムの前半の焦点にすることもできます。
4. 礼拝の前半にバプテスマ式を行い、礼拝の終禱で、バプテスマを受けた人が聖霊を受け取ることができるように、手をかかげて祈ることもできます。
5. 教会発表でバプテスマを受ける決心をした人を紹介します。教会員として受け入れる採決の後で、彼／彼女のバプテスマに関わった人々を会堂の前方に招きます。例えば、家族や安息日学校のリーダー、彼／彼女の学校の先生、支えとなった同級生やお友だち、安息日学校の生徒や教会員。大勢に囲まれた中で、牧師がバプテスマ証明書を渡し、家庭部、女性部がお祝いの品（バラの花束など）を贈呈し、その後で長老会から『キリストへの道』や『聖書・讃美歌』

などのプレゼントを贈呈します。

いつ：礼拝以外の時間に

どこで：教会のバプテスマ槽で

1. 金曜日のベスパの時間に行う。
2. 金曜日の夕べに、聖餐式のプログラムとバプテスマ式と一緒に企画して教会員が参加する。
バプテスマ式に参列する人は、洗足式と聖餐式にも参加する。
3. 安息日礼拝と昼食を終えてから、特別にバプテスマ式を執り行う。
4. 安息日以外の平日に行う（誕生日、大晦日、クリスマスイブ、あるいは、大切な親戚、友だち、お世話になった牧師が地域に訪れたタイミングで）。安息日は、バプテスマ式に理想的な時間と思われがちですが、工夫次第によっては、安息日以外でも祝福されたバプテスマ式を行うことができます。
5. 安息日学校のクラスが行われている時間に、彼／彼女がバプテスマを決心した証を聞くプログラムを持ち、そのクラスの時間の中でバプテスマ式を行います。他の安息日学校クラスは、バプテスマの証人となるために、早めにプログラムを終了して参加します。（礼拝の開始時間を少し後ろにずらす必要があるかもしれません）

いつ：礼拝以外の時間に

どこで：教会のバプテスマ槽以外の場所で

1. アクセス可能な湖でバプテスマ式を行います。水深によって水温が変わるので、スニーカーかサンダルを履く必要があるかもしれません。バプテスマを受ける人が水に入るまでに、岸から歩くことになるので、短いスピーチがあるといいでしょう。
2. 川でバプテスマ式を行います。水温と川底の状態に加えて、流れの速さに考慮する必要があります。バプテスマを受ける人の頭が、上流に向くようにすべきです。川の穏やかな部分を探すと良いでしょう。川は、バプテスマ式を行うのに最適な場所です。イエス様も川でバプテスマを受けられました。
3. 海でバプテスマ式を行います。湖でのバプテスマ式と似ていますが、波の高さを考慮する必要があります。浸礼のタイミングを波と合わせます。体に浮力がかかるので、海水と淡水の違いにも注意してください。
4. 温泉施設や宿泊施設の浴場の湯舟でバプテスマ式を行います。地区の伝道集会などを行う場合、利用する宿泊施設と交渉して行われることがあります（浴場内は暑いため、式は簡潔に行います。すべらないよう注意します）。
5. 簡易バプテスマ槽でバプテスマ式を行います。伝道講演会の会場や教会にバプテスマ槽がない場合、教区が簡易バプテスマ槽を所有している場合もあります。（硬質フレームと防水ライニングでできています。バプテスマ槽に出入りするのに階段の代わりとなるものが必要です）。

牧師がバプテスマ式に先立って行うべきこと

1. バプテスマに先立ち、家庭を訪問して、個人的にバプテスマ候補者に会いましょう。子どもたちとすでにバプテスマクラスを行っていたとしても、バプテスマの誓約については、候補者と家族と一緒に、個人的に実行することをお勧めします。教会では会衆の前でバプテスマの誓約事項に対し、「はい」と答えるのが通常ですが、これを家庭の中で、本人と家族と一緒に行うことで、はるかに個人的で、親密な時間とすることができます。教会で育った子どもにとって、バプテスマは、自分の霊的生活に第一の責任を担う者として歩み始める節目となります。家族と一緒にバプテスマの誓約をするとき、それは両親にとって、子どもが新しい発達のステージに入ったことを認めるきっかけとなります。すでにバプテスマを受けた親にとっては、自分の誓約を振り返る経験になり、まだ信仰を受け入れていない親にとっては、その模範に従う種を蒔くこととなります。
2. 水を使わないで、候補者とバプテスマを「練習」します。牧師はすでに何度もバプテスマを施しているかもしれませんが、候補者にとっては初めての経験です。彼らには数々の不安があります。どうやって手をつかむのか、どうやって鼻に入る水を防ぐのか、タオルをどのように用いるのか、どのくらい長く水の中にいるのか。「ローブがめくれて下着が見えたらどうしよう」と不安に思う女性もいます。また、「体はウエストのところで曲げるの？ それとも背中をアーチ状に曲げるの？ 膝は？」と心配する人もいます。水中では、水なしで練習するよりずっと簡単なので、実際のバプテスマの前に水なしで練習しておくのです。
3. なぜバプテスマを受ける決心をしたのか、あなたにとってバプテスマにはどんな意味があったのか、について短い証しを書いてもらいます。それをバプテスマ後に、本人に読んでもらうか、牧師が代読します。
4. バプテスマ候補者一人ひとりのために、特別な聖句を選び、それをバプテスマの前に候補者のために読み上げます。
5. バプテスマの間、受浸者を支えるために、家族や友だちに水の中に一緒に立ってもらうのも良い方法です。あるいは、インターン牧師や学校の先生に牧師と一緒にバプテスマ槽の中に立ってもらってもいいでしょう。
6. お祝いのカードや贈物、パトックや特別な夕食・飲物、バプテスマ式の前に招待状を送る、などして、特別にご家族や友だちを招待します。バプテスマ候補者にとっては、その日が霊的な誕生日だということ覚えましょう。この日は、将来にわたって、彼／彼女がクリスチャンとして成長する段階で祝う特別な日となります。
7. 一年間、新しくバプテスマを受ける人の霊的メンターとなる人を、バプテスマに先立って特定します。バプテスマ候補者と霊的なつながりがあり、定期的に交流し、バプテスマを受けた人を励まし、支え、質問し、チャレンジを与え、彼らが継続して霊的成長ができるような人を選びます。メンターは、同じ時間にディボーションの習慣をするように促したり、奉仕を実践したりするように招くことができます。これらの経験からフィードバックを与え、調整し、フォローアップします。メンターは、共に神を礼拝し、共に地域奉仕をすることによって、伝道のドアを開くことができます。また、バプテスマを受けた新しいメンバーのタラントを発見して、

それを積極的に教会役員会に紹介することもできます。

弟子の一步として、次にバプテスマを受けてもらいたい人の候補を数名挙げてもらい、式への参加を呼びかけてみましょう。

そして、バプテスマを受ける人とメンターと一緒に聖書を読んでもらえないか、と誘います。

メンターについては次の項目をご参照ください。



メンタリングの必要性

メンターとなる人は、 教会に新しく加わるメンバーを霊的に援助します。

人が新しく教会に加わるとき、彼らは多くの注目と肯定的な評価を受けます。牧師は、個人的な学びとしてバプテスマクラスを行ってきましたが、バプテスマから一週間、二週間も過ぎれば、ほとんどのことは忘れてしまうでしょう。バプテスマは、クリスチャン生活のスタートであるにもかかわらず、多くの場合、ゴールのような印象を与えてしまいます。

新しくバプテスマを受けた教会員のための霊的メンターは、支え、教え、交わり、励まし、洞察を与え、奉仕の機会を提供し、フィードバックと知恵を与えることができます。

メンターとなる人を選ぶ場合は、新しくバプテスマを受けると良好な関係を築いている人を選びましょう。将来何か肯定的なことが起こるはずだ、と楽観的になるだけでなく、メンターとメンティーの関係を最大限に良好にするために、お互いにできるだけのことを話し合しましょう。

新しくバプテスマを受ける人にメンターが与える提案 お互いの会話のテーマの一例として：

1. 神様とあなた自身がつながることが一番大事なことです。神様との関係はダイナミックなもので、他の生き物と同様に、準備と実施、行動と休息、目的と働きを持つものです。神様は、あなたとの間に良好な契約関係を育むことを期待しておられます。あなたは、神様との関係の中でどのように成長して行くでしょうか？ それは、人によって異なります。
2. 神様とあなた自身の関係の中で、「祈り」と「聖書の学び」をどのように役立てるか、を含めて、個人的なデイポーションの習慣を実践しましょう。日々、神様の恵みの中で大いに喜びを受けましょう。
3. 礼拝参加とクリスチャン同士の交流のために、信仰の共同体に加わりましょう。小グループへの参加が必要となるかもしれません。小グループがない場合には、あなたが始めるか、リードしてみましょう。
4. あなた自身の霊的な歩みについて、人々に語り、人々の声に耳を傾けましょう。あなた自身が今どの場所において、何を心地よく感じて、何を变えたいと思っているかを言葉にして言い表すように実践しましょう。共に励まし、共に調べ、共に驚き、共に挑戦し、共に忍耐し、互いに質問し、共感し、希望し、良く祈りましょう。
5. あなたに与えられている霊的賜物を用いて、他者に仕えましょう。神様があなたにお与えになった賜物が何であるかを発見するために、また何に喜びを感じ、何に適性があるかを調べて

みる必要があるかもしれません。これには、教会の内外での奉仕が有効です。明らかな霊的奉仕だけでなく、霊的奉仕以外の分野もあるかもしれません。

6. あなたの信仰を、学校での過ごし方や、家庭でのふるまい、友だちとの関係など、ふだんの生活の中でどう生かすのかを考え、やってみて、振り返ってみましょう。「教会用」「それ以外用」と分けるような生き方をやめ、どこにいても同じあなたでいる生き方を選びましょう。
7. 若い頃にはある程度までしか理解できなかった信仰の要素が、成長や発達とともに、新しく、さらに深い方法で再考し、理解し、適用できるようになることがあります。そのような事柄を大事にし、さらに学びを深めましょう。
8. 日毎に「悔い改め」と「赦し」を実践しましょう。これらは神様によってしか与えられない賜物であり、あなたの生活と人間関係に適用させることのできるものとなります。優しい言葉で語り、謙遜な態度を通して、人々と関わるように祈り求めましょう。
9. メンターとメンティーは定期的に、積極的に共に過ごすための時間を聖別します。これは日毎、週毎、あるいは月毎で、あなたの生活のリズムに従ってなされるべきです。教会での交流や、偶然一緒になった、などの機会とは別に行うようにします。
10. メンターは主導権をもって関係づくりを始めるべきですが、関係が深まるにつれて、双方のやり取りを大切にし、対話と傾聴、支援と挑戦が行き交う関係を意識的につくっていきます。